商品のお問い合わせに関して

— 本機に関する初期導入などよく使われる機能に関する取扱い方法 —

- 新製品などの商品選びのご相談
- 初期導入／各種ケーブルの接続などのご相談
- リモコン設定／時刻合わせ等の基本的な設定
- 内蔵チューナーのチャンネル設定
- 電子番組表 (ADAMS) の設定
- 録画／再生／削除等の基本操作

注）ネットワーク接続設定を除きます。

上記についてのお問い合わせは

『東芝 DVD インフォメーションセンター』

（一般回線からのご利用は）フリーダイヤル（通話料無料） **0120-96-3755**
（フリーダイヤルは携帯電話・PHS など一部の電話ではご利用になれません）

（携帯電話からのご利用は）ナビダイヤル（通話料有料） **0570-00-3755**
（PHS・一部の IP 電話などでは、ご利用になれない場合がございます）

月～土　10:00 ～ 20:00（年末年始、当社指定夏季休業日等を除く）
日曜日・祝日　10:00 ～ 16:00（年末年始、当社指定夏季休業日等を除く）

— 本機に関する編集やネットワークなどの高度な取扱い方法 —

- ネットワークに関してのご相談
- 録画／編集などの高度な操作について
- その他の RD ／ AK シリーズの機能に関してのご相談

上記についてのお問い合わせは

『RD シリーズサポートダイヤル』

ナビダイヤル（通話料有料） **0570-00-0233**
（PHS・一部の IP 電話などでは、ご利用になれない場合がございます）

月～土　10:00 ～ 18:00（年末年始、当社指定夏季休業日等を除く）
日曜日・祝日　10:00 ～ 16:00（年末年始、当社指定夏季休業日等を除く）
（12:30 ～ 13:30 は休止）

■ホームページ上によくあるお問い合わせ情報を掲載しておりますのでご利用ください。
また、番組データ提供に関する情報、メンテナンス情報やトラブル情報につきましても、お問い合わせの前に、以下のホームページをご確認ください。
『http://www3.toshiba.co.jp/hdd-dvd/support/』

●「東芝 DVD インフォメーションセンター」「RD シリーズサポートダイヤル」は株式会社東芝デジタルメディアネットワーク社が運営しております。
●お客様からご提供いただいた個人情報は、ご相談への回答、カタログ発送などの情報提供に利用いたします。
●東芝グループ会社もしくは協力会社より対応させていただくことが適切と判断される場合に、お客様の個人情報を提供することがあります。

株式会社東芝
デジタルメディアネットワーク社
〒105−8001　東京都港区芝浦1−1−1
＊所在地は変更になることがありますのでご了承ください。

79101478
ⒽPM0023561012

東芝 HDD&DVD ビデオレコーダー　取扱説明書
RD-X6

TOSHIBA

東芝 HDD&DVD ビデオレコーダー取扱説明書

形名 RD-X6

▶ 応用編
ネットワーク／その他情報

安全上のご注意

●ご使用の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
●ここに示した注意事項は、安全に関する重大な内容を記載していますので必ず守ってください。
●表示と意味は次のようになっています。

■ 表示の説明

表示	表示の意味
⚠ 警告	“取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷(*1)を負うことが想定されること”を示します。
⚠ 注意	“取扱いを誤った場合、使用者が傷害（*2）を負うことが想定されるか、または物的損害（*3）の発生が想定されること” を示します。

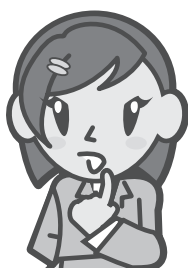
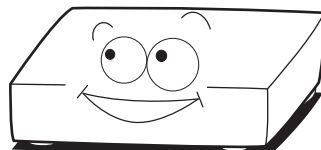
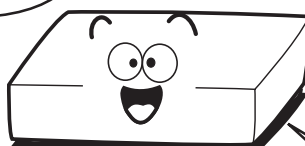
*1： 重傷とは、失明やけが、やけど（高温・低温）、感電、骨折、中毒などで、後遺症が残るものおよび治療に入院・長期の通院を要するものをさします。
*2： 傷害とは、治療に入院や長期の通院を要さないけが・やけど・感電などをさします。
*3： 物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペット等にかかわる拡大損害をさします。

■ 図記号の例

図記号	図記号の意味
⃠ 禁止	“⃠” は、**禁止**（してはいけないこと）を示します。 具体的な禁止内容は、図記号の中や近くに絵や文章で示します。
● 指示	“●” は、**指示**する行為の強制（必ずすること）を示します。 具体的な指示内容は、図記号の中や近くに絵や文章で示します。
△ 注意	“△” は、**注意**を示します。 具体的な注意内容は、図記号の中や近くに絵や文章で示します。

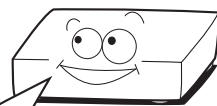
取扱説明書（接続・設定編）の安全上のご注意を必ずお読みください。

はじめに

本書は、RD-X6 本体とパソコンを接続してご使用になれる「ネット de ナビ」機能と、その他の RD-X6 をさらに使いこなしていただくための参考情報をご紹介するガイドブックです。

- 意匠、仕様などは改良のため予告なく変更することがあります。
- 本書に描かれているイラスト、画面表示などは見やすくするために誇張、省略があり実際とは異なる場合があります。
- 本書で説明しているイラスト、画面表示などは、例として表示してあります。

もくじ

ネットdeナビの機能と設定について

ネットdeナビを使うには、何が必要なの？
ネットdeナビで何ができるのかな？

LANで本機と接続できるパソコンが必要です。
本機の操作や設定などをWeb画面で行なえる機能です。
インターネットに常時接続できる環境であれば、eメールを利用して外出先などから予約録画をすることもできます。

ネットdeナビのおもな特長

■パソコンで録画予約／修正

本体の録画予約をパソコンから設定・変更する機能です。
パソコンからインターネットの番組表を利用して、録画予約ができます。（iEPG予約）

■パソコンでタイトル編集

本体の「見るナビ」のように、内蔵HDDやDVD-RAM/R/RWに録画した内容を一覧表示する機能です。タイトル名やチャプター名、ジャンル、番組説明など、タイトル情報全般を変更できます。
ただし、本機以外で録画したDVD-R/RWは表示、変更はできないほか、ファイナライズ済みのDVD-R/RWは表示だけで変更はできません。また、番組説明はDVD-R/RWでは記録できません。

■パソコンでライブラリ確認

本体の「ライブラリ」情報を表示、並べ替えする機能です。本体に記憶されているディスク番号、録画日時、タイトル名、ジャンルなど、タイトルごとの情報を利用して、見たいディスクや空きのあるDVD-RAMなどが探せます。

■パソコンから DVD-Video メニュー用背景を登録

パソコンから本体に好きな画像を登録して、DVD-Video作成時のメニューの背景として利用できます。

■e メールで録画予約

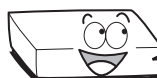
外出先などからeメールで録画予約ができます。

■パソコンから本体操作

パソコンから本体を操作する機能です。

■番組情報の自動取得

タイトル名や番組説明をインターネットから自動取得する機能です。
予約名や番組説明を入力しなくても、予約録画後には番組のタイトル名や番組説明が表示されます。
この機能のサービスは、一時的に停止したり、サービス自体が終了される場合があります。

■ネット de ナビの設定の流れ

インターネット常時接続のパソコンと接続してネットdeナビを使う場合の設定です。

ネットdeナビの動作環境、制限事項や免責事項をお読みいただき、理解および同意をする

▼

内容を理解し同意した！

▼

ネットdeナビのパソコンとの接続や設定については ➩「ネット接続設定」（7ページ～）の説明をご覧ください。

▼

パソコンとの接続を行なう

▼

イーサネット設定を行なう

▼

ネットdeナビを起動する

▼

ネットdeナビ設定を行なう

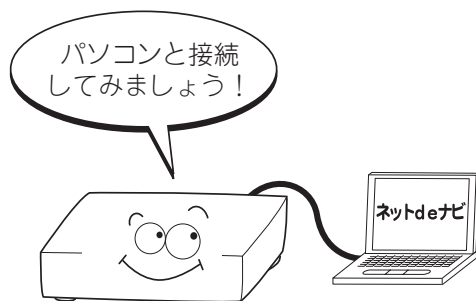
▼

必要な場合、チャンネル名を設定する **（➩24ページ）**

▼

ネットdeナビを使ってみましょう！

つかいこなしのポイント！

ネットdeナビをお使いになる場合は、インターネット常時接続のパソコンと接続するのがおススメです！

ネット接続設定

パソコンで本機を操作するための接続や設定を説明します。

●動作環境について

●制限事項と免責事項

●パソコンとの接続（概要）

● LAN 端子の接続

●イーサネット設定をする

●通信接続方法を選択する

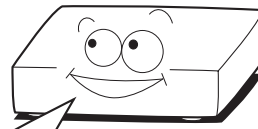
●パソコンの設定をする

●ネット de ナビを起動する

●ネット de ナビ設定をする

●ネット機能設定ガイド

動作環境について

ネットdeナビには、どんなパソコンやOSが対応しているの？

本機は、IEEE（米国電気電子技術者協会）802.3規格に準拠しています。ネットdeナビ機能をお使いいただくためには、以下の環境が必要です。パソコンを接続する前にお確かめください。

パソコン

OS：Windows® 2000 ／ XP
Mac OS X(10.4)
カラーモニター：16ビットカラー以上、800×600ドット以上
必要なデバイス：LANポート（100Base-TX ／ 10Base-T）

WWW ブラウザ

Windows® の場合：Internet Explorer 6.0
Mac OSの場合：　Safari 2.0.1
上記バージョン以降については、すべての動作を保証するものではありません。

ネットdeナビの機能を使うには、Java VM Ver.1.5(Mac OSは1.4.2)がインストールされている必要があります。最新のJava VMを入手するには、米国Sun Microsystems, Inc.のhttp://java.com/ja/のサイトでご確認ください。
ネット de ナビの機能「ネット de モニター」を使うには、QuickTime Ver.7.0.2 がインストールされている必要があります。QuickTimeを入手するには、Apple Computer, Inc. のサイト http://www.apple.co.jp/quicktime/download/ でご確認ください。
（2005年9月現在）

つかいこなしのポイント！

「動作環境について」と「制限事項と免責事項」（➡ 9 ページ）をよくお読みいただき、ご理解いただいた上でネットdeナビをお使いください。

ネットワーク接続環境

ブロードバンド常時接続の環境。

お知らせ
- 動作環境は、予告なく変更される場合があります。また、すべての動作を保証するものではありません。
- 本機に関する最新情報は、当社ホームページでご確認ください。（http://www3.toshiba.co.jp/hdd-dvd/support/）
- パソコンやWWWブラウザの上記以降のバージョンについてお使いいただけるかは「RDシリーズサポートダイヤル」（➡裏表紙）にお問い合わせください。

用語と商標について

- Microsoft、Windows、Internet Explorer は米国マイクロソフト社の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
  Windows® 2000...Microsoft® Windows® 2000 Professional operating system Service Pack4 (SP4)日本語版
  Windows® XP...Microsoft® Windows® XP operating system 日本語版
- Windowsの正式名称は、Microsoft Windows Operating Systemです。
- Macintosh、Mac、Safari、QuickTimeは、米国および他の国々で登録されたApple Computer, Incの商標です。
- 本書に掲載の商品の名称は、それぞれ各社が商標および登録商標として使用している場合があります。
- Javaおよびすべての Java関連の商標およびロゴは、米国およびその他の国における米国Sun Microsystems, Inc.の商標または登録商標です。

制限事項と免責事項

制限事項

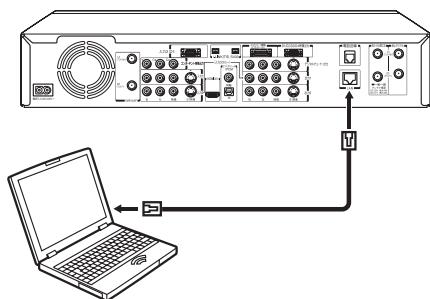
- 本機能は、本機が動作状態のときにだけ使用できます(電源待機状態からのメール予約確認機能は除く)。
  また、本機能で本体側の電源を入にすることはできません。(「録画予約機能」を設定した場合を除く。)
- 本機能は、パソコン上で録画予約を設定・変更したり、タイトル名・チャプター名・番組情報等のテキスト情報の編集や各種設定の変更、サムネイル表示、DVD-Videoメニューの背景データの取込みはできますが、それ以外の情報の取得や変更、追加はできません。
- LANケーブル(クロスケーブル)は、本機とパソコンを直接接続する場合に使用します。ハブやルータとの接続には別途、LANケーブル(ストレートケーブル)をご用意ください。
- 動作環境
  1. OS（オペレーティングシステム）:
     Windows® 2000、Windows® XP（日本語版）
     Mac OS X(10.4)（日本語版）
  2. DOS/V互換パソコンまたはMacintoshコンピュータ(LANコネクタが必要)（市販品）
  3. WWWブラウザ(Windows®):Internet Explorer(対応バージョンについては、8ページをご覧ください。)
     WWWブラウザ(Mac OS)：Safari（対応バージョンについては、8ページをご覧ください。)
- 「iEPG予約機能」、「メール予約機能」、「携帯メール予約機能」をご使用になる場合にはあわせて以下の環境が必要です。
  4. インターネット常時接続環境(ブロードバンド接続必須)
  5. 設置場所からパソコンで送受信可能なeメールアカウント(POP サーバーおよびSMTP サーバーを使用したサービス)
  6. ハブ機能を持ったブロードバンドルーター（DHCP機能搭載を推奨)
- 有線のLAN接続が家庭の環境で困難な場合
  7. 無線LANアクセスポイントと本機につなぐ無線LANイーサネットアダプタ(市販品)
- 動作環境にすべて合致していても正常に動作しない場合や、何らかの不具合が発生することがあります。すべての環境での動作を保証するものではありません。
- 本機の通信機能は、米国電気電子技術協会IEEE802.3に準拠しています。
- 本機とパソコン間の通信状態によっては、表示が遅くなったり、表示や通信にエラーが発生する場合があります。
- プロバイダ(インターネット接続事業者) 側の設定や制限によっては、本機能の一部が使用できない場合があります。
- 電話通信事業者およびプロバイダとの契約費用および通信に使用される通信費用は、お客様ご自身でお支払いください(携帯電話によるメール予約の送受信の費用も含む)。
  なお、プロバイダ指定の回線接続機器(ADSLモデムなど)に10BASE-Tまたは、100BASE-TXのLANポートがない場合は接続できません。
- ADSLでご利用いただくには、ADSLモデムが必要です。通信事業者やプロバイダが採用している接続方式・契約借款などによって、本製品をご利用いただけない場合や同時接続する台数に制限や条件がある場合があります。(契約が一台に制限される場合、すでに接続されているパソコンがあると、本機を二台目として接続することが認められていないことがあります)
- プロバイダによってはルータの使用を禁止あるいは制限している場合があります。
  詳しくはご契約のプロバイダにお問い合わせください。
- 「メール予約機能」、「携帯メール予約機能」をご利用になるには、POP3またはAPOPに対応したご家庭から接続可能なeメールのアカウントが別途必要です。携帯電話などのメールアドレスのように、ご家庭のパソコンからアクセスできないeメールのアカウントはご利用になれません。
  本機が同ネットワーク経由でインターネットプロバイダのメールサーバーにアクセスできるよう、常時接続されている必要があります。なお、本機とメールサーバーとの接続に際し、パソコンの電源を入れておく必要はありませんが、パソコン側で自動的にメールサーバーからメールを受信してサーバー側のメールを受信時に削除されるように設定している場合、本機で予約メールを受信する前に消えることがありますので、サーバーにコピーを残すなどの設定変更が必要です。
- 携帯電話からのメール予約には、インターネットメールを使用してください。ショートメールのような携帯電話間だけのメール機能では使用できません。
- ポータルサイトのwebメール(POP3対応していない)はメール予約の設定には使用できません(録画予約完了通知のアドレスには設定できます)。
- ブロードバンド常時接続のパソコンと接続する場合は、カテゴリー5と表示された10BASE-T/100BASE-TXのLANケーブルをご使用ください。
  直接本機とパソコンを接続する場合は、市販のクロスケーブルをご使用ください。
- セキュリティソフトウェア自体やその設定によっては、本機能の一部が使用できない場合があります。

免責事項

- 本機能によって接続した機器に通信障害等の不具合が生じた場合の結果について、当社は一切の責任を負いません。
- お客様の居住環境が、ブロードバンド常時接続にできない場合、当社は一切責任を負いません。
- 火災、地震などの自然災害、第三者による行為、その他の事故、お客様の故意または過失、誤用、その他異常な条件下での使用によって生じた障害に関して、当社は一切の責任を負いません。
- 本機能の使用または使用不能から生ずる付随的な障害(事業利益の損失、事業の中断、記録内容の変化・消失、インターネット契約料金・通信費用の損失など)に関して、当社は一切責任を負いません。
- 取扱説明書および本書の記載内容を守らないことによって生じた損害に関して、当社は一切責任を負いません。
- 接続した機器、使用されるソフトウェアとの組み合わせによる誤動作や、ハングアップなどから生じた損害に関して、当社は一切責任を負いません。
- 本機能を使用中、万一何らかの不具合によって、録画・録音・編集されなかった場合の内容の補償および付随的な損害(事業利益の損失、事業の中断など)に対して、当社は一切の責任を負いません。
- インターネットを使用して提供されるサービスは、予告なく一時停止したり、サービス自体が終了される場合がありますので、あらかじめご了承ください。

パソコンとの接続（概要）

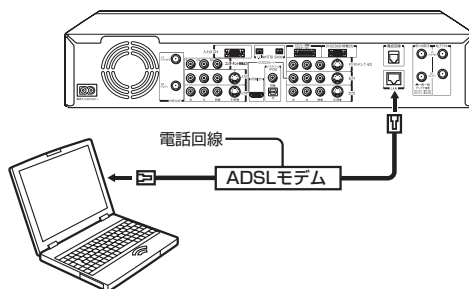
パソコンと接続するためには、LAN 接続できるパソコンが必要です。
接続には、大きく分けてパソコンと直接接続する方法と、インターネット常時接続のパソコンと接続する方法があります。それぞれの接続の方法で使える機能が異なります。

パソコンと直接接続する

■ パソコンから以下のことができます。

- 録画予約と変更
- おまかせ自動録画の設定
- タイトル情報の編集（タイトル一覧／サムネイル一覧）
- ライブラリの確認（ライブラリ）
- メニューテーマの設定（Video 作成ツール）
- 本体操作(ネットdeリモコン、ネットdeモニター)
- フォルダ設定
- キーワード設定

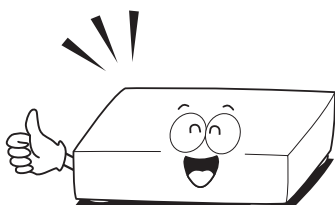
以下の設定が必要です

① LAN 端子の接続（➡11 ページ）
② イーサネット設定をする（➡12 ページ）
③ パソコンの設定をする（➡15 ページ）
④ ネット de ナビを起動する（➡16 ページ）

インターネット常時接続のパソコンと接続する

■ パソコンで以下のことができます。

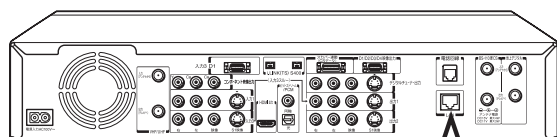
- 録画予約と変更
- おまかせ自動録画の設定
- タイトル情報の編集（タイトル一覧／サムネイル一覧）
- ライブラリの確認（ライブラリ）
- メニューテーマの設定（Video 作成ツール）
- iEPG で録画予約
- 本体操作(ネットdeリモコン、ネットdeモニター)
- 予約名と番組情報のオンライン取得と自動更新
- フォルダ設定
- キーワード設定

以下の設定が必要です

① LAN 端子の接続（➡11 ページ）
② イーサネット設定をする（➡12 ページ）
③ ネット de ナビを起動する（➡16 ページ）
④ ネットdeナビ設定をする(➡17ページ)
⑤ チャンネル名を設定する（➡24ページ）

本機をインターネット常時接続のパソコンと接続すれば「ネットdeナビ」の機能を最大限に活用できます。

1 LAN端子の接続

本体背面

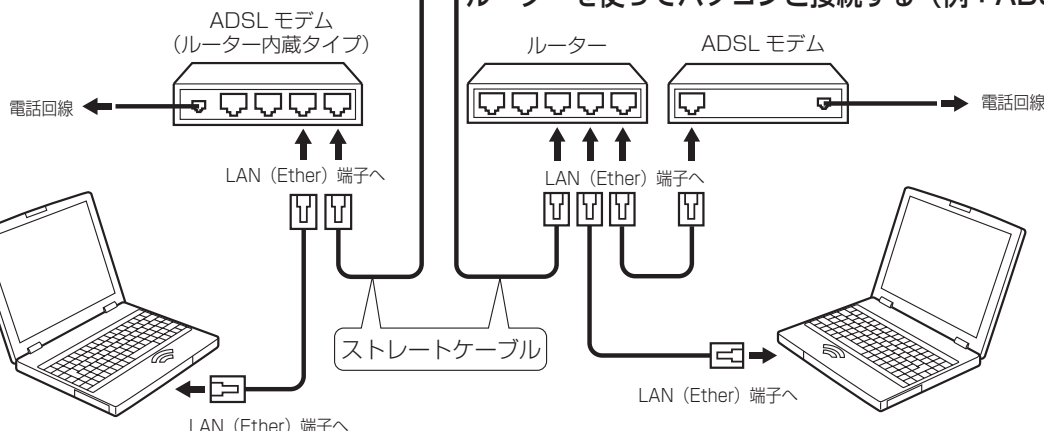
LAN

使用ケーブルについて

・直接本機と接続する場合は LAN クロスケーブルをお使いください。
・ルーターを使って接続する場合は LAN ストレートケーブル（カテゴリ5/CAT5）をお使いください。

直接パソコンと接続する

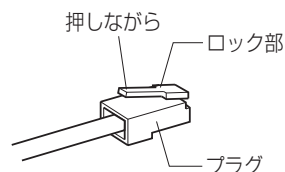
LAN 端子へ
クロスケーブル
LAN（Ether）端子へ

ルーターを使ってパソコンと接続する（例：ADSL）

ADSL モデム（ルーター内蔵タイプ）
ルーター
ADSL モデム
電話回線
電話回線
LAN（Ether）端子へ
LAN（Ether）端子へ
ストレートケーブル
LAN（Ether）端子へ
LAN（Ether）端子へ

※「番組ナビ」での ADSL モデム（ルータータイプなど）の接続は上記の「ルーターを使ってパソコンと接続する」をご参照ください。その際、パソコンと本機との接続は不要です。ただし、プロキシサーバーの設定が必要な場合、パソコンによる追加設定が必要となります。(➡12、13 ページ)

※「編集ナビ」での「ネット de ダビング」の対応機器と同一ネットワーク内で接続するときは上記の「ルーターを使ってパソコンと接続する」をご参照ください。(パソコンを対応機器に置き換えて接続します。) その際、パソコンと本機との接続は不要です。ただし、プロキシサーバーの設定が必要な場合、パソコンによる追加設定が必要となります。(➡12、13 ページ)
本機と直接対応機器を接続するときは、「直接パソコンと接続する」をご参照ください。(パソコンを対応機器に置き換えて接続します。)

ご注意

・LAN ケーブルの抜き差しをするときは、本機とパソコンの電源を切ってください。
・LAN ケーブルの抜き差しは、プラグを持って行なってください。
　抜くときは、LAN ケーブルを引っ張らず、ロック部を押しながら抜いてください。
・LAN 端子に電話のモジュラーケーブルを接続しないでください。
・CATV インターネット、B フレッツ等も使用できますが、さまざまな接続形態がありますので回線業者やプロバイダの指示に従ってください。

お知らせ

・プロバイダによって、インターネットに接続できる機器の台数が制限されている場合があります。詳しくはご契約のプロバイダにお問い合わせください。

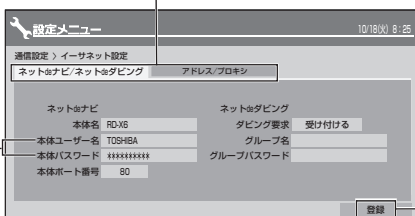
イーサネット設定をする

準備

①「簡単メニュー」画面から、「設定メニュー」を表示する。
②「通信設定」→「イーサネット設定」の順に選択、決定する。

例：本機の表示画面

タブを選択して画面を切り換えます

不正なアクセスなどを防ぐため、「本体ユーザー名」と「本体パスワード」を必ず入力する必要があります。ユーザー名とパスワードは、他人に知られたり、容易に推測されないような、お客様独自のものにしてください。
これらの入力をしないと、設定を完了できません。

1 下の表と次のページの表にしたがって、「ネットdeナビ／ネットdeダビング」画面と「アドレス／プロキシ」画面の各項目を設定する

2 設定が終わったら「登録」を選び 決定 を押す

設定項目（ネット de ナビ／ネット de ダビング画面）

■ ネット de ナビ設定

項目	設定値	説明
本体名	半角英数字記号 15 文字以内	通常は設定を変える必要はありません。本機を複数台接続する場合は、それぞれ本体ごとに変更してください。
本体ユーザー名	半角英数字記号 16 文字以内	パソコンから本機にアクセスするための ID です。 他人に知られたり、容易に推測されないような、お客様独自のものにしてください。（避けた方がよい例：ご自身やご家族の名前、電話番号、誕生日、住所の地番、車のナンバー、同じ数字や記号の単純な並び など）
本体パスワード	半角英数字記号 16 文字以内	パソコンから本機にアクセスするためのパスワードです。 他人に知られたり、容易に推測されないような、お客様独自のものにしてください。（避けた方がよい例：ご自身やご家族の名前、電話番号、誕生日、住所の地番、車のナンバー、同じ数字や記号の単純な並び など） パスワードを入力すると「＊」で表示されます。 パスワードを忘れたときは、新たなパスワードを入力し、設定してください。
本体ポート番号	80	通常は設定を変える必要はありません。うまく接続できないときや、機能の一部が働かないときに、2000 ～ 10000 の間で変更します。

■ ネット de ダビング設定

項目	設定値	説明
ダビング要求	受け付ける	東芝 HDD&DVD ビデオレコーダーを複数台ネットに接続して相互ダビングするときに選びます。
	受け付けない	ネットを通してのダビングを許可しません。
グループ名	例：TOSHIBA	複数台をネットに接続しているときのグループ名を設定します。
グループパスワード		グループ名を設定したときに、パスワードを設定します。

■ネット de ダビングの設定についての重要なお知らせ

すでにお持ちの RD シリーズ（ネット de ダビング対応の従来モデル）とネット de ダビングするときは、両方のグループ名とパスワードを一致させないと、相互にダビングすることが出来なくなりますので、本機能をご利用になる機器は、すべて同一のグループ名とグループパスワードに設定してください。
従来モデル※1 のグループ名とグループパスワードは、初期設定がいずれも半角の大文字で、「TOSHIBA」となっています。お客様がこの初期設定のまま従来モデルをお使いの場合、本機に「TOSHIBA」を設定してご使用いただくこともできますが、不正なアクセスなどを防ぐためにも、従来モデルの「ネット de ナビ」画面（パソコン上）で「本体設定」※2 を開き、「ネット de ダビングの設定」を、本機で新たに設定したグループ名とグループパスワードに変更していただくことを強く推奨いたします。

※ 1 ネット de ダビング対応従来モデル
RD-XS43、RD-XS53、RD-XS24、RD-XS34、RD-XS36、RD-XS46、RD-X5、RD-H1、RD-Z1、RD-XS37、RD-XS57
※ 2 RD-Z1、RD-XS37、RD-XS57 では「ネット de ナビ設定」となります。

設定項目（アドレス／プロキシ画面）

■パソコンと直接接続した場合（15 ページのパソコン側の設定もご覧ください。）

※「編集ナビ」での「ネットdeダビング」の直接対応機器と本機を接続するときの「アドレス／プロキシ」設定も、パソコンを対応機器に置き換えて設定してください。

DHCP	使わない	ネットワークの情報を手動で設定します。
IPアドレス	パソコンの IP アドレスが 192.168.1.10 の場合 例：192.168.1.15	本機と接続するパソコンと同じサブネット内の異なるアドレスを設定します。
サブネットマスク	例：255.255.255.0	接続するネットワーク環境のサブネットマスクを設定します。
デフォルトゲートウェイ	例：192.168.1.1	本機がゲートウェイを使う場合に設定します。
DNSサーバー	例：192.168.1.1	本機が DNS を使う場合に設定します。
プロキシサーバー	（設定不要）	設定は不要です。（設定しても無視されます。）
プロキシポート	（設定不要）	設定は不要です。（設定しても無視されます。）
MACアドレス	（設定不可）	各本体ごとに決められている MAC アドレスを表示しています。 変更はできません。
接続確認※		本機と接続したパソコンに接続されているか確認します。 注：「接続確認」を押して DNS サーバーに関するメッセージが表示される場合は無視してください。

※「接続確認」を押すと「アドレス／プロキシ」画面で変更した項目が保存され、保存前の設定に戻せなくなります。念のため設定内容を書き留めておくことをお勧めします。

お知らせ
・IP アドレスは、プライベート IP アドレスが設定できます。（例：192.168.1.1 ～ 192.168.1.254）

■インターネット常時接続のパソコンとルーター経由で直接接続した場合

※「編集ナビ」での「ネット de ダビング」の対応機器と同一ネットワーク内で接続するときの「アドレス／プロキシ」設定も、パソコンを対応機器に置き換えて設定してください。

DHCP	使う	ネットワークの情報を自動的に取得します。
IPアドレス	（設定不要）	DHCP サーバーから取得した IP アドレスが表示されます。
サブネットマスク	（設定不要）	DHCP サーバーから取得したサブネットマスクが表示されます。
デフォルトゲートウェイ	（設定不要）	DHCP サーバーから取得したデフォルトゲートウェイが表示されます。
DNSサーバー	自動取得「使う」	「使う」を選ぶと DHCP サーバーから自動的に DNS サーバーアドレスが取得されます。
	自動取得「使わない」	DNS サーバーアドレスを手動で入力します。詳しくは「ネット de ナビ　オンラインヘルプ」をご覧ください。
プロキシサーバー	半角英数字記号 32 文字以内	使用しているプロバイダでプロキシ設定が必要な場合に、そのプロキシサーバーのアドレスを設定します。
プロキシポート	80	通常は設定を変える必要はありません。変更が必要なときだけ、1 ～ 65535 の間で設定します。
MACアドレス	（設定不可）	各本体ごとに決められている MAC アドレスを表示しています。 変更はできません。
接続確認※		本機がルーターと問題なく接続されているか確認します。

※「接続確認」を押すと「アドレス／プロキシ」画面で変更した項目が保存され、保存前の設定に戻せなくなります。念のため設定内容を書き留めておくことをお勧めします。

お知らせ
・ルーターの DHCP 機能がうまく働かない場合（その場合デフォルトゲートウェイ、DNS サーバーの IP アドレスが取得できずエラーになります。）は、ルーターのメーカーにお問い合わせください。

通信接続方法を選択する

地上デジタル放送での双方向通信サービスなどを、イーサネット通信を使って行なうための設定をします。
これらの通信を使用するには、あらかじめインターネットサービスプロバイダなどとの契約が必要です。

準備

①「簡単メニュー」画面から、「設定メニュー」を表示する。
②「通信設定」→「通信接続方法選択」の順に選択、決定する。

例：本機の表示画面

1 通信接続方法を選び 決定 を押す

イーサネット： ADSL などブロードバンドのみで契約し、接続設定・設定しているとき

イーサネット優先： この設定ではイーサネットが優先されます。
ただし、データ放送でダイヤルアップを指定する特殊なコンテンツの場合はダイヤルアップ接続に切り換わります。（「電話回線の接続」（接続・設定編23 ページ～）が行なわれていない場合には、ダイヤルアップでの通信は行なわれません。）

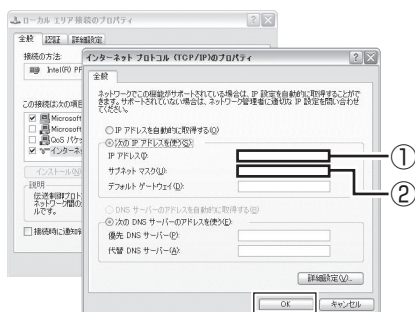
・設定が終わったら、終了 を押して終了します。

お知らせ

- 通常は、「イーサネット優先」に設定してください。「イーサネット」に設定すると、ダイヤルアップ通信を指定しているデータ放送などは行なえません。
- 「イーサネット優先」に設定した場合、何らかの原因（ADSL モデムの故障など）でイーサネット通信ができないときにはダイヤルアップ通信もできなくなる場合があります。
- 実際に接続・設定している環境と異なる項目を選ぶと正常にはたらきません。

1 パソコンの設定をする

パソコン側の設定は、OS の種類によって異なりますので、詳しくはパソコンの取扱説明書をご覧ください。ここでは、Windows® XP を例に説明しています。

パソコンの設定をする（直接パソコンと接続している場合）

1 「コントロールパネル」→「ネットワーク接続」→「ローカルエリア接続」の「プロパティ」をクリック→「インターネットプロトコル（TCP/IP)」の「プロパティ」をクリックする

「次の IP アドレスを使う」を選び、IP アドレスとサブネットマスクを設定します。
これらの設定をする前に、すでに値が設定されているときには、設定を戻せるようにその内容を記録しておくことをお勧めします。

①「IP アドレス」：
192.168.1.10 を設定します。
（本体の IP アドレスとは異なるアドレスを設定します）

②「サブネットマスク」：
255.255.255.0 に設定します。

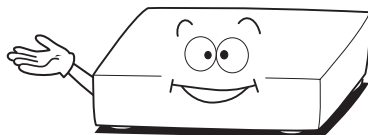
2 画面の「OK」をクリックする

「OK」をクリックしたあとは、パソコンの指示にしたがってください。
パソコンを再起動する場合もあります。

次に「ネット de ナビを起動する」➡ 16 ページに進んでください。

パソコンの設定をする（インターネット常時接続のパソコンと接続している場合）

インターネットと常時接続されているパソコンの場合は、通常「DHCP を使う」（IP アドレスを自動的に取得）になっていますので、パソコン側の設定を変更する必要はありません。
もし、「ネット de ナビ」が起動しないときは、パソコンの「TCP/IP のプロパティ」の設定に合わせて、本機の設定を変更してください。

インターネット常時接続しているパソコンと本機を接続した場合は、パソコン側の設定は必要ありません。
➡16ページに進んでください。

お知らせ

- インターネットに接続している場合、IP アドレスを指定すると接続できなくなることがあります。インターネットに接続するときは、設定を元に戻してください。
- Mac OS X の場合は、「アップルマーク」→「システム環境設定」→「ネットワーク」→「TCP/IP」を開き、設定方法を「手入力」にし、IP アドレスとサブネットマスクを入力します。

ネットdeナビを起動する

本機をパソコンで設定／操作するためのネット de ナビを起動します。
ここでは、Windows® XP を例に説明しています。

例：パソコン上の画面

ヘルプ をクリックすると、ヘルプ画面が表示されます。

1 パソコンでネットdeナビ対応のブラウザを起動する

- 本取扱説明書では、Windows® の Internet Explorer を例にしています。
- ブラウザ上の「戻る」ボタンを使うと、設定や表示が正しく行なわれない場合があります。

2 アドレスにhttp://RD-X6（お手持ちの機種名にあわせてください）を入力し、パソコンのENTER を押す

MAC OS X の場合や、本体名を入れたアドレスでアクセスできない場合は、簡単メニュー から「設定メニュー」を表示し、「通信設定」の「イーサネット設定」画面（12、13 ページ）で設定されている本体の IP アドレスを本体名の代わりに入力します。
（例：http://192.168.1.15/）

アドレスを入力すると、本機のイーサネット設定で設定した「本体ユーザー名」と「本体パスワード」を入力する画面が表示されますので、それぞれ入力してください。入力後、メインメニューが表示されます。
対応ブラウザでお気に入りやブックマークに登録する場合は、このときに行なってください。

3-A パソコンと直接接続している場合：メインメニューから使いたい機能をクリックする

22 ページ「番組の録画予約をする（録画予約）」以降の説明をご覧になり、各機能をお使いください。

3-B インターネット常時接続のパソコンと接続している場合：メインメニューから「ネットdeナビ設定」をクリックする

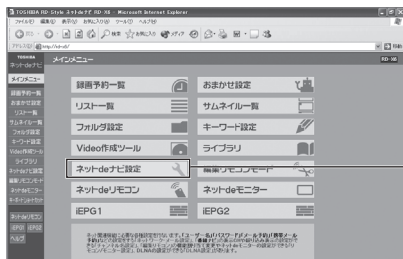
次ページ以降の説明をご覧になり、設定をしてください。

お知らせ

- ルーターによっては、DHCP によって割り振られる IP アドレスが頻繁に変わる場合があります。
- ルーターの管理ソフトウェアで、本機の IP アドレスを確認するには、本機の「イーサネット設定」（12 ページ）の「アドレス／プロキシ」画面に表示されている MAC アドレスから、割り振られた IP アドレスを探してください。
- 「イーサネット設定」の「本体ポート番号」を「80」以外の値に設定している場合は、本体名または IP アドレスの後ろに「:ポート番号」を入力します。（例 機種が RD-X6 で本体ポート番号を 2000 にした場合：http://RD-X6:2000/）
- プロキシ設定が行なわれていると、アクセスできない場合があります。12、13 ページをご覧ください。
- 本体側が動作中のときは、ネット de ナビが操作できても設定できない場合があります。

ネットdeナビ設定をする

本体のネット de ナビの機能（iEPG など）を設定します。

例：パソコン上の画面

1 メインメニューの「ネットdeナビ設定」をクリックする

2 設定する項目をクリックし、値を選ぶかデータを入力する

設定する内容は、17 ～ 19 ページをご覧ください。

3 設定が終わったら、「登録」をクリックする

設定した内容が登録されます。

お知らせ

- パソコンに初めて接続するときなど、接続先の環境が変わる場合は、本体の「イーサネット設定」（12 ページ）をやり直してください。

■ 番組情報サイトの設定

録画予約ページアドレス 1 (iEPGサイト)	tvsurf.jp/tv/	iEPGサイトを設定します。*1 半角英数字63文字以内で入力します。
録画予約ページアドレス 2 (iEPGサイト)		iEPGサイトを設定します。*1 半角英数字63文字以内で入力します。
番組情報取得アドレス（専用サイト）	tvsurf.jp	予約名や番組説明を取得するサイトを設定します。 iEPG予約時に取得する予約名と番組情報の一致に関しては、保証はしておりません。
番組情報設定（iEPG）	番組説明優先	番組説明の情報を優先します。
	出演者優先	出演者の情報を優先します。
番組情報の更新設定	両方強制	予約名、番組説明ともに、手動で入力してあっても、強制的に更新します。*2
	番組説明強制	手動で番組説明が入力してあっても、強制的に最新の番組説明に更新されます。*2
	予約名強制	手動で予約名を変更してあった場合でも、強制的に最新の番組名に更新されます。*2
	通常	推奨設定です。空欄の番組名も番組説明も自動的に入力・更新されます。

・本機の動作状態によっては、録画予約されない場合があります。
・番組表から予約し、未修正の予約情報 (予約名、番組説明、ジャンル) は、上記設定に関わらず更新します。また、空白の場合も更新します。
・ジャンルを指定しないで録画した場合も録画終了時に自動的に更新されます。

*1 iEPG 録画予約ができる番組表サービスのサイトは、「ネット de ナビ」のヘルプ [ヘルプ] をご覧ください。
*2 DEPG（ADAMS、iNET）使用時は、録画時以外にも一日 1 ～ 2 回不定期で番組情報を更新します。

■ メール録画予約機能の設定

メール録画予約機能	使用しない	メール録画予約機能を使いません。
	使用する	メール録画予約機能を使います。
メール予約パスワード	例：rdstyle	予約メールとして判別するために、6 文字以上 20 文字以内で半角英数字を設定します。記号が含まれているとエラーが起こり、メール録画予約はできません。
POP3 サーバアドレス	例：XXX.XXX.ne.jp	POP3 サーバーのアドレスを設定します。（半角英数字 63 文字以内）
POP3 ユーザー名		POP3 サーバーにアクセスするときのユーザー名を設定します。半角英数字 63 文字以内で入力します。
POP3 パスワード		POP3 サーバーにアクセスするときのパスワードを設定します。半角英数字 16 文字以内で入力します。
APOP	使用する	APOP を使います。
	使用しない	APOP を使いません。
電源ON時の POP3 アクセス間隔	例：15	POP3 サーバーへのアクセス間隔時間（電源 ON 時に定期的に予約メールをチェックする時間の間隔）を 5 分〜120 分の間で設定します。
電源OFF時の POP3 アクセス時間の分	例：40	POP3 サーバーへのアクセス時間（電源待機状態時に定期的に予約メールをチェックする時間の分）を選択します。 2 時／ 5 時／ 8 時／ 11 時／ 14 時／ 17 時／ 20 時／ 23 時の選択された分に予約メールをチェックします。
メール録画予約時 アドレスフィルタリング	使用する	「フィルタアドレス」で指定したアドレスからの予約メールだけを受信します。
	使用しない	全てのアドレスからの予約メールを受信します。
フィルタアドレス	例：XXXXXXXX@XXX.XXX.ne.jp	「メール録画予約時アドレスフィルタリング」を「使用する」にしている場合に設定します。半角英数字 63 文字以内で入力します。
メール通知機能	指定アドレスと送信元アドレスへ通知	メール録画予約が完了したときにメール通知用の指定アドレスと送信元アドレスへ通知します。
	送信元アドレスへ通知	メール録画予約が完了したときに送信元アドレスへ通知します。
	指定アドレスへ通知	メール録画予約が完了したときにメール通知用の指定アドレスへ通知します。
	使用しない	メール録画予約が完了したときにメールで通知しません。
失敗しそうな予約のメール通知	通知しない	メール通知はしません。
	通知する	失敗しそうな予約がある場合、メールでお知らせします。 （例） ・番組の途中で録画が中断したとき ・番組追っかけに失敗したとき ・優先度の関係で録画が失敗したとき このメールは目安であり、実際に失敗する予約すべてを通知するものではありません。予約にはご注意ください。
おまかせ自動予約の通知	通知しない	メール通知はしません。
	通知する	「おまかせ自動録画」で録画予約をした場合に、メールでお知らせします。
SMTP サーバアドレス	例：XXX.XXX.ne.jp	SMTPサーバーのアドレスを設定します。 半角英数字63文字以内で入力します。
メールアドレス	例：XXXXXXXX@XXX.XXX.ne.jp	プロバイダのメールサービスのメールアドレスを設定します。半角英数字63文字以内で入力します。
メール通知用の指定アドレス	例：XXXXXXXX@XXX.XXX.ne.jp	メール録画予約が完了したときに通知する先のメールアドレスを設定します。半角英数字63文字以内で入力します。

- 本機の動作状態によっては、録画予約されない場合があります。
- 「ON TV JAPAN」サイトでの「メール録画予約」サービスを使用する場合のメール予約パスワードは、そこで登録した「合い言葉」と同じものにしてください。（2005 年 9 月現在）
- 「ON TV JAPAN」サイトや「iEPG」サイトで録画予約した場合、送信元アドレスには通知しません。

■CSV保存時の設定

番組説明を含める	含める	ライブラリの情報をCSVファイルに保存するときに番組説明も含めることができます。
	含めない	CSVファイルに番組説明を含めないで保存します。

■その他の設定

時計サーバ	東芝のサーバー	本機が時計サーバにアクセスすることで、時刻の誤差を修正します。
リモコンアクセスポート番号	通常：1048に設定 1048~1999の間で変更可能	複数台を使用した場合など、ネットdeナビ対応のブラウザに表示されたリモコン画面が働かない場合に、それぞれの番号を変更します。
MACアドレス		各本体ごとに決められているMACアドレスを表示しています。 変更はできません。

• 時計サーバによる時刻調整は、マンションなどの共有ネットワーク環境などでは使用できない場合があります。

■ネット de ナビ動作の設定（Cookie に保存）

iEPG予約画面表示設定	別ウィンドウで表示しない	番組情報サイトを利用して予約をするときに、予約情報を別のウィンドウで表示しません。
	別ウィンドウで表示する	番組情報サイトを利用して予約をするときに、予約情報を別のウィンドウで表示します。

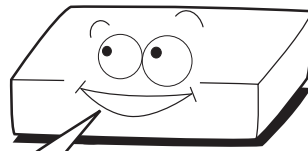
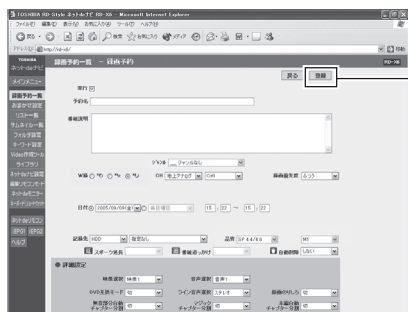
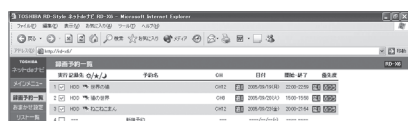
ネット機能設定ガイド

ネット機能には以下のような機能があり、それぞれ設定をしないと使用できません。
以下の表で基本的な設定を行なってから、必要な設定をしてください。
ネット機能が働かないときには、設定をもう一度確認してください。

ネット機能	動作環境／基本的な設定	必要な設定
ネットdeナビ (⇨21ページ)	・OS：Windows® 2000/XP Mac OS X（10.4） ・JAVA VM Ver.1.5（Mac OS Xは1.4.2） (⇨8ページ) ・イーサネット設定(⇨12ページ)	
ネットdeリモコン (⇨39ページ)	・OS：Windows® 2000/XP Mac OS X（10.4） ・JAVA VM Ver.1.5（Mac OS X は 1.4.2） (⇨8ページ) ・イーサネット設定（⇨ 12 ページ）	・その他の設定 ーリモコンアクセスポート番号 （⇨ 19 ページ）
ネットdeダビング (⇨操作編164ページ)	・OS：Windows® 2000/XP Mac OS X（10.4） （⇨ 8 ページ） ・イーサネット設定（⇨ 12 ページ）	・ネット de ダビングの設定 （⇨ 12 ページ） ーダビング要求を「受け付ける」に設定する ーグループ名を入力する （ダビングしたい機器のグループ名はすべて同じ名前に設定します。） ーグループパスワードを入力する （ダビングしたい機器のパスワードはすべて同一のものに設定します。）
iEPGで録画予約をする (⇨26ページ)	・OS：Windows® 2000/XP Mac OS X（10.4） （⇨ 8 ページ） ・イーサネット設定（⇨ 12 ページ） ー常時接続の環境が必要です。 （⇨ 10、11 ページ）	・番組情報サイトの設定 （⇨ 17 ページ）
eメールで録画予約をする (⇨27ページ)	・OS：Windows® 2000/XP Mac OS X（10.4） （⇨ 8 ページ） ・イーサネット設定（⇨ 12 ページ） ー常時接続の環境が必要です。 （⇨ 10、11 ページ）	・メール録画予約機能の設定 （⇨ 18 ページ）
ネットdeモニター (⇨41ページ)	・OS：Windows® 2000/XP Mac OS X（10.4） ・Internet Explorer6.0（Mac OSX は Safari2.0.1） ・Java VM Ver.1.5（Mac OS X は 1.4.2） （⇨ 8 ページ） ・イーサネット設定（⇨ 12 ページ）	・QuickTime（Ver.7.0.2）のインストールと設定（⇨ 8、43 ページ） ・ネット de モニターの設定（⇨ 41 ページ）
番組ナビ - iNET **番組ナビ（iNET）の設定** (⇨接続・設定編45ページ)	・OS：Windows® 2000/XP Mac OS X（10.4） （⇨ 8 ページ） ・イーサネット設定（⇨ 12 ページ） ー常時接続の環境が必要です。 （⇨ 10、11 ページ）	・番組情報サイトの設定 （⇨ 17 ページ）
ジャストクロック - 時計サーバ (⇨接続・設定編64ページ)	・OS：Windows® 2000/XP Mac OS X（10.4） （⇨ 8 ページ） ・イーサネット設定（⇨ 12 ページ） ー常時接続の環境が必要です。 （⇨ 10、11 ページ）	・ジャストクロック （⇨接続・設定編 64 ページ） ・時計サーバ （⇨接続・設定編 64 ページ）

ネットdeナビ

パソコンで本機を操作するための方法を説明します。

番組の録画予約をする（録画予約）

1 メインメニューの「録画予約一覧」をクリックする

現在予約されている録画予約の一覧が表示されます。

2 新しい予約をしたいときは「新規予約」を、予約内容を変更したいときは変更する予約名をクリックする

予約情報画面が表示されます。

3 設定する項目をクリックし、値を選ぶかデータを入力する

設定する内容は**⇨22、23ページをご覧ください。**
「削除」をクリックすると、その録画予約は解除され、録画予約の一覧から削除されます。

- 「W録(TS/R1/R2)」でどれを選んだかで、設定できる他の項目が異なります。

4 設定が終わったら、「登録」をクリックする

録画予約が設定されます。
「戻る」をクリックすると、設定内容を変更せずに録画予約の一覧画面に戻ります。

お知らせ

- 録画予約時刻を設定するときは00：00～30：59まで入力することができます。24：00以降を入力して「登録」をクリックすると予約日付が次の日に変わり時刻が00：00～06：59で表示されます。
- 時刻の重複する予約を登録すると、文字色を変えてお知らせします。（赤：時間帯が重複しているとき。青：終了時刻と開始時刻が同じなどのとき。HDDとDVDの予約混在時には、終了時刻が青文字で表示されない場合があります。）必要に応じて、時刻を変更してください。
- 「番組追っかけ」機能（⇨操作編116ページ）が働いた結果、日をまたいだ予約時間の変更が行なわれた場合、その予約の「日付」欄に「毎複数日」と表示されることがあります。

設定項目

項目	設定	内容
実行	「✓」あり	予約録画を実行します。
	「✓」なし	予約録画を実行しません。
予約名		予約名に好きな名前をつけることができます。 半角64文字(全角32文字)以内で入力します。
番組説明		番組の内容などを自由に入力することができます。 改行、空白も含めて全角400文字（半角800文字）以内で入力します。
ジャンル		録画する番組のジャンルを設定します。

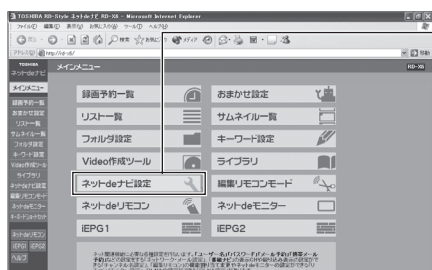
W録	TS	デジタル放送をTS録画(画質がTSで固定)で録画するときに選びます。記録先は内蔵HDDにしか録画できません。
	R1	R1エンコーダーで録画します。録画品質で設定した画質で録画します。
	R2	R2 エンコーダーで録画します。デジタル放送は録画できません。
CH	地上アナログ、地上デジタル、BSデジタル、110度CSデジタル、ライン入力A~C	録画したい放送メディア、またはライン入力を設定します。
	地上アナログ、地上デジタル、BSデジタル、110度CSデジタル、ライン入力A~C	録画したい番組のチャンネルを設定します。 （スキップ設定したチャンネルは表示されません。）
録画優先度 (操作編110ページ)	手動で予約したとき 最優先	他の録画と重なった場合、他の録画を中止して、この設定をした録画を優先します。
	手動で予約したとき ふつう	通常の設定です。(他の録画と重なったときは、優先度の高い方を優先します。)
	おまかせ自動録画のとき 非優先	通常、自動録画のときはこの設定を選びます。
	おまかせ自動録画のとき 優先	お気に入りのタレントの出演番組の設定など、録画優先度を高くしておきたいときにだけ、この設定にします。
	おまかせ自動録画のとき ユーザー予約にする	「おまかせ自動録画」の自動予約で設定された予約を、手動で予約したときの設定に変更します。 「優先」→「最優先」、「非優先」→「ふつう」に変更。
予約日 （毎予約）	今日から2ヵ月先(62日)の日付まで、毎日曜日~毎土曜日、月－木、月－金曜日、月－土、毎日	録画したい番組の日付を設定します。
予約時間	00：00～30：59	録画の開始時刻です。(初期値として現在の時刻が表示されます。)
	00：00～30：59	録画の終了時刻です。現在時刻から2分以降で録画開始時刻から9時間以内（デジタル放送は24時間未満）が設定できます。
記録先	HDD	内蔵 HDD に録画したいとき。
	DVD	DVD-RAM/R/RW に録画したいとき。
記録先フォルダ		録画したタイトルをいれるフォルダを指定します。フォルダにいれない場合は「指定なし」を選びます。
録画品質*[1] （画質モード）	LP	長時間録画したいとき。ただし、画質は「SP」モードに比べると下がります。 (音質設定の「L-PCM」を選ぶと設定できません。)
	SP	録画時間、画質とも標準の設定です。(音質設定の「L-PCM」を選ぶと設定できません。)
	A1	録画直前のディスクの空き容量に合わせて自動的に画質レートを設定します。 (ディスクの空き容量が足りない場合は、番組の最後まで録画できません。) 内蔵 HDD に録画すると、4.7GB の DVD 未使用ディスクにダビングできる時間分を録画します。 約 4 時間以上の番組は設定できません。
	A2	未記録の両面ディスクになるべく高画質でおさまるように、自動的に画質レートを設定します。 「記録先」は「HDD」に固定されます。録画後のタイトルは容量が片面ディスク2 枚分で、中間点で前後二つのチャプターに分かれています。それぞれのチャプターをディスクにダビングすることで、容量のむだのない、高画質の保存ができます。
	DL	未記録のDVD-R DL(2層)に、なるべく高画質でおさまるように自動的に画質レートを設定します。「記録先」は「HDD」に固定されます。あとでDVD-R (2層)に書き込んで、DVD-Video作成をする場合に便利です。
	MN	1.0、1.4 または 2.0～9.2 の範囲で 0.2Mbps ずつ任意に指定できます。 (音質の設定値によって、設定できる上限値が変わります。)
	高レート節約	最高画質レートで録画しながら容量をなるべく節約したいときに選択します。 通常は最高レートの 9.2Mbps で録画をし、映像に変化が少なく高いレートを必要としない部分だけ、一時的にレートを下げて録画します。(音質を L-PCM に設定しているときは、8.0Mbps になります。)
録画品質 （音質）	M1（DD D /M1）	標準の音質です。
	M2（DD D /M2）	DD D /M1 よりも良い音質で、音楽番組に適しています。
	L-PCM	圧縮していないデジタル音声で最もよい音質ですが、録画できる時間は短くなります。
スポーツ延長*[2]	しない	スポーツ延長機能は働きません。
	自動 手動／30分 手動／60分 手動／120分	野球中継などの番組の放送時間延長の可能性がある場合に録画予約の終了時刻を自動的に延長します。 (操作編 115 ページ)
番組追っかけ*[2]	しない	番組追っかけ機能は働きません。
	する	予約している番組の放送時間が変更した場合、それにあわせて録画予約の開始／終了時刻を自動的に変更します。(操作編 116 ページ)
自動削除	しない	タイトル自動削除の対象にしません。
	容量不足時	内蔵 HDD の容量が不足した場合に削除の対象となります。
映像選択*[2]		デジタル放送ではひとつの番組内で関連する内容を3チャンネル、または高画質放送1チャンネルと標準テレビ1チャンネルで同時に放送を行なう場合があります。 マルチアングル放送の場合、どのチャンネルで録画するかを設定します。設定する内容は放送によって異なります。デジタル放送がマルチビューの情報を含まない場合は、設定することができません。 (デジタル放送をTSで録画する場合は、すべて記録されます。)
音声選択*[2]		デジタル放送には最大で八つの音声がある番組があり、番組によってどの音声で録画するか設定します。 (デジタル放送をTSで録画する場合は、すべて記録されます。)
DVD 互換 モード	切 (主+副で記録されます。)	DVD-R/RW(Videoモード)へあとでダビングすることを前提としません。画質･音質の設定によってはDVD-R/RW(Videoモード)にダビングできない場合もあります。
	主音声 (主で記録されます。)	DVD-R/RW（Videoモード）にあとでダビングできる状態で録画し、音声多重放送の場合、元の主音声だけを左チャンネルと右チャンネルにそれぞれ記録します。
	副音声 (副で記録されます。)	DVD-R/RW（Videoモード）にあとでダビングできる状態で録画し、音声多重放送の場合、元の副音声だけを左チャンネルと右チャンネルにそれぞれ記録します。
ライン 音声選択	ステレオ	ステレオで録画します。
	L	左チャンネルの音声だけを記録します。
	R	右チャンネルの音声だけを記録します。
	主+副	HDD、DVD-RAMに録画する場合、二カ国語放送などを二重音声で録画するときに選択します。
録画のりしろ	切	のりしろ録画をしません。
	入	番組の前後約5秒をのりしろとして余分に録画します。
無音部分自動 チャプター分割*[3]	切	無音部分でチャプター分割をしません。
	入	音声がない（聴感上音のない）部分で自動的にチャプターを分割します。
音多連動自動 チャプター分割	切	この機能は働きません。
	入	音声多重放送（二カ国語放送／ステレオ放送／モノラル）が各音声に切り換わった部分で自動的にチャプター分割をします。

*[1] この設定は「W録」で「R1」「R2」を選んだときにだけ設定できます。
*[2] この設定は番組表から予約した番組だけ、変更が可能です。
*[3] この設定はデジタル放送の録画には働きません。

iEPG／番組ナビのチャンネル名を設定する

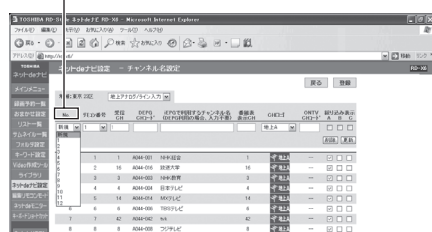
この設定はiEPGを利用するためのものなのよね。
ここでの注意点はあるのかな？

iEPG 録画予約サイトからの録画予約や番組情報取得をするチャンネルを追加／変更するための設定です。ここで追加／変更したチャンネル名設定（「iEPG で利用するチャンネル名」を除く）は「番組ナビ」側でも連動して変更されます。

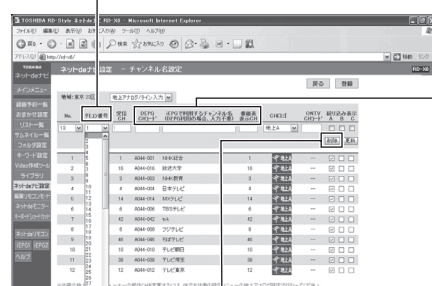
登録してあるチャンネル名を削除するときは、削除するチャンネル名の「No.」を選んだあと、「削除」ボタンをクリックします。

1 メインメニューの「ネットdeナビ設定」をクリックする

ネット de ナビ設定画面が表示されます。

2 「チャンネル名設定」ボタンをクリックする

チャンネル名設定画面が表示されます。

3 登録、または変更する放送メディアを選ぶ

4 「No.」を選ぶ

変更する場合は、変更したいチャンネル名の番号を選択します。

5 「リモコン番号」を選ぶ

6 「DEPG CHコード」、「iEPGで利用するチャンネル名」と「番組表表示CH」を入力する

DEPG CHコード（操作編138ページ）：
番組情報の取得に使用されます。（デジタル放送の設定はできません。）

iEPGで利用するチャンネル名：
iEPG録画予約サイトからの録画予約時に使用されます。

番組表表示CH：
「番組ナビ」の番組表で表示される番号を設定します。半角英数字5桁まで入力できます。入力しない場合は空白となります。

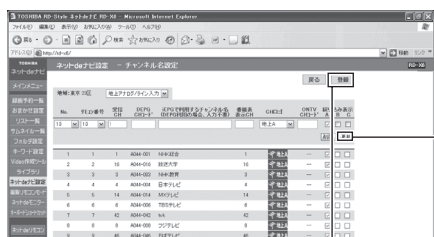
ご注意

「iEPGで利用するチャンネル名」は、全角半角の違いも含め、一字一句正確に登録されなければ正しく予約ができません。さらに「iEPGで利用するチャンネル名」で設定した放送局と、本機のリモコン番号が正しく設定されなければ、予約したはずの番組と異なるチャンネルの番組が録画されてしまいます。また、接続・設定編の放送局一覧表に記載されているチャンネル名（放送局名）と異なる場合がありますので、ご注意ください。

7 「CHロゴ」を選ぶ

必要に応じてロゴを設定します。

8 「ONTV CH コード」を選ぶ

ONTV のメール予約を使用する際のチャンネルコードを設定します。設定しない場合は空白となります。本機の「メール録画予約」機能は、オンティービー株式会社が「ON TV JAPAN」サイトで提供している無償サービスです。サービス内容および仕様につきましては変更となることがあります。その際の動作について当社は保証できません。

9 「絞り込み表示」を設定する

番組表での絞り込み表示A・B・Cのどれで表示するかを指定します。
表示させたい絞り込み項目をクリックして✓をつけます。

10 「更新」をクリックする

画面上の設定が更新されますが、「登録」を押すまでは、本機に反映されません。

11 必要に応じて手順3 ～9 をくり返す

アナログ放送50件/デジタル放送70件まで設定することができます。

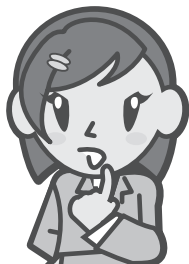
12 設定が終わったら、「登録」をクリックする

「登録」を押すことで本機に更新内容が反映されます。
「登録」を押さずに「戻る」をクリックすると、設定内容を保存せずにネットdeナビ設定画面に戻ります。

ネットdeナビ対応のブラウザで新しいウィンドウを開き、http://www.rd-style.com/user/ch/の表から、iEPGで利用するチャンネル名とDEPG CHコードをコピーし、該当欄に貼り付けると便利です。
L1～L3は接続した受信機器にあわせて設定してください。

お知らせ

- 表示CHやCHコードを登録する際に、「iEPGで利用するチャンネル名」を空欄にすることで、自動的にチャンネル名を表示し、チャンネル名変更などへ自動対応するモードとなりますが、完全な動作を保証するものではありません。また、手動で「iEPGで利用するチャンネル名」を変更した場合、自動対応は行なわれません。
- 内蔵チューナーの受信チャンネルを変更することはできません。本体の設定メニューのチャンネル設定を行なってください。

iEPG で録画予約をする

インターネットの番組表を利用して録画予約するのも便利でいいね！利用するには何が必要なの？

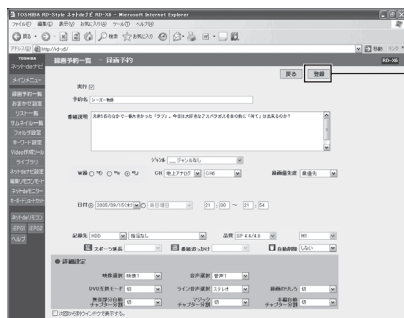
①常時接続しているパソコンと接続※(➡10、11ページ)／②「ネットdeナビ設定」の「番組情報サイトの設定」(➡17ページ)／③「チャンネル名設定」(➡24ページ)／④ iEPGサイトによっては事前に会員登録やID登録が必要です。

※本機がインターネットに常時接続されたパソコンとルーターを使って接続されていない場合は、iEPG予約をすることはできません。

1 「iEPG1」または「iEPG2」をクリックする

登録したiEPGサイトが表示されます。

2 iEPG サイトで録画したい番組を検索するか番組表を表示し、「iEPG 録画予約」 などのアイコンをクリックする

録画予約の操作は各サイトで異なります。各サイトをご覧ください。

3 予約情報を確認し、必要に応じて項目を変更する

4 「登録」 をクリックする

本機に録画予約が設定されます。
ネットdeナビ、または番組ナビ－録画予約一覧などで予約内容を確認してください。

つかいこなしのポイント！

録画予約を続けて操作したい場合は、「ネットdeナビ設定」の「ネットdeナビ動作の設定 - iEPG予約画面表示設定」(➡19ページ)から「別ウィンドウで表示する」を選択して設定します。予約情報画面の「次回から別ウィンドウで表示する」チェックをつけたりはずしたりすることでも、この設定を切り換えることができます。

お知らせ

- iEPGは、ソニー株式会社が提唱しているインターネットでの録画予約方式です。
- 予約録画開始時刻や本体の動作状態によっては、予約録画ができない場合があります。
- インターネットの通信状態（混雑等）によっては、iEPG予約サイトの表示や動作が正しく行なわれない場合があります。また、iEPG予約サイト側の都合で、そのサービスが一時的に停止したり、サービス自体が終了される場合があります。
- iEPGサイトによっては、スカパー！連動予約設定ができない場合があります。

e メールで録画予約をする

外出先などからeメールで録画予約をすることができます。

準備

- 本機をインターネット常時接続しているパソコンと接続し(➡10、11ページ)、各機器の電源を入れておきます。
- 「ネットdeナビ設定」の「メール録画予約機能の設定」をします。(➡18ページ)
- メールソフトウェアの設定をテキスト形式に変更します。(メール予約は、HTML形式のメールに対応していません。)
- 実際の予約録画をする前に、メール予約ができることを確認しておくことをお勧めします。

1 eメールの送信先(To:)を入力する

「メール録画予約機能の設定」(➡18ページ)で設定した「メールアドレス」を入力します。
例　XXXXXXXX@XXX.XXX.ne.jp

2 eメールの本文に録画予約の内容を入力する

文字はすべて半角で入力します。
それぞれの項目の間は、半角スペースを一つずつ入力します。

省略可能
項目を省略したとき、録画予約の「記録先」は「HDD」に記録され、「録画優先度」は「ふつう」、「自動削除」は「しない」、「高レート節約」、「無音部分自動チャプター分割」と「音多連動自動チャプター分割」は「切」、「予約の入／切」は「入」になります。それ以外は「設定メニュー」の設定で録画されます。

例　open rdstyle prog add 20050505 2100 2154 1 YS VS A1 SH KN DN HN LS CN CAY ELN R1 RY

① open　② rdstyle　(prog add：予約メールのとき入れる)　③ 20050505　④ 2100　⑤ 2154　⑥ 1　⑦ YS　⑧ VS　⑨ A1　⑩ SH　⑪ KN　⑫ DN　⑬ HN　⑭ LS　⑮ CN　⑯ CAY　⑰ ELN　⑱ R1　⑲ RY

番号	項目	種類	入力
①	open		予約メールの先頭に入れます。
②	メール予約パスワード		設定したパスワードを入力します。(➡18ページ)
③	年　月　日		西暦４桁（年） 01～12（月）01～31（日）西暦は 2001～2069 年まで
④	録画開始時刻（時）（分）		00～23（時） 00～59（分）
⑤	録画終了時刻（時）（分）		00～23（時） 00～59（分）
⑥	CH	地上アナログ	1～64
		地上デジタル	DXXX-X※
		BSデジタル	BSXXX※
		110度CSデジタル	CSXXX※
		スカパー！	SPXXX※(番組ナビの「チャンネル設定」でチャンネルを登録しているときは、対応するライン入力に切換わります。)
		専門チャンネル	C-XXX※(番組ナビの「チャンネル設定」でチャンネルを登録しているときは、対応するライン入力に切換わります。)
		BSアナログ	BS1、BS3、BS5、BS7、BS9、BS11、BS13、BS15(番組ナビの「チャンネル設定」でチャンネルを登録しているときは、対応するライン入力に切換わります。)
		ライン入力	L1、L2、L3
⑦	録画優先度	ふつう	YS
		最優先	YX
⑧	画質	SP	VS
		LP	VL
		A1	VA1
		A2	VA2
		DL	VD
		マニュアル (1.0,1.4Mbps, 2.0～9.2Mbps)	「VM」に続けて、小数点を除いたビットレート数（2.0～9.2 の範囲で 0.2Mbps ずつ任意に指定できます）を２桁で入力します。VM10、VM14, VM20～VM92（音質が LPCM のときは VM80（8.0Mbps）まで）
⑨	音質	M1	A1
		M2	A2
		LPCM	AL
⑩	記録先	HDD	SH
		DVD	SD
⑪	自動削除	しない	KN
		容量不足時	KY
⑫	DVD互換	切	DN
		主音声	DM
		副音声	DS
⑬	高レート節約	する	HY
		しない	HN
⑭	ライン音声選択	ステレオ	LS
		L	LL
		R	LR
		主＋副	LD

番号	項目	種類	入力
⑮	無音部分自動チャプター分割	切	CN
		入	CY
⑯	音多連動自動チャプター分割	切	CAN
		入	CAY
⑰	録画のりしろ	入	ELY
		切	ELN
⑱	エンコーダー	TS	RT1
		R1	R1
		R2	R2
⑲	予約の入／切	入（予約を実行する）	RY
		切（予約を実行しない）	RN

アルファベットは大文字、小文字どちらも使えます。
※「XXX」はチャンネル番号です。地上デジタルの -X は枝番です。同じチャンネルに２つ以上の枝番号があるときは、枝番号まで正しく指定してください。枝番号を指定しないと、意図しない放送が予約されることがあります。

お知らせ

- 改行して2行目に予約名が入れられます。
- 予約メールを送信するソフトによっては1行目が長いと改行されてしまうことがあります。その場合は、予約内容が正しく認識されません。
- ⑱のエンコーダーに「TS（RT1）」を選んだときは、画質と音質の設定はできません。また、⑩の記録先は「HDD(SH)」を選んでください。
- デジタル放送の録画予約を設定するときには、⑮を「入」に設定できません。

e メール予約の便利な機能

■ 予約メールの受信

本機が電源入り状態では、設定された時間の間隔で、POPサーバから予約メールを受信します。本機が電源待機状態では、一日8回(2時/5時/8時/11時/14時/17時/20時/23時の「ネットdeナビ設定-電源OFF時のPOP3アクセス時間の分」で設定された分)に予約メールを受信します。(受信時は、本体表示窓に「MAIL」と表示されます。)ジャストクロックのために起動する回数は一日1回のまま変わりません。

お知らせ
- 「番組ナビ設定-番組データダウンロード」でADAMSを選択している場合、ADAMSの番組データの受信中に予約メールの受信時刻になると、予約メールの受信が次回に延期されます。

■ メール予約ができたら（録画予約完了メール）

本機が予約メールを受信すると、録画予約の完了または録画予約の失敗の通知をメールで受信できます。以下の設定をしてください。
- 「メール通知機能」を「指定アドレスと送信元アドレスへ通知」、「送信元アドレスへ通知」または「指定アドレスへ通知」に設定する。(18ページ)
- 「メール通知機能」を「指定アドレスと送信元アドレスへ通知」または「指定アドレスへ通知」に設定した場合は、「メール通知用の指定アドレス」に録画予約完了メールを受け取るメールアドレスを入力する。(18ページ)

● 録画予約ができた場合

例

件名 <SUBJECT>:
RD-X6 からのお知らせ (ユーザー予約)
本文 <B O D Y>:
=[001]==============
◆ユーザー予約◆
2005/10/18(火)
21:00-21:54 CH8 REC1 ふつう
mailto※: メールアドレス(ネットdeナビ設定で設定したメールアドレス) ?subject=件名(RD-X6の予約を削除します。)&body=open%20パスワード(ネットdeナビ設定で設定したパスワード) %20prog&20del%20予約ID（予約したID)

※mailtoとは...mailtoを選んで決定すると、簡単に予約を削除するメールが作成できます。

● 録画予約に失敗した場合

録画予約ができなかった理由が通知されますので、確認してください。

お知らせ
- 本体側でエラーが発生しているときも、録画予約ができません。
  エラーとして以下のような内容がありますので、確認してください。
  －録画開始時刻が現時刻から15分以降でなかった。
  －録画終了時刻が現在時刻から15分以降で、録画開始時刻から9時間以内(TS録画は24時間未満)でなかった。
  －手動で予約できる件数(64件)がいっぱいになっていた。
- 本体側のテレビ画面でGUI を表示中は、メールの送受信ができません。

■ e メールで録画予約の設定情報を確認する

eメールで録画予約の設定情報を確認することができます。
eメールの本文に次のように入力します。

例　open rdstyle prog list l d e5

- e5 — 予約数
- e — 省略可能
- d — 詳細
- l — 表示レイアウト(ロング)

お知らせ
- 文字はすべて半角で入力し、項目の間はスペースをひとつずつ入力してください。
- 「l」（エル)を入力した場合は、1行表示が長く表示され、省略すると改行された短いリストが表示されます。
- 「d」を入力した場合は、「録画予約」の詳細が表示され、省略すると簡略されたリストが表示されます。
- 「e」を入力した場合は、「e」に続けて数値を入力することで、一回のメールで受信可能な予約(録画情報)数を指定できます。指定可能な数値は1～9です。ただし、情報量が多いときには、指定された数値より少ない予約数しか得られない場合があります。

■ e メールで残量を確認する

eメールで内蔵HDDの残量を確認することができます。
eメールの本文に次のように入力します。

例　open rdstyle prog remain

- remain — 残量

お知らせ
- 文字はすべて半角で入力し、項目の間はスペースをひとつずつ入力してください。

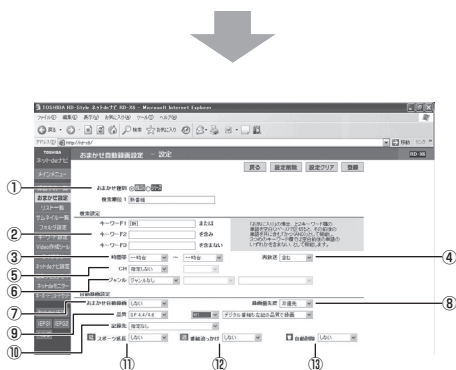
2 おまかせ自動録画の設定をする（おまかせ設定）

「お気に入り番組リスト」や「シリーズ番組リスト」から自動録画をするための設定を行ないます。
本体の「おまかせ自動録画設定」と同じ内容を、ネットdeナビからも設定／変更することができます。

1 メインメニューの「おまかせ設定」をクリックする

2 新規設定の場合は空いているリスト行を、設定変更の場合は変更するリスト行をクリックする

3 各項目をクリックし、条件を設定する

①おまかせ種別： お気に入り番組リストの条件かシリーズ番組リストの条件かを選びます。
②キーワードを入力します。
キーワード 1、2 は OR 検索、キーワード 3 は NOT 検索です。(詳しくは➪操作編 121 ページをご覧ください。)
③時間帯： 検索する時間帯を指定します。
④再放送： 再放送番組を検索対象に含めるかどうかを選びます。
⑤ CH： 検索するチャンネルを指定します。（連動していない外部機器のチャンネルはおまかせ自動録画はできません。）
⑥ジャンル： ジャンルを設定します。
⑦おまかせ自動録画： ここでのキーワードで検索された番組を 1 日何時間まで自動録画の対象にするかを選びます。

以降は「おまかせ自動録画」をする場合に設定します。
⑧録画優先度： ➪操作編 110 ページ
⑨品質： 録画品質を選びます。➪操作編 112 ページ
⑩記録先： 録画したタイトルの保存先を選びます。
⑪スポーツ延長： ➪操作編 115 ページ
⑫番組追っかけ： ➪操作編 116 ページ
⑬自動削除： ➪操作編 114 ページ

●おまかせ自動予約のメール通知について
ネット de ナビ、または番組ナビで設定したおまかせ自動予約の設定で、自動で録画予約をしたときに、メールでお知らせする機能です。
・メール録画予約機能の設定 : おまかせ自動予約の通知で「通知する」を選択する。(➪ 18 ページ)
例
件名 <SUBJECT>:
RD-X6 からのお知らせ (おまかせ自動予約)
本文 <B O D Y>:
「おまかせ自動予約」として以下の予約が追加されました。
=[001]==============
◆お気に入り予約◆
2005/07/26(火)
00:35-01:04 CH8 REC1 非優先
お台場の犬と猫

録画した番組のタイトル情報を見る／変更する

本体の「見るナビ」のリスト表示のようにタイトルが一度にたくさん、しかも早く表示されるね！ネットdeナビではどんな使い方があるか教えて！

内蔵HDDとDVD-RAM/R/RWに録画した内容を、タイトルやチャプターごとに一覧表示する機能です。
タイトル名やジャンルなど、タイトル情報を変更※することができます。
パソコンのキーボードで入力すれば、本体の文字入力画面よりも簡単に文字が入力できます。

※ ・本機以外で録画したDVD-R/RW（Videoモード）は表示、変更はできません。
・ファイナライズ済みのDVD-R/RWは表示だけで変更はできません。

リスト一覧で表示／変更する

○にチェックした項目の情報が表示されます。タイトル名の変更、フォルダへの移動、再生や削除ができます。移動／変更を行なったあと、「登録」をクリックすると、設定が本機に反映されます。

各フォルダ内表示からルート上一覧表示へ戻るときにクリックします。

チェックをつけると、タイトル名などの情報が表示されます。

カギ付きフォルダが開錠されている場合、カギが色付きで表示されます。カギ付きフォルダを施錠するときはアイコンをクリックします。（施錠時はグレー表示）

項目名をクリックするたびに昇順／降順で並べ替えができます。

各フォルダ内を表示するときは、フォルダ名をクリックします。

カギ付きフォルダ

開錠している

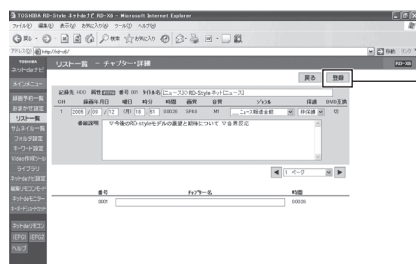
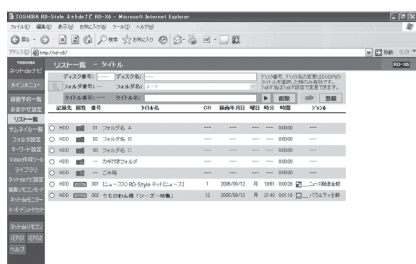
施錠している

ごみ箱

タイトルがはいっている

タイトルがはいっていない

お知らせ

- 本体動作中（再生など）は変更できません。
- 番組説明は、プレイリストでは表示されません。

1 メインメニューの「リスト一覧」をクリックする

リスト一覧が表示されます。
内蔵HDDとDVD-RAM/R/RWに録画された内容がタイトルごとに一覧表示されます。
「記録先」「属性」「番号」「タイトル名」「CH」「録画年月日」「曜日」「時分」「時間」「ジャンル」をクリックすると、その項目で並べ替えて表示します。

2 情報を見たり、変更したいタイトルの「タイトル名」をクリックする

タイトルの詳細とチャプターの一覧が表示されます。
変更できる場所は文字入力が可能になっています。

3 変更する場合は、項目をクリックし、値を選ぶかデータを入力する

設定する内容は、以下の「設定項目」をご覧ください。

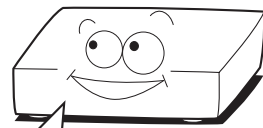
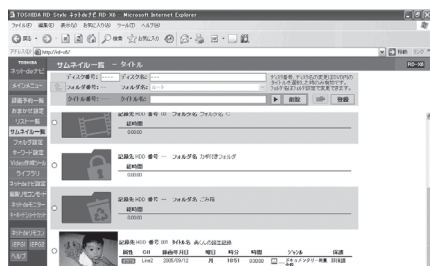
4 設定が終わったら、「登録」をクリックする

タイトル情報が設定されます。
「登録」を押さずに「戻る」をクリックすると、設定内容を変更せずにタイトル一覧表示に戻ります。

設定項目

タイトル名	―	録画したタイトルに好きな名前をつけることができます。 半角64文字（全角32文字）以内で入力します。
録画年月日	―	録画した年月日と開始時刻を変更できます。
ジャンル	―	録画した番組のジャンルを設定できます。
保護	保護	録画したタイトルを誤って削除したり、編集したりしてしまわないように保護します。(ごみ箱の中のタイトルには設定できません。)
	非保護	録画タイトルを保護しません。
番組説明	―	番組の内容などを自由に入力できます。 改行、空白も含めて全角400文字（半角800文字）以内で入力します。
チャプター名	―	チャプターに好きな名前をつけることができます。 半角64文字（全角32文字）以内で入力します。

※ ・本機以外で録画したDVD-R/RW（Videoモード）は表示、変更はできません。
・ファイナライズ済みのDVD-R/RWは表示だけで変更はできません。

サムネイル一覧で表示／変更する

1 メインメニューの「サムネイル一覧」をクリックする

サムネイル一覧が表示されます。
内蔵HDDとDVD-RAM/R/RWに録画された内容がタイトルごとに一覧表示されます。
- フォルダ内へ移動するときはアイコンかフォルダ名をクリックします。
- ページを切り換えるには、ウィンドウ上端の[◀]または[▶]をクリックします。

2 情報を見たり、変更したいタイトルのサムネイルまたは「タイトル名」をクリックする

タイトルの詳細とチャプターサムネイル一覧画面が表示されます。
変更できる場所は文字入力が可能になっています。

3 変更する場合は、項目をクリックし、値を選ぶかデータを入力する

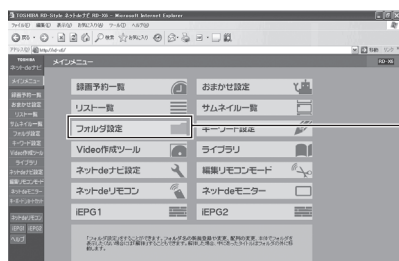
設定する内容は、以下の「設定項目」をご覧ください。

4 設定が終わったら、「登録」をクリックする

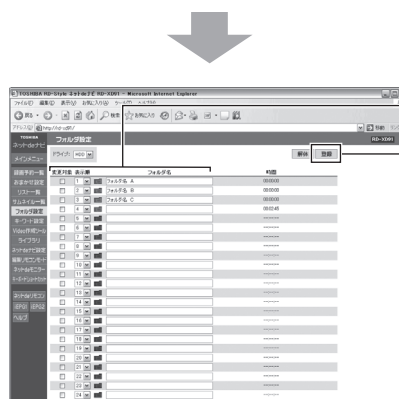
タイトル情報が設定されます。
「登録」を押さずに「戻る」をクリックすると、設定内容を変更せずにタイトル一覧表示に戻ります。

お知らせ
- 本体動作中 (再生など) は変更できません。
- 番組説明は、プレイリストでは表示されません。
- 以下の場合、サムネイルが黒くなったり、表示されないことがあります。
  ー本体動作中（再生など）
  ー コピーワンスのタイトルやチャプターのサムネイル
  ーDVD-R/RW（Video モード）に記録されたタイトルサムネイルとチャプターサムネイル
- 本体側で一度もサムネイル表示していない番組は、パソコン側では黒画面になりサムネイル表示がされません。その場合、本体側の「見るナビ」でサムネイル画面の表示をしてみてください。(表示できないサムネイルもあります。)
- Macintosh コンピューターの場合は、サムネイルをクリックしてもチャプターサムネイル一覧は表示されません。

フォルダを設定する

本体の見るナビのフォルダ機能の設定を、ネットdeナビでもできます。
使用できる機能は「フォルダ名の設定」「フォルダ名の変更」「フォルダの解体」「フォルダの移動」です。

1 メインメニューの「フォルダ設定」をクリックする

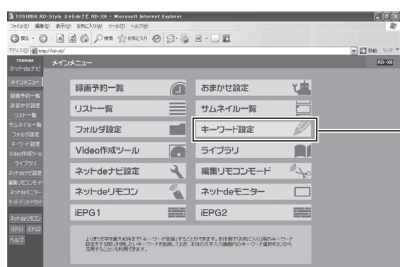
2 フォルダ名の設定や変更をしたいフォルダを選び、設定する

- フォルダ名の空欄部分に文字を入力したり、現在ついている名前を変更します。
  フォルダ名は全角で「ルート」、「ごみ箱」、「カギ付き」、「指定なし」の文言を含む名前の設定はできません。ただし、半角による設定はできます。
  例：半角による「ﾙｰﾄ」
- 「変更対象」欄をクリックし、✓をつけて「解体」を押すと、✓をつけたフォルダは解体され、フォルダ内のタイトルはルート上に表示されます。
- 上端のドライブでHDD/DVDを切り換えることができます。ディスクのフォルダ設定をするときは、設定するディスクを本機にセットしてください。

3 設定が終わったら、「登録」をクリックする

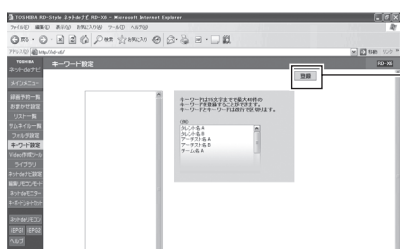
フォルダが設定されます。
「登録」をクリックしないと、設定が更新されません。

キーワードを設定する

番組ナビのキーワード登録のとき、本体の文字入力画面で入力するのはめんどう…
ネット de ナビでパソコンのキーボードを使って簡単に入力したい！

「キーワード設定」をお使いください。
本体の文字入力画面よりも簡単に登録することができます。
ネット de ナビで登録したキーワードは本体の「番組ナビ」、「見るナビ」、「編集ナビ」、「簡単メニュー」などで文字を入力する際、呼び出して使用できます。

1 メインメニューの「キーワード設定」をクリックする

2 「キーワード」または「お気に入り」の番号を選び、登録したい語句を入力する

キーワードには全部で40件まで登録できます。

3 設定が終わったら、「登録」をクリックする

キーワードが設定されます。
「登録」をクリックしないと、設定が登録されません。

ライブラリ情報を使う（ライブラリ）

本体の「ライブラリ」（⇨操作編 173 ページ〜）のように、登録されているタイトルを一覧表示させることができるんだね。
ネット de ナビではさらにどんなことができるの？

本体の「ライブラリ」のように、本機が記憶している録画日時、録画先、タイトル名、ジャンルなど、タイトルごとの情報を利用して、見たいディスクや空きのあるディスクが簡単に探せます。また、ネット de ナビではライブラリ情報をパソコンにファイル出力（CSV 方式）することもできます。

注意：DVD-R/RW（Videoモード）は、規格上の制約によりライブラリで管理することはできません。

メインメニューの「ライブラリ」をクリックする

見たいタイトルの格納先ディスクを探す

■ライブラリ情報の並べ替え

並べ替えたい項目の見出しをクリックする

「記録先」「タイトル名」「CH」「録画年月日」「曜日」「時分」「ジャンル」「残量(時分)」をクリックすると、その項目で並べ替えて表示します。(ただし、HDDの残量は“---”で表示します)

お知らせ

- ここでの並べ替えの結果と、本体側のライブラリで並べ替えた結果は、一部異なる場合があります。
- 「残量再計算」の設定を変更すると、変更した録画品質の設定に対応した残量に変わります。
- 残量再計算で表示する設定は、「録画品質設定」で変更できます(⇨操作編53ページ)。

■ライブラリ情報の絞り込み

絞り込みたい内容そのものをクリックする

たとえば、火曜日の番組に絞り込みたいときは、一覧の中の「火」の文字をクリックします。

– 一度絞り込んだ項目をクリックすると、その項目での絞り込みが解除されます。
– 「絞り込み解除」ボタンをクリックすると、全ての絞り込みが解除されます。

■キーワードで検索する

入力欄にキーワードを入力し、「検索」をクリックする

入力したキーワードを含むタイトルが表示されます。

タイトルの情報を見る

タイトル名をクリックすると、タイトル情報が表示されます。

お知らせ

- ここでは、タイトル情報を変更できません。

ライブラリ情報をパソコンにファイル出力する

「CSV保存」をクリックする

ライブラリ情報がCSV形式で保存されます。
パソコン側の画面の指示にしたがって、保存の操作をしてください。

お知らせ

- CSV形式での保存は、ライブラリ表示の初期状態で行なわれます。並べ替えは反映されません。

全ディスク番号ごとの残量一覧を表示する（ディスク名一覧）

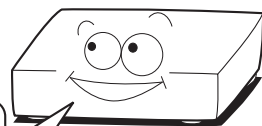
「ディスク名一覧」をクリックする

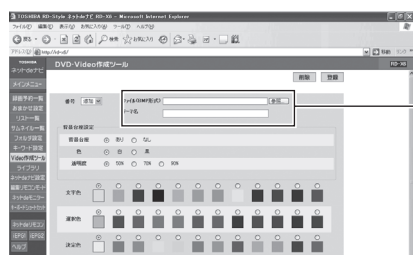
本機に登録された全DVD-RAM、DVD-R/RW（VRモード）について、ディスク番号、ディスク名、録画品質に応じたそれぞれのディスク残量を一覧表示します。
項目の見出し部分をクリックするたびに、その列を基準にリストを並べ替えることができます。

お知らせ

- ディスクの残量は本体側でディスクの登録をしないと表示されません。
- 残量設定1〜5で表示する設定は、「録画品質設定」で変更できます。(⇨操作編53ページ)
- タイトルの項目内容をクリックすると、クリックしたデータで絞り込みができます。
- 並べ替えは過去三つまでの並べ替え結果を保持します。

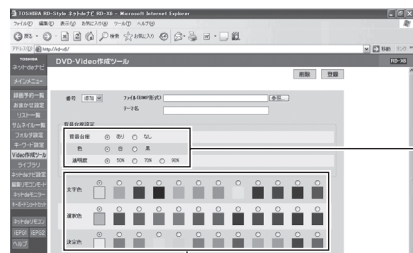
DVD-Video作成用の背景（メニューテーマ）を設定する

ネットdeナビのVideo作成ツールは、メニューテーマに使えるオリジナル画像を登録できるから、ディスク編集がますます楽しくなるね！

DVD-R/RW作成時、あらかじめ本体側で用意された8種類のメニューテーマとは別に16個の背景画像の追加と設定ができる機能です。

■準備するもの
メニュー画面で使いたい画像（Windowsビットマップ形式（bmp）※1・24bitカラー・720x480※2ピクセル）

1 メインメニューの「Video 作成ツール」をクリックする

Video 作成ツール画面が表示されます。

2 メニューテーマに使いたいビットマップファイルを指定する

「参照」をクリックしてファイルを選ぶことができます。
「テーマ名」ではテーマ名を入力することができます。名前を入力しなくても登録はできます。

3 背景台座、色、透明度を選ぶ

背景台座： 背景画像によってはディスク名、タイトル名、チャプター名などの文字が読みにくくなる場合があります。
その場合には背景台座を「あり」に設定してください。

色： 背景台座の色を設定します。

透明度： 背景台座の透明度を設定します。数字が大きいほど背景台座は透け、背景画像がよく見えるようになります。

4 文字色、選択色、決定色を選ぶ

文字色： メニューに表示するディスク名、タイトル名、チャプター名、ページ番号、タイトル・チャプター時間の文字色です。タイトルメニューへの「戻る」ボタンは設定に関係なく、白地に黒枠になります。

選択色： メニューを選択したときの色です。

決定色： メニューを決定したときの色です。

5 「登録」をクリックする

設定したメニューテーマが本機に登録されます。

※ 1 同ファイル形式であれば Mac OS からもそのまま登録できます。
※ 2 パソコンとテレビの画面とでは表示のしかたが異なるため、パソコン上で正常に見えた画像がテレビ上では縦長に見えてしまいます。パソコン上で始めに 640 × 480 ピクセルのサイズで画像を作成し、それを 720 × 480 ピクセルのサイズに横長に引き延ばした画像を背景に使用すると、テレビ上で違和感のない背景になります。

ユーザ・メニューテーマを削除する

「番号」を選び、「削除」をクリックする

つかいこなしのポイント！

登録する画面のサンプル集・作成上のポイントやDVD-Videoメニュー構造などの情報や、より高度なテクニックなどについてはhttp://www.rd-style.com/mydvd/をご覧いただき、ご活用ください。

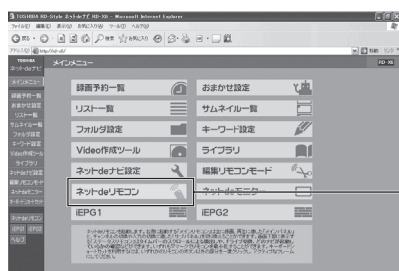
登録したユーザ・メニューテーマを本体側で使用するには

「DVD-Video作成」の「タイトルメニューテーマ選択」「チャプターメニューテーマ選択」で「次頁」ボタンを押して、登録したユーザメニューを表示して選択してください。「前頁」を押すとあらかじめ用意されたメニューテーマに戻ります。

リモコン画面で操作する

RD シリーズを複数台持っているときや、リモコンがみつからないときに、付属品のリモコンのように、パソコンから本体を操作することができるから便利だね。

ネットdeナビ対応のブラウザに表示されたリモコン画面で、本機を操作できます。
リモコンは、JAVAアプレットで構成されています。
RDシリーズを複数台持っている場合、付属品のリモコンではリモコンモードの数の割りあてに限りがありますが、パソコンの画面上に表示されるリモコンならば、その心配もいりません。

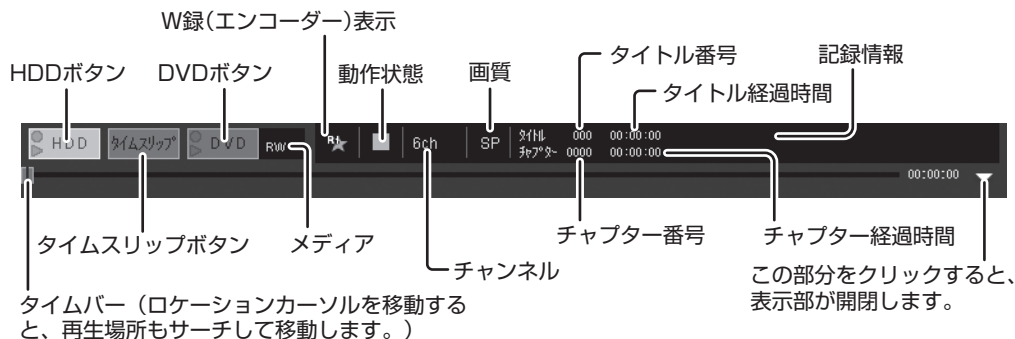
※お使いのパソコンがWindowsの場合はJAVA VM1.5、Mac OSの場合はJAVA VM1.4.2がインストールされている必要があります。 詳しくは8ページ「動作環境について」をご覧ください。

1 メインメニューの「ネットdeリモコン」をクリックする

ネットdeナビウィンドウの右側にリモコン、下に表示部が表示されます。

2 リモコン画面のボタンをクリックする

本体リモコンのボタンが押されたときと同じ動作をします。

表示部の見かた

例（表示内容は約 1 秒ごとに更新されます。）

お知らせ

- リモコン画面の表示に時間がかかることがあります。
- ディスクによっては機能しないことがあります。
- 本機の動作状態や、ネットワーク内の通信状態によっては、リモコンの操作に対して、本機の反応に時間がかかる場合があります。
- うまく表示できない場合、ブラウザのキャッシュをクリアしてみてください。
- 同一ネットワーク内で本体を複数台ご使用になる場合は、「リモコンアクセスポート番号」をそれぞれ別の番号に設定してください。（19ページ）

リモコンの見かた

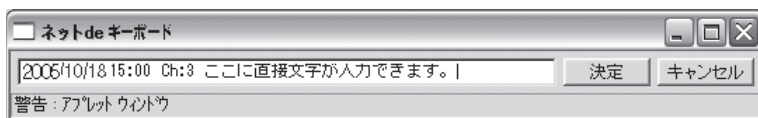
●メインパネル

オープン／クローズボタン
電源切ボタン
ワンタッチリプレイボタン
ワンタッチスキップボタン
クイックメニューボタン
1/20 リプレイボタン
1/20 スキップボタン
W録/TSボタン
アングルボタン
字幕ボタン
音声／音多ボタン
この部分をクリックして、「メインパネル」「サブパネル」を切り換えます。
この部分をクリックすると、リモコンが開閉します。

●サブパネル

データボタン
i.LINKボタン
番号ボタン

ネット de キーボード

リモコン画面が表示されているとき、本体側で文字入力画面を起動させた場合、ネットdeキーボードの画面がパソコン側に表示されます。

ネットdeキーボードを使って入力し、「決定」をクリックすると、本体側の文字入力画面に反映されて、ネットdeキーボードが閉じます。

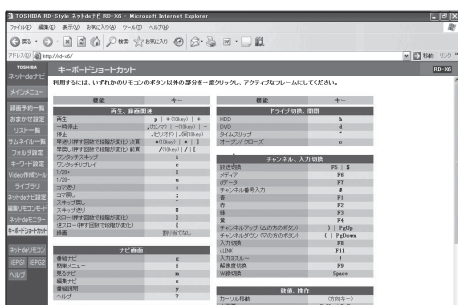
お知らせ

- ネットdeキーボードで「キャンセル」をクリックすると、本体側の文字入力画面に反映しないで、ネットdeキーボードが閉じます。

パソコンのキーボードで操作する

パソコンのキーボードで本体を操作できます。

1

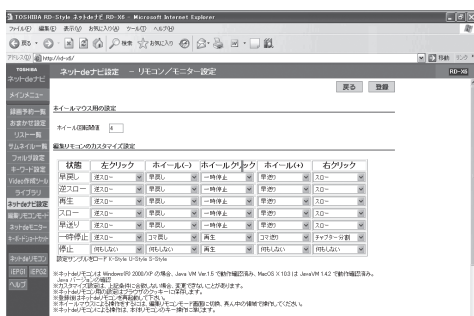
メインメニューの「キーボードショートカット」をクリックする

キーボードショートカットの一覧表が表示されます。
キーボードの種類や使用環境によっては、表のようには動作しない場合があります。

編集リモコンで操作する

パソコンのマウスでリモコンの操作ができます。

● 編集リモコンを設定する

リモコン画面が起動しているときは、終了してから設定してください。

1. メニューの「ネット de ナビ設定」をクリックする
2. 「リモコン／モニター設定」ボタンをクリックする

リモコンの設定画面が表示されます。

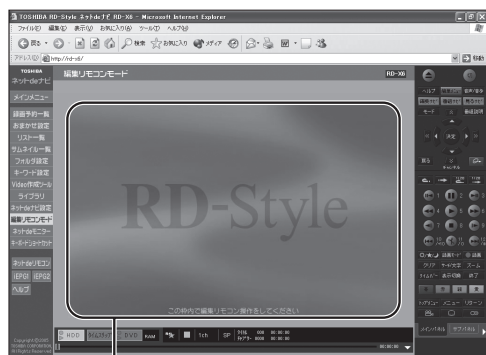
3. マウスで操作する動作を、用途に合わせて変更する
4. 「登録」をクリックする

お知らせ

- 「ホイール回転閾値」にはマウスで操作するときの回転数を入れてください。
- 「編集リモコンのカスタマイズ設定」では、マウスの各操作時の本体動作を設定してください。
- 編集リモコンはJava VM Ver.1.5(Mac OSの場合は1.4.2)がインストールされている必要があります。お持ちのWWWブラウザで利用できるJavaのバージョンの確認をするには、画面下部右側の「Javaバージョンの確認」ボタンをクリックしてください。入手の方法は、⇨8ページをご覧ください。

● 編集リモコンを使う

リモコン画面上枠内でパソコンのマウスを操作します。

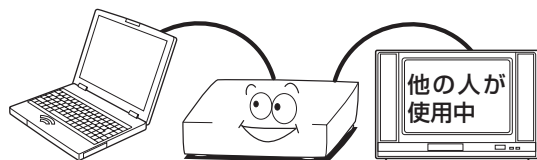
1. メニューの「編集リモコンモード」をクリックする

この枠内でマウスポインターを当てて操作を行ないます。枠内以外のところでクリックなどしても動作しません。

編集リモコンの設定にしたがって、本体が動作します。

お知らせ

- リモコン画面表示中に編集リモコンの設定をした場合は、リモコン画面を起動し直してから操作してください。

ネット de モニター

本機と接続しているパソコンで、放送中の番組や録画した番組を視聴することができます。(それ以外の場合には、正常に動作しないことがあります。)
本機と接続しているテレビを他の人が使用している場合などにお使いになると便利です。

ネット de モニターの設定

ネット de モニターをお使いになるために以下の設定を行ないます。

1 メニューの「ネットdeナビ設定」をクリックする

2 「リモコン／モニター設定」のボタンをクリックする

3 「ネットde モニター」の設定を行なう

画面サイズ：
ネット de モニターのモニターウィンドウサイズを設定します。
900 × 600 以上のサイズに設定すると、モニター画面は別ウィンドウで表示されます。

平均ビットレート：
本機からパソコンへのデータを転送する速度を設定します。
高く設定した場合、モニターウィンドウの映像は低く設定した場合よりも、きれいに映りますが、通信負荷がかかり場合によってデータの転送が不安定になります。

バッファリング時間：
本機からパソコンへ音声や動画データを転送するにはストリーミング方式を使用します。ストリーミングには待ち時間（バッファリング時間）を設定する必要があります。設定する時間は接続しているパソコンの処理速度やネットワーク環境に合わせて設定します。正常に映像が再生されない場合は、バッファリング時間を調整してみてください。

4 「登録」ボタンをクリックする

設定内容がお使いのブラウザに保存されます。

ネット de モニターをお使いになるには以下の条件が必要です。(➡ 43 ページもご覧ください。)

・本機に接続しているパソコンにQuickTime (Ver.7.0.2)がインストールされている。

ネット de モニターの起動

1 メインメニューの「ネットdeモニター」をクリックする

「ネットdeモニター」のウィンドウが表示されます。
バッファリングの設定時間によってQuickTimeの起動画面が約3〜8秒ほど表示されたあとに、映像が表示されます。

ネット de モニターで視聴する

ネット de モニター上で本機を操作する場合は、「ネット de リモコン」を使います。
(付属のリモコンや本機の操作ボタンでも操作することができます。)

1 「ネットdeリモコン」のボタンをクリックする

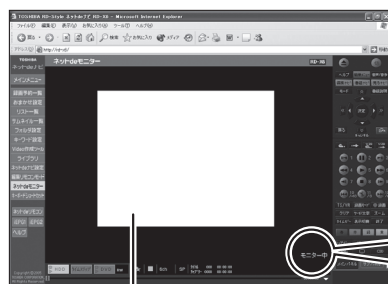
本機やリモコンのボタンが押されたときと同じ動作をします。
ネットdeモニターのモニターウィンドウでは、テレビで視聴しているときの映像よりもバッファリング設定時間によって数秒遅れて表示されます。そのため、ネットdeモニターのモニターウィンドウを見ながらチャプター編集などを行なうと、異なった場所で分割されるおそれがありますのでご注意ください。

ご注意

- ネットdeモニターの動作は、すべてのパソコンでの動作を保証するものではありません。また、Quick Timeの将来のバージョンで動作を保証するものではありません。

お知らせ

- ネットdeモニターの機能は同一のサブネットワーク内で接続されているパソコンでお使いになれる機能です。
  1台の本機に複数のパソコンが接続されている場合は、ネットdeリモコンとネットdeモニターの機能は、1台のパソコンでしか動作しません。

モニターウィンドウの見かた

表示される映像は圧縮されているため、テレビに表示される映像よりも粗くなります。

モニターウィンドウには以下の状態が表示されます。

「準備中」：
モニターウィンドウが起動し、表示するための準備をしています。

「モニター中」：
モニター起動中を表します。

「モニター不可」：
モニターできない状態を表します。
『「モニター不可」になる本機の状態について』をご覧ください。

・モニターウィンドウにマウスを合わせてクリックすると、画面が一時停止する場合があります。
解除するにはダブルクリックするか、いったんモニターウィンドウを閉じたあと、開きなおしてください。
・900×600以上の画面サイズの場合、モニター画面は別ウィンドウで表示されます。

お知らせ
- モニターウィンドウで表示される映像の画面比は4：3 相当です。
- モニターウィンドウで表示される画面は、テレビで表示する画面よりも広い範囲を表示するため、画面の周りがちらつくことがあります。
- モニター中にネットdeリモコンやブラウザを閉じると、モニターウィンドウも閉じます。
- モニターウィンドウで連続して視聴できる時間は9時間までです。9時間が経過すると、モニターが一度停止し、そのあとモニターが自動的に再開されます。
- 本機で「イーサネット設定」、「チャンネル設定」、「スカパー！設定」の変更を行なった場合はモニターが一度停止し、そのあとモニターが自動的に再開されます。
- 放送中の番組が二カ国語放送の場合、ネットdeモニターでは音声多重の設定にかかわらずLチャンネルに主音声、Rチャンネルに副音声が出力されます。
- 本機でデュアルモノラルで記録したタイトルを再生する場合は、再生時の音声多重の設定に従った音声が出力されます。
- 本機に接続しているパソコンにファイヤーウォールが設定されている場合、パソコン側で映像や音声を受けつけないことがあります。この場合、パソコンのファイヤーウォール設定を解除するか、QuickTimePlayerの「ストリーミング・トランスポート」をHTTPに設定してみてください。
- QuickTimePlayerの「ストリーミングプロキシ」の設定で「RTSP プロキシサーバ」が設定されていると、正常に動作しない場合があります。
- モニターウィンドウでは、QuickTimePlayerのマウスとキーボードのショートカットが有効になっていますが、一部の機能については対応していません。

「モニター不可」になる本機の状態について

モニターでの視聴ができないおもな本機の状態は以下のとおりです。

本機の状態	モニターウィンドウのメッセージ
R1が予約録画約15秒前、タイムスリップ中、予約録画中や通常の録画中などの状態。	モニター不可（本体録画中）
本機が画質指定ダビング状態。	モニター不可（本体画質指定ダビング中）
本機がDVD-Videoメニュー作成状態。	モニター不可（本体 DVD-Video メニュー作成中）
放送している映像がコピーワンスやコピー禁止、再生しているディスクの映像がコピー禁止、コピー禁止タイトルのプレビュー、コピー禁止タイトルの編集画面での再生状態。	モニター不可（コピー禁止信号検出）
本機がCDの再生状態。	モニター不可（本体 CD 再生中）
本機がDV連動録画中やGUI表示の状態。	モニター不可（本体 DV 連動録画 GUI 表示中）
本機が電源切りの処理中や、電源オフの状態。	モニター不可（本体電源 OFF）
本機がLine-U（ライン Uダビング）を選択している状態。	モニター不可（本体 Line-U 選局）
本機がDVD-Videoの96kHzAudio再生をしている状態。	モニター不可（本体 DVD-Video、Audio96kHz 再生中）
本機の内蔵HDDからDLNAの配信をしている状態。	モニター不可（本体 DLNA 配信中）
本機が設定メニューのGUIを表示している状態。	モニター不可（本体設定メニュー表示中）

ネット de モニターヘルプ

ネット de モニターが正常に動作しないときは、以下の項目を確認してください。

- 使用 OS、ブラウザ種類とバージョン、Java VM のバージョンはネット de ナビ（モニター）対応ですか？

→ DOS/V 互換機の場合：
OS: Windows® 2000 ／ XP
ブラウザ：Internet Explorer 6.0
Java VM: Ver.1.5

→ Macintosh の場合：
OS: Mac OS X（10.4）
ブラウザ：Safari 2.0.1
Java VM: Ver.1.4.2

- インストールされている QuickTime バージョン、設定、本機とパソコンのネットワーク接続、お使いのブラウザは正しく設定されていますか？

→ QuickTime バージョン：
Windows®、Mac OS ともに QuickTime7.0.2 がインストールされているか確認する。

→ QuickTime の設定：
QuickTimePlayer の「ストリーミング・トランスポート」の設定を確認する。
UDP を選択：通常はこちらを選択します。
HTTP を選択：パソコンにファイヤーウォール設定がされている場合、こちらを選択することで、本機からパソコンへ映像が正常に転送されます。
QuickTimePlayer の「ストリーミング・プロキシ」の設定を確認する。
RTSP を選択：「RTSP プロキシサーバ」が設定されていると、正常に動作しない場合があります。

→ ネットワーク接続状態を確認：
ネットdeナビの機能(見るナビなど)が正しく行なえるか確認する。
本機とパソコンが同一サブネット内か確認する。

→ ブラウザの設定を確認する：
お使いのブラウザ設定で Java が有効になっているか確認する。

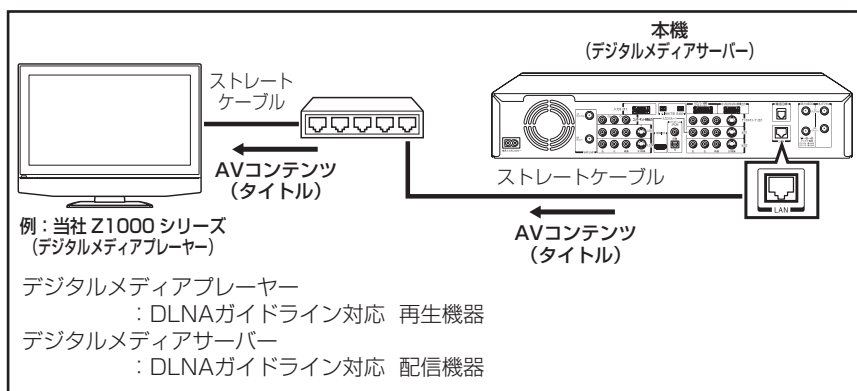
- モニターウィンドウの映像がカクカクしたり、止まってしまう。

→ 設定したモニターウィンドウサイズを小さくする。

→ 設定したビットレートやバッファリング時間を確認：
本機と接続しているパソコンやネットワーク環境に合わせた設定にします。パソコンの速度処理能力に合わせて設定すると、再生中や放送中の映像を正常に視聴できるようになる場合があります。

DLNA対応機器にタイトルを配信する

本機では、内蔵HDD、またはDVDディスクに録画したMPEG-PS（VRフォーマット)形式の映像コンテンツ(タイトル)を、ネットワークに接続した「DLNAガイドライン対応※」機器(デジタルメディアプレーヤー)に配信して、視聴をしていただくことができます。

デジタルメディアプレーヤー
：DLNAガイドライン対応　再生機器
デジタルメディアサーバー
：DLNAガイドライン対応　配信機器

●**配信できるコンテンツ**

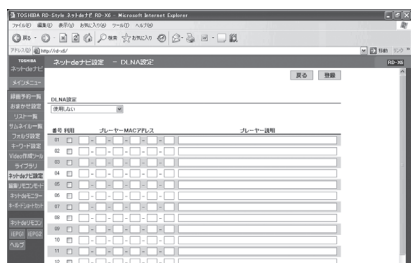
フォーマット：
映像　MPEG2-PS
（VRフォーマット）

映像に付随する音声：
リニアPCM、AC3、
MPEG1レイヤ2

同時配信可能本数：
2本(HDDから双方
とも配信時)

設定方法

準備

- 上記の図を参考に、本機とDLNAガイドライン対応※機器を接続しておきます。
- 接続できるのは、ホームネットワーク内の機器(同一サブネットに接続された機器)です。

1 「メインメニュー」の「ネットdeナビ設定」をクリックする

2 「DLNA設定」をクリックする

3 DLNA機能の使用方法を選択する

サーバー有効【フィルタ制限なし】：
同一ホームネットワーク内のすべてのデジタルメディアプレーヤーに映像を配信します。
サーバー有効【フィルタ制限あり】：
同一ホームネットワーク内のMACアドレスを登録したデジタルメディアプレーヤーにだけ、映像を配信します。
「あり」にしたときは、手順4の設定が必要です。
※不正なアクセスなどを防ぐため、通常は「フィルタ制限あり」に設定してください。

4 DLNA機能を使用する機器のMACアドレスを入力する

- 16台まで登録できます。
- 「利用」のチェックボックスをクリックして、その機器を利用するかどうかを設定することができます。
「✓」あり…利用する
「✓」なし…利用しない

→以降は、デジタルメディアプレーヤーのマニュアルを参考にして操作してください。

※

DLNA ガイドライン対応

本機は音楽、映像、画像などのコンテンツの種類に応じ、DLNAガイドラインv1.0に基づいて設計されています。正式なDLNA認定に向けて製品化されたもので、相互接続性を維持するために、本機のアップグレードを行う可能性があります。

お知らせ
- HDD からの配信は 2 本、DVD ドライブからの配信は 1 本となります。
- DVD からの配信中は、HDD から配信はできません。また、HDD からの配信中は、DVD からの配信はできません。
- 左記以外のフォーマットのコンテンツを配信することはできません。
- デジタル放送などのコピー制御が行なわれている蓄積コンテンツを配信することはできません。
- 編集したタイトルやプレイリストは、接続したデジタルメディアプレーヤーによっては再生できない場合や、映像・音声に乱れが生じる場合があります。

■Q&A

Q：接続できる機器は？
A：DLNAガイドラインv1.0に対応するデジタルメディアプレーヤーを搭載したAVパソコンやデジタルテレビ(Z1000)等です。

Q：ルーターやハブは通常品でよいですか？
A：はい。ただし、動作環境が有線LANの場合、100BaseTX以上を推奨します。

Q：2本同時配信はどんな環境でも可能ですか？
A：いいえ。
設置環境やネットワーク環境によっては、デジタルメディアプレーヤーで正常に再生できない場合があります。

Q：デジタル放送などを録画したデジタルコンテンツは扱えますか？
A：著作権保護が必要なコンテンツは配信することができません。

Q：無線LANは使えますか？　使えるとしたら制限などありますか？
A：使用可能です。ただし、本体には無線LAN機能は搭載しておりませんので、有線LAN接続の途中に無線LANコンバータを使用することになります。
映像コンテンツを再生する場合は、IEEE802.11a/g等の高速な無線LANを使用することを推奨します。ただし、設置環境や電波状態によっては正常に再生できない場合があります。

Q：配信時には、常に電源を入れておく必要があるのですか？
A：基本的にはその通りです。また、WakeOnLAN機能を利用していただくことにより、PC等から、ネットワーク越しに電源起動を行なうことが可能です。

ネット de ナビ・ヘルプ

「アクセスできない」、「ネットdeナビが作動しない」などの場合は、アフターサービスをご依頼になる前に、次の点をお調べください。

■本機にアクセスできない

- **本機の電源ははいっていますか？**
  本機が動作状態でなければ、パソコンからアクセスはできません。
- **Internet ExplorerやSafariなどの対応ブラウザで指定したIPアドレスは正しいですか？**
  DHCPによって自動的にIPアドレスが変更されている場合があります。リモコンの「設定メニュー」から「通信設定」の「イーサネット設定」画面を開き、IPアドレスを確認してください。Internet ExplorerやSafariなどの対応ブラウザに入力したIPアドレスと異なっている場合、イーサネット設定画面に表示されているIPアドレスをInternet ExplorerやSafariなどの対応ブラウザのアドレスに入力してください。また、本体ポート番号の値を変更すると、アクセスできるようになる場合もあります。この場合、本体名(IPアドレス)のあとに：を入れ、設定したポート番号を入力してアクセスします。
- **プロキシが設定されていませんか？**
  ご使用のインターネット接続環境で、プロキシの設定がされているとプライベートIPアドレスでのアクセスができない場合があります。この場合は、Internet Explorerの「ツール(T)」の「インターネットオプション(O)」にある「接続」のタブ内の「LANの設定(L)」を開き、「プロキシサーバー」の「詳細設定(C)」で「プロキシの設定」の例外に、本機に設定してあるIPアドレス(例：192.168.1.*)を入力して、プロキシから除外してください。なお、「LANの設定(L)」を開いたときに、「詳細設定(C)」がクリックできなければ、この項目に該当しませんので、接続できない理由はほかにあります。Mac OSでSafariをお使いの場合は、「Safari」の「環境設定」内の詳細をクリックし、「プロキシ」の「設定を変更…」を選びます。「プロキシの設定を使用しないホストとドメイン：」に本機に設定してあるIPアドレス(例：192.168.1.*)を入力して、プロキシから除外してください。

■Internet Explorer や Safari などの対応ブラウザが反応しなくなった

- 本機のナビ画面が表示できない場合と同様に、ネットdeナビ側から本機へアクセスできないときがあります。
  本機の処理が完了するのを待ってください。ネットdeナビによる操作では本機側からのメッセージは表示できませんので、本機の状態を直接確認してください。本機が特に動作していないのに反応がない場合は、Internet ExplorerやSafariなどの対応ブラウザを閉じて、本機の電源を入れ直し、本機が稼働状態になってからアクセスしてください。また、複数のパソコンと共有していたり、パソコンが一台でも複数のネットdeナビから本機にアクセスしていると、最後にアクセスしたネットdeナビだけが通信可能になりますのでご注意ください。
- 本体側のメッセージ表示中は、ネットdeナビ側からアクセスできません。画面表示を消してから操作してください。

■iEPG 予約が動作しない

- iEPGに関する設定が正しくない可能性があります。
  設定を確認してください。

■DVD-Video のオリジナルメニューが登録できない

- 背景に指定したビットマップファイルに問題がある場合があります。
  別のファイルなどで試してください。

機能設定

本機では、さまざまな機能があらかじめ設定されています。
お使いの条件やお好みに合わせて設定を変えられます。

設定メニュー一覧

・各項目の詳細は 51 ページからご覧ください。

DVDプレイヤー設定

- DVDディスクメニュー言語
- DVD音声言語
- DVD字幕言語
- DVD Dレンジコントロール
- ムービーボイス
- カラオケボーカル
- DVDパレンタルロック
- DVDビデオタイトル停止

操作・表示設定

- 画面表示設定
  - 画面表示
  - 透過度
  - スタートアップ
  - ブラウン管保護
  - バックカラー
- 操作音設定
  - 操作音設定
  - 終了時お知らせ音設定
- 時刻設定
  - 時刻設定／ジャストクロック
- TV画面形状
- 映像出力切換設定
- リモコンモード

再生機能設定

- 静止画
- 映像調整選択
- 映像調整
  - 設定1
  - 設定2
  - 設定3
- プログレッシブ変換
- 再生DNR
- デジタル音声出力設定
- バーチャルサラウンド設定
- ワンタッチスキップ設定
- ワンタッチリプレイ設定
- HDD/RAMタイトル再生設定
- スチル集再生速度

録画機能設定

- 録画品質設定
- 録画映像効果設定
  - 録画映像モード
  - 録画DNR
  - 3次元Y/C分離
- 録画解像度設定
- 録音入力レベル
- ライン音声選択
- DVD-RW記録モード設定
- Videoモード記録時設定
  - DVD互換モード
  - 画面比
- 録画のりしろ初期設定
- タイトルサムネイル設定

管理設定

- カギ付きフォルダ設定
- ジャンル設定
- HDD/ディスク管理
  - HDD初期化（番組表／ライブラリ保持）
  - HDD初期化（全削除）
  - DVD-RAM物理フォーマット
  - HDD記録領域設定
- DVDダビング速度
- 省エネ設定
  - 待機時省エネ設定
  - HDDパワーモード
- ソフトウェアのダウンロード
  - 放送からの自動ダウンロード
  - サーバからのダウンロード開始
  - ソフトウェアバージョン
- デジタル放送のお知らせ
  - 放送局からのお知らせ
  - 本機に関するお知らせ
  - ボード
- 設定を出荷時に戻す

通信設定

- イーサネット設定
- 通信接続方法選択
- Bluetooth設定

チャンネル/入力設定

- 地上アナログ設定
  - 地域選択
  - チャンネル設定変更

デジタル放送設定

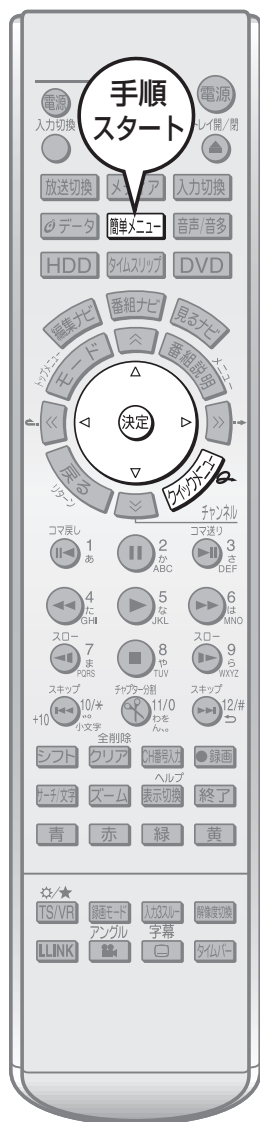
- 視聴設定
  - 暗証番号設定
  - 視聴年齢制限設定
  - 番組購入限度額設定
  - 番組購入履歴
  - 番組購入履歴の送信
- データ放送
  - 郵便番号と地域の設定
  - 文字スーパー表示設定
  - ルート証明書番号
- その他
  - 簡易確認テスト開始
  - B-CASカード番号表示

初回設定

- 受信設定
  - 地上Dアンテナレベル
  - BS･110度CSアンテナレベル
  - BSパススルーモード設定
  - BS中継器切換
  - 110度CS中継器切換
- チャンネル設定
  - 地上D自動設定
    - 初期スキャン
    - 再スキャン
  - 手動設定
  - チャンネルスキップ設定
- 電話回線設定
  - ダイヤル方式
  - 外線発信番号
  - 電話会社の設定
  - 電話番号通知設定
  - 電話回線テスト
    - 電話回線テスト
    - センター接続テスト
  - 待ち時間の設定

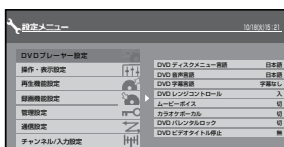
- BS・110度CSアンテナ電源設定
- ライン入力名設定
- スカパー！連動設定

設定の変更と機能の設定

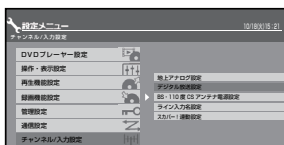
本機では、さまざまな機能があらかじめ設定されています。お使いの条件やお好みに合わせて設定を変えられます。

1 停止中に、 または 簡単メニュー を押す

※本体の「R1」またはリモコンの TS/VR を押して、本体の「R1」を点灯させてください。

2 方向ボタンで「設定メニュー」を選び、決定 を押す

設定画面が表示されます。

3 方向ボタン（▲/▼）で、設定したい項目のグループを選び、決定 を押す

- 目的の項目になるまで、この手順をくり返します。
  項目の内容は次のページからご覧ください。

例：「チャンネル／入力設定」を選んだとき

例：「チャンネル／入力設定」→「デジタル放送設定」を選んだとき

4 ⇨51 ページ以降の説明を参照して、方向ボタンなどで設定し、決定 を押す

- 同じグループの他の項目を設定するときは、手順 3、4 をくり返します。
- 他のグループに移るには、戻る を押してから、手順 3、4 を行ないます。

※一部 戻る が効かないメニューがあります。その場合は 終了 を押して画面を閉じ、再度手順 1 から行なってください。

5 終了 を押す

画面が消え、設定は完了です。

お知らせ

- 「設定メニュー」は、録画中、別タイトル再生中、タイムスリップ再生中、ダビング中には使えません。

DVD プレイヤー設定

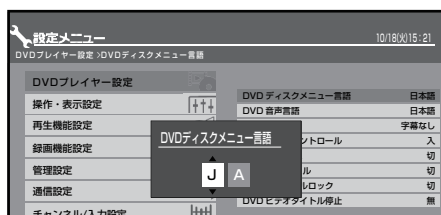
DVD ディスクメニュー言語

DVDビデオ

DVD ビデオディスクに記録してある各国語のディスクメニューのうち、どの言語を優先して表示するかを設定します。

英語：
英語でディスクメニューを表示します。

日本語：
日本語でディスクメニューを表示します。

その他：
ディスクメニューを表示する言語が選べます。
(決定) を押したあとで、以下の手順 1 ～ 4 を行なってください。

1 「言語コード表」（67 ページ）で、希望の言語のコードを確認する

2 方向ボタン（▲ / ▼）でコードの第 1 字を選ぶ

3 方向ボタン（◀ / ▶）でカーソルを移動させ、方向ボタン（▲ / ▼）でコードの第 2 字を選ぶ

4 (決定) を押す

お知らせ

- 該当する言語のディスクメニューがない場合は、ディスクで指定された言語で表示されます。

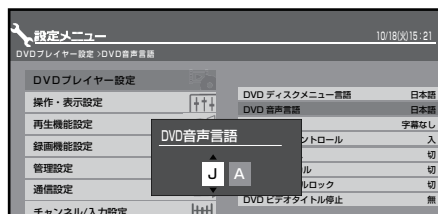
DVD 音声言語

DVDビデオ

DVD ビデオディスクに記録してある各国語の音声のうち、どの言語を優先して再生するかを設定します。

英語：
英語で音声を再生します。

日本語：
日本語で音声を再生します。

その他：
音声を再生する言語が選べます。
(決定) を押したあとで、以下の手順 1 ～ 4 を行なってください。

1 「言語コード表」（67 ページ）で、希望の言語のコードを確認する

2 方向ボタン（▲ / ▼）でコードの第 1 字を選ぶ

3 方向ボタン（◀ / ▶）でカーソルを移動させ、方向ボタン（▲ / ▼）でコードの第 2 字を選ぶ

4 (決定) を押す

お知らせ

- ディスクによっては、ディスクで決められている音声になります。

DVD 字幕言語

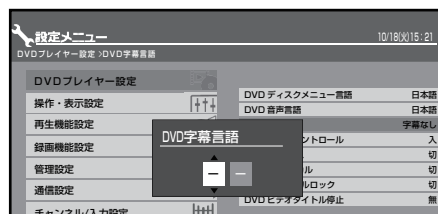
DVDビデオ

DVD ビデオディスクに記録してある各国語の字幕のうち、どの言語を優先して表示するかを設定します。

英語：
英語で字幕を表示します。

日本語：
日本語で字幕を表示します。

字幕なし：
字幕を表示しません。

その他：
字幕を表示する言語が選べます。
(決定) を押したあとで、以下の手順 1 ～ 4 を行なってください。

1 「言語コード表」（67 ページ）で、希望の言語のコードを確認する

2 方向ボタン（▲ / ▼）でコードの第 1 字を選ぶ

3 **方向ボタン（◀/▶）でカーソルを移動させ、方向ボタン（▲/▼）でコードの第2字を選ぶ**

4 **決定 を押す**

お知らせ
- ディスクによっては、ディスクで決められている言語で字幕が表示されることがあります。
- ディスクによっては、字幕の言語はディスクメニューを使って選ぶようになっている場合があります。このときは、「メニュー」でディスクメニューを表示させてから字幕の言語を選んでください。

DVD D レンジコントロール

DVDビデオ

夜間など、音量を下げて再生するときに、小さい音までよく聞こえるようにする機能です。

切：D レンジコントロール機能が働きません。

入：D レンジ機能が働きます。

お知らせ
- ドルビーデジタルで記録された市販の DVD ビデオディスクのときだけ、この機能が働きます。
- この機能の効果のレベルはディスクによって異なります。

ムービーボイス

DVDビデオ

DVD ビデオディスクを再生するときの音量を全体的に上げる機能です。

切：ムービーボイス機能が働きません。

入：ムービーボイス機能が働きまます。

お知らせ
- ドルビーデジタルで記録されたディスクのときだけ、この機能が働きます。
- この機能の効果のレベルはディスクによって異なります。

カラオケボーカル

DVDビデオ

DVD カラオケ対応ディスクで再生ボーカルを出力するかしないかを設定します。

切：ボーカル（歌声）を出力しません。

入：ボーカル（歌声）を出力します。

お知らせ
- ドルビーデジタルマルチチャンネルで記録された DVD カラオケディスクのときだけ、この機能が働きます。
- カラオケをお楽しみになるときは、本機にアンプ等を接続してください。

DVD パレンタルロック

DVDビデオ

パレンタルロックに対応した DVD ビデオディスクには、あらかじめ規制レベルが設定されています。規制レベルの内容および規制方法はディスクによって異なります。たとえばディスク全体が再生できない場合のほか、過激な暴力シーンをカットしたり、別のシーンに自動的に差し替えて再生されます。

お願い
- ディスクによっては、パレンタルロックに対応しているかどうかの区別がつきにくいものがあります。
  必ず、設定したパレンタルロックの機能が働くことを確認してください。

入：
パレンタルロック機能を働かせたり、設定の内容を変えるときに選びます。
決定 を押したあとで、下記の手順 1 ～ 3 を行なってください。

切：
パレンタルロック機能は働きません。
決定 を押したあとで、下記の手順 1 を行なってください。

1 **番号ボタンで 4 桁の暗証番号を入力し、決定 を押す**

初めてお使いになる場合は、番号ボタンで 4 桁の暗証番号を入力し、設定します。番号を入れまちがえたときは、決定 を押す前に 全削除 クリア を押して、入力し直します。

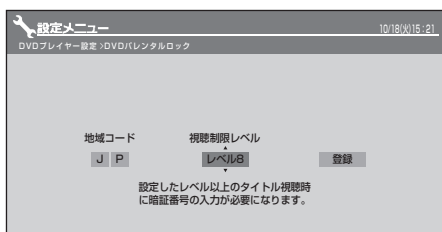
2 **下の表を参照して、設定したい規制レベルの国／地域のコードを入力する**

国／地域	コード
オーストラリア	AU
ベルギー	BE
カナダ	CA
中国	CN
中国香港	HK
デンマーク	DK
フィンランド	FI
フランス	FR
ドイツ	DE
インドネシア	ID

イタリア	IT
日本	JP
マレーシア	MY
オランダ	NL
ノルウェー	NO
フィリピン	PH
ロシア	RU
シンガポール	SG
スペイン	ES
スウェーデン	SE
スイス	CH
台湾	TW
タイ	TH
イギリス	GB
アメリカ	US

a) 方向ボタン(◀/▶)でカーソルを移動させ、方向ボタン（▲/▼）でコードの第1字を選ぶ

b) 方向ボタン(◀/▶)でカーソルを移動させ、方向ボタン（▲/▼）でコードの第2字を選ぶ

3 **方向ボタン（▲/▼）で設定したい規制レベルを選び、決定 を押す**

選んだ規制レベルより上のレベルのディスクは、パレンタルロックを「切」にしないかぎり、再生できなくなります。たとえばレベル7を設定すると、レベル8以上はロックされ再生できなくなります。

4 **方向ボタン（◀/▶）で「登録」を選び、決定 を押す**

「US」以外を選んだ場合のレベル設定は将来のために用意されたものです。適切な設定レベルは、実際にパレンタルロックに対応したDVDビデオディスクをお買い上げになられたときに、お客様ご自身で動作させてご確認ください。

「US」を選んだときの規制レベルは、次のように対応しています。

レベル7：NC-17　　レベル3：PG
レベル6：R　　レベル1：G
レベル4：PG13

■パレンタルロックの規制レベルを変えるには手順1～4を行なう

■暗証番号を変えるには

1 **「入」または「切」を選び 決定 を押し、暗証番号入力画面で スキップ +10 ⏮ 10/* を4回押し、さらに 決定 を押す**

暗証番号が解除されます。

2 **番号ボタンで新しい4桁の暗証番号を入力する**

3 **決定 を押す**

お知らせ

- DVDパレンタルロックの暗証番号は、「デジタル放送設定 - 視聴設定」の「暗証番号設定」での暗証番号とは別のパレンタルロック専用の番号です。お間違いのないようにしてください。

DVDビデオタイトル停止

DVD-RW (Videoモード) | DVD-R (Videoモード) | DVDビデオ

DVDビデオディスクの再生時、一つのタイトルが終わったら再生をやめるか、そのまま続けるかを設定します。VRフォーマットのDVD-R/RWでは機能しません。

無：
一つのタイトルが終わってもそのまま次のタイトルが再生できます。

有：
一つのタイトルが終わったら、ディスクの作りに応じた動作をします。
本機でダビングした未ファイナライズのDVD-R/RWの場合は、次のタイトルが再生されます。ただし次のタイトルがない場合、再生が停止します。

操作・表示設定

画面表示設定

画面表示

HDD | DVD-RAM | DVD-RW | DVD-R | DVDビデオ | CD

本機の動作状態 (「 ▶ 」など) を画面に表示するかどうかを設定します。

切：
「 ▶ 」などの動作状態を画面に表示しません。

入：
「 ▶ 」などの動作状態を画面に表示します。

透過度

HDD	DVD-RAM	DVD-RW	DVD-R	DVDビデオ	CD

メニューやアイコンなどの画面表示の濃さを変えて、下の画像が透けて見えない度合いを選びます。

透過しない：やや透過：透過する

スタートアップ

電源を入れたときに自動的に表示する動画の有無を設定します。

切：
スタートアップ画面を表示しません。

入：動画
電源を入れたときに、自動的にスタートアップ画面を表示します。

ブラウン管保護

HDD	DVD-RAM	DVD-RW	DVD-R	DVDビデオ	CD

テレビ画面の焼付き軽減のために、再生画像の一時停止状態やGUI表示（「見るナビ」画面など）が無操作で約15分続くと、テレビ画面などに戻る機能です。
この機能を「入」にしておくと、本機がフリーズしても15分ほど放置しておくと復帰できる場合があります。

切：
ブラウン管保護機能は働きません。

入：
ブラウン管保護機能が働きます。

この機能は、テレビ画面の焼付き防止を保証するものではありません。

バックカラー

放送のないチャンネルを選んだときなど、映像入力信号のないときの画面の色を選びます。

切：色を設定しません。

黒：黒の画面色が設定されます。

青：青の画面色が設定されます。

お願い

- 受信の状態などによっては、映像が見えるときにバックカラーが働いたり、映像が見えないときにバックカラーが解除されることがあります。バックカラーの途切れが気になるときは「切」にしてください。

お知らせ

- デジタル放送の場合は、この機能は働きません。ただし、デジタル放送受信中にCDを再生したときは、設定しているバックカラーになります。

操作音設定

操作音設定

HDD	DVD-RAM	DVD-RW	DVD-R	DVDビデオ	CD

本機を操作したときの操作音の有無を設定します。

切：
操作音は鳴りません。

入：
操作音が鳴ります。

お知らせ

- ダビングの失敗など、警告のためのブザー音はこの設定にかかわらず消せません。

終了時お知らせ音設定

HDD	DVD-RAM	DVD-RW	DVD-R

ダビングなどを終了するときのブザー音の有無を設定します。

切：
ブザー音は鳴りません。

入：
ブザー音が鳴ります。

お知らせ

- ダビングの失敗など、警告のためのブザー音はこの設定にかかわらず消せません。

時刻設定／ジャストクロック

接続・設定編31、64ページをご覧ください。

TV画面形状

HDD	DVD-RAM	DVD-RW	DVD-R	DVDビデオ

接続しているテレビの画面形状に合わせて、優先して再生したい画面形状を設定します。
設定の詳細は、接続・設定編33ページ「テレビ画面形状を設定する」をご覧ください。

映像出力切換設定

接続しているテレビやビデオシステムに合わせて、本機からの映像出力（解像度）の対応範囲を設定します。

S映像優先：
S1映像出力端子にコードを接続しているときは、映像出力をD1出力（480i）だけに限定します。（本機のS1映像出力端子にコードを接続しているだけでもD1出力に限定するので、ご注意ください。）

起動時480i：
リモコンの［解像度切換］でD1→D2→D3→D4→D1…と映像出力の切換えができます。
ただし、次回に本機の電源をいれたときには必ずD1出力になります。

切換可：
リモコンの 解像度切換 で D1→D2→D3→D4→D1…と映像出力の切換えができます。

HDMI 優先：
本機に接続している HDMI 対応機器が対応している解像度だけ切り換えます。本体表示窓の「HDMI 表示」が点灯しているときは、リモコンの 解像度切換 で接続している機器の対応している範囲内で切換えることができます。

リモコンモード

リモコンのモードを設定します。当社製の 2 台目、3 台目の HDD&DVD ビデオレコーダーを使うときに、それぞれ異なったリモコンモードに設定すれば、誤操作の防止に役立ちます。
設定の詳細は、接続・設定編 68 ページ「リモコンの設定（2 台目、3 台目をリモコンで操作する）」をご覧ください。
DR1：DR2：DR3

再生機能設定

静止画

HDD | DVD-RAM | DVD-RW | DVD-R | DVDビデオ

一時停止させたときの画像の解像度を設定します。

自動：
通常はこの設定にします。動きのある画像でもぶれずに一時停止します。

フレーム：
動きのない画像を、特に高解像度で一時停止させたいときに選びます。

映像調整選択

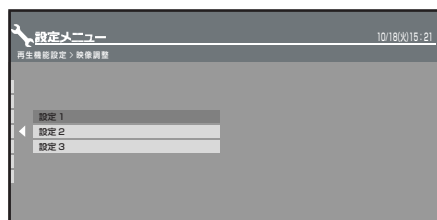
HDD | DVD-RAM | DVD-RW | DVD-R | DVDビデオ

画質の設定を 4 種類（標準／設定 1 ／設定 2 ／設定 3）
のうちから選びます。

映像調整

HDD | DVD-RAM | DVD-RW | DVD-R | DVDビデオ

設定 1 ～ 3：
調整した画質の設定をそれぞれに記憶できます。

1 方向ボタン（▲ / ▼）で、記憶する番号（1 ～ 3）を選び、決定 を押す

2 方向ボタン（▲ / ▼）で調整項目を選び、方向ボタン（◄ / ►）で値を調整する

明るさ
(0) 暗くなる ⇔ 明るくなる (14)
コントラスト
(− 7) 淡くなる ⇔ 濃くなる (7)
色の濃さ
(− 7) 薄くなる ⇔ 濃くなる (7)
色調
(− 7) 赤色が強くなる ⇔ 緑色が強くなる (7)
シャープネス
(ソフト) 輪郭をソフトに ⇔ 切 ⇔ 輪郭をシャープに (シャープ)
ガンマ
切／ 1 ／ 2
暗い画面で動作が見えないときに調整します。

3 調整が終わったら、決定 を押す

お知らせ
- D1 出力時以外は、明るさ、色の濃さ、色調は無効となります。
- デジタルチューナー出力からの映像には、この設定は無効となります。
- HDMI 出力時には、この設定は無効となります。

プログレッシブ変換

HDD | DVD-RAM | DVD-RW | DVD-R | DVDビデオ

DVD ビデオディスクの記録内容には、一般的にフィルム素材（フィルム映像を 24 コマ / 秒で記録）とビデオ素材（映像情報を 30 コマ / 秒で記録）の 2 種類があります。映像の種類に合わせて設定します。

自動：
通常の設定です。映像の種類がフィルム素材かビデオ素材かを自動的に判別し、それぞれ適した方法でプログレッシブ出力に変換します。

ビデオ：
映像をフィルター処理し、プログレッシブ出力に変換します。一般放送やビデオカメラで撮影された映像を見るのに適しています。

フィルム：
フィルム素材の映像を最適な方法でプログレッシブ出力に変換します。映画番組などを見るのに適しています。

お知らせ
- 映像によっては、輪郭がギザギザになったり、映像が二重にぶれて見えることがあります。

再生 DNR

HDD | DVD-RAM | DVD-RW | DVD-R | DVDビデオ

ノイズを低減して再生する設定を選びます。
方向ボタン（▲/▼）で、設定する項目を選び、
方向ボタン（◀/▶）で、「入」または「切」を設定します。

3D-DNR：

切： この機能は働きません。

入： 映像信号に混入している全体的なノイズを低減します。

モスキート NR：

切： この機能は働きません。

入： MPEG 圧縮時に映像の輪郭部分に発生するモスキート（ちらつき）ノイズを低減します。

ブロック NR：

切： この機能は働きません。

入： MPEG 圧縮時に動きの激しい映像で画面の一部がブロック状にみえるノイズ（ブロックノイズ）を低減します。

DNR とは、Digital（デジタル） Noise（ノイズ） Reduction（リダクション）の略です。

お知らせ
- ディスクや場面によって、DNR 効果がわかりにくいことがあります。
- 設定を「入」にしたときに、場面によっては、細かな画像が見えにくくなることがあります。
- 設定を「入」にしたときに、ディスクや場面によっては残像が発生したり、輪郭部のノイズが増加することがあります。このときは設定を「切」にしてください。
- 「TS」で録画したタイトル以外を再生したときに働きます。ただし、多重動作のときなど、一部働かない場合があります。

デジタル音声出力設定

HDD | DVD-RAM | DVD-RW | DVD-R | DVDビデオ | CD

接続のしかたに合わせて、どの音声方式を出力するかを設定します。
出力される音声の種類については ➡66 ページをご覧ください。

ビットストリーム：
ドルビーデジタル、DTS、AAC のデコーダを内蔵したアンプを本機に接続しているとき。
ドルビーデジタル、DTS、AAC で記録されたディスクを再生すると、それらのビットストリーム音声を出力します。

PCM：
2ch デジタルステレオアンプを本機に接続しているとき。
ドルビーデジタル、AAC で記録されたディスクを再生すると、PCM（2ch）に音声を変換して出力します。

HDMI-AUTO：
ドルビーデジタル、DTS、MPEG、リニア PCM のデコーダを内蔵した HDMI 対応機器を本機に接続しているとき。
ドルビーデジタル、DTS で記録されたディスクを再生すると、それらのビットストリーム音声を出力します。
接続した HDMI 機器がドルビーデジタルまたは MPEG に対応していないときは、リニア PCM に音声を変換して出力します。DTS に対応していないときは、音声出力はしません。

バーチャルサラウンド設定

HDD | DVD-RAM | DVD-RW | DVD-R | DVDビデオ

二つのスピーカーだけでも奥行きや広がりのある音響効果で再生できます。

切：
バーチャルサラウンド効果は働きません。

入：
バーチャルサラウンド効果が働きます。

お知らせ
- デジタル放送を TS 録画（TS 画質で録画）したタイトルでは、この機能は働きません。
- ドルビーデジタルで記録されたディスクのときだけ、この機能が働きます。
- ビットストリーム／ PCM 光または同軸端子でアンプなどに接続している場合は、デジタル音声出力設定が PCM のときだけこの機能が働きます。
- この機能が働くと音量が変わったように感じることがあります。
- この機能が働くと、ドルビープロロジックサラウンドが働かないかまたは通常と違って聞こえることがあります。
- 音声が歪む場合、バーチャルサラウンド設定を「切」にしてください。

ワンタッチスキップ設定

HDD	DVD-RAM	DVD-RW	DVD-R	DVDビデオ	CD

「ワンタッチスキップ 」を押したときにスキップする幅を選びます。

5 秒：10 秒：30 秒：5 分

ワンタッチリプレイ設定

HDD	DVD-RAM	DVD-RW	DVD-R	DVDビデオ	CD

「ワンタッチリプレイ 」を押したときに戻る幅を選びます。

5 秒：10 秒：30 秒：5 分

HDD/RAM タイトル再生設定

HDD	DVD-RAM

最後に再生した場所をタイトルごとに記憶させるかどうかを選びます。

タイトル毎レジューム：
最後に再生した場所をタイトルごとに記憶させ、次回はそこから再生をはじめられます。

タイトル連続再生：
内蔵 HDD または DVD-RAM それぞれの中にあるタイトル（オリジナル、プレイリスト）を通して再生できます。タイトルの壁がないので停止位置は最後の一箇所を記憶します。
タイトルごとのレジュームはなくなり、内蔵 HDD、DVD-RAM それぞれに一つずつになります。

お知らせ

- タイトル連続再生を設定していても、「追っかけ再生」の際に一度再生を停止して、再び再生をはじめたときは、その録画タイトルの先頭から再生になります。

スチル集再生速度

HDD	DVD-RW (VRモード)	DVD-R (VRモード)

静止画集を再生するときの、静止画 1 枚あたりの表示時間を設定します。
1 秒：2 秒：3 秒：5 秒：10 秒：ディスク指定値

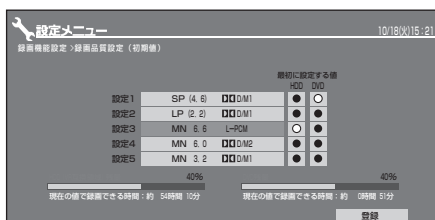
録画機能設定

録画品質設定

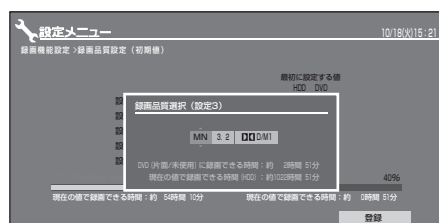
HDD	DVD-RAM	DVD-RW (VRモード)	DVD-R (VRモード)

録画するときの画質と音質を組み合わせて（5 とおりまで）、録画先ごとにあらかじめ決めておけます。

デジタル放送を HDD に高画質で録画する場合は本体の「TS」ボタン、またはリモコンの「W 録／TS」ボタンなどで TS 画質を選択することができます。（操作編 53 ページ）
ここでの設定は、通常録画、および録画予約時の初期値として使われます。

例

画質・音質の組合せを作る

1 方向ボタンで組合せを変更したい設定（1 ～ 5）を選び、決定 を押す

2 方向ボタン（◄ / ►）で、項目（「モード」、「レート」、「音質」）を選ぶ

3 方向ボタン（▲ / ▼）で設定を変え、決定 を押す

録画品質を選ぶ

1 方向ボタンで、録画先（HDD/DVD）の録画予約の初期値に指定したい設定（1 ～ 5）の HDD/DVD 欄を選び、決定 を押す

2 「登録」を選び 決定 を押す

お知らせ

- 組合せの変更は、停止中、「ライブラリ」画面の「クイックメニュー」、録画予約画面、ダビング画面などからでもできます。変更はそれぞれ一時的なものですが、「設定 1 ～ 5 の初期値を変更」から変更すると、本機の設定が更新されます。
- 「SP」「LP」に設定すると「L-PCM」は選べません。
- 音質設定によって、画質設定のレートの上限が異なります。
- 画質のマニュアルレートは、1.0 から 9.2 の間で 0.2 刻みで設定できます。（1.0 から 1.4、1.4 から 2.0 の間は設定できません。）

録画映像効果設定

録画映像モード

HDD | DVD-RAM | DVD-RW (VRモード) | DVD-R (VRモード)

内蔵地上アナログチューナーやライン入力からの映像信号の明るさを調整します。
（本機の「再生機能設定」の「映像調整」（55 ページ）で調整しきれない場合に使用してください。）

お願い

この設定は録画される映像信号に影響し、録画後に設定を変更しても録画済みの映像は元に戻りませんのでご注意ください。
ビデオテープからダビングするときなど、事前に画像の記録状態が確認できる場合は、まずしばらく再生して明るさの全体的な傾向を確認し、その上で設定されることをお勧めします。

標準：
本機で受信した信号や外部入力からの信号の明るさを、自動的に調整して記録します。通常はこの設定でご使用ください。

モード 1：
画面が明るすぎた場合に暗くして記録します。

モード 2、3、4：
数字が大きくなるにしたがって徐々に明るくなります。明るさの調整にご使用ください。

録画 DNR

HDD | DVD-RAM | DVD-RW (VRモード) | DVD-R (VRモード)

内蔵地上アナログチューナーや外部映像入力端子からのノイズの多い映像からノイズを低減する 3 次元デジタルノイズリダクションのレベルを、映像に合わせて選びます。

切：3 次元デジタルノイズリダクションは働きません。

弱：効果が弱く働きます。

強：効果が強まります。

お知らせ

- 残像やちらつきが気になる場合は「切」にしてください。

3次元Y／C分離

HDD | DVD-RAM | DVD-RW (VRモード) | DVD-R (VRモード)

録画時に働く 3 次元デジタルフィルターによる Y/C（輝度／色）分離で、絵柄の上下境界で目立つ点状のちらつきや、こまかい絵柄で発生する色のちらつきを低減させます。

切：
この機能は働きません。
電波の受信状態が悪い地域での受信映像や残像が気になる場合にはこちらに設定します。

入：
この機能が働きます。
通常はこの状態に設定してください。

お知らせ

- 「3 次元 Y/C 分離」は、内蔵地上アナログチューナーや映像入力（黄）端子からの信号のときにしか働きません。S 端子および D 端子入力のときには、「3 次元 Y/C 分離」を切り換えても変化はありません。

録画解像度設定

HDD | DVD-RAM | DVD-RW (VRモード) | DVD-R (VRモード)

録画の際に設定されている画質（モード／レート）にあわせて、最適な解像度で録画するか、できる限り高い解像度で録画するかどうかを設定します。

最適解像度：
画質（モード／レート）によって、レートが高い場合は高い解像度が、低い場合は低い解像度が利用されます。
VR モードか Video モードか *1 によっても、異なる解像度が利用されます。

高解像度：
LP モード同等の 2.0Mbps 以上の画質は、すべて最も高い解像度に固定されます。
VR モードと Video モードで同じ解像度が利用されます。

*1 「Video モード記録時設定」（あとで DVD-R/RW（Video モード）にダビングすることを前提とした設定）の「DVD 互換モード」が「入」ならば Video モード、「切」ならば VR モードと判断します。

●参考：画質レートと録画解像度の対応表

画質（レート）	最適解像度		高解像度
	DVD互換モード		DVD互換モード
	切（VRモード用）	入（Videoモード用）	切／入（VR/Videoモード用）
9.2～4.0	720×480（フルD1）	720×480（フルD1）	720×480（フルD1）
3.8～3.0	544×480（3/4D1）	352×480（1/2D1）	
2.8～2.0	480×480（2/3D1）		
1.9～1.0	352×240（SIF）	352×240（SIF）	352×240（SIF）

録音入力レベル

HDD　DVD-RAM　DVD-RW（VRモード）　DVD-R（VRモード）

録画時の音声入力レベルを設定します。
方向ボタン（▲/▼）で、設定する項目を選び、方向ボタン（◀/▶）で入力レベルを設定します。

地上アナログ　(L)：地上アナログチューナーの左チャンネル
　(R)：地上アナログチューナーの右チャンネル

入力1　(L)：外部入力端子の左チャンネル
　(R)：外部入力端子の右チャンネル

入力2　(L)：外部入力端子の左チャンネル
　(R)：外部入力端子の右チャンネル

入力3　(L)：外部入力端子の左チャンネル
　(R)：外部入力端子の右チャンネル

ライン音声選択

HDD　DVD-RAM　DVD-RW　DVD-R

本機に接続している外部機器から録画するときに音声を設定します。

ステレオ：
ステレオで記録します。

L：
左チャンネルの音声だけを記録します。

R：
右チャンネルの音声だけを記録します。

主＋副：
HDD、DVD-RAM や DVD-R/RW（VR モード）に録画する場合、二カ国語放送などを二重音声で録画するときに選択します。

DVD-RW 記録モード設定

DVD-RW

DVD-RW をフォーマットするときの録画モードを設定します。

Video モード：
Video モードでフォーマットされます。

VR モード：
VR モードでフォーマットされます。

Video モード記録時設定

HDD　DVD-RAM　DVD-RW　DVD-R

DVD 互換モード

録画するときに、DVD-Video 規格に記録できるようなかたち（映像や音声などの情報）で録画をするかどうかを設定します。
HDD、DVD-RAM に録画したタイトルを DVD-R/RW にダビングや DVD-Video 作成する際に必要となる設定です。

切：
DVD-Video 作成を前提としません。画質・音質の設定によっては DVD-Video 作成ができない場合もあります。

入（主音声）：
DVD-R/RW（Video モード）に記録できる状態で録画し、音声多重放送の場合、元の主音声だけを左右のチャンネルに記録します。

入（副音声）：
DVD-R/RW（Video モード）に記録できる状態で録画し、音声多重放送の場合、元の副音声だけを左右のチャンネルに記録します。

お知らせ

- 画質のマニュアルレートが 2.0 から 3.8 のときは、「入」に設定すると、「切」の場合よりも画質が下がる場合があります。
- 「クイックメニュー」からも DVD 互換モードが設定できます。
- 録画後に DVD 互換モードを「入」にして高速そのままダビングしても効果はありません。
- デジタル放送では、録画時と同じ音声出力となります。

画面比

DVD-R/RW ダビング時の画面比を設定します。

4：3 固定

アスペクト比を 4：3 で固定します。

16：9 固定

アスペクト比を 16：9 で固定します。

お知らせ

- レート 1.4Mbps 以下で画面比 16：9 で録画したタイトルは、DVD-R/RW(Video モード）へダビングすると、画面比を４：３に変更してダビングします。

録画のりしろ初期設定

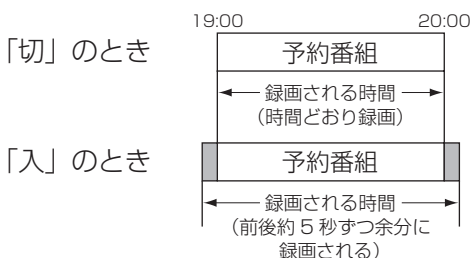
HDD | DVD-RAM | DVD-RW (VRモード) | DVD-R (VRモード)

「番組ナビ－録画予約（詳しい設定)」画面での、予約録画の前後をそれぞれ約５秒間増やして録画する設定（録画のりしろ設定操作編 119 ページ）の初期値を選びます。
デジタル放送は、地域によっては最大４秒の映像の遅れが発生することがあります。この設定をすることで、映像の遅れが発生しても録画が欠けないように対応することができます。

切：予約にのりしろはつきません。

入：予約にのりしろがつきます。

（例）

録画のりしろ設定

タイトルサムネイル設定

HDD | DVD-RAM | DVD-RW | DVD-R

録画したタイトルの最初からどのくらい経過した場面をタイトルのサムネイルにするかを選びます。

0 秒：3 秒：10 秒：35 秒：1 分：5 分

お知らせ

- サムネイルは他の場面にも変更できます。操作編 72、153 ページをご覧ください。

管理設定

カギ付きフォルダ設定

カギ付きフォルダを使う、使わないを設定します。
操作編 88 ページをご覧ください。

ジャンル設定

HDD | DVD-RAM | DVD-RW | DVD-R

よく使うジャンル名を登録しておけます。ここで登録したジャンル名が、「My ジャンル番組リスト」の「My ジャンル設定」の「ジャンル選択」画面（操作編 126 ページ）などに表示されます。

1 **方向ボタン（▲ / ▼）で「設定 1」～「設定 10」から変更したい項目を選び、決定 を押す**
ジャンルグループの選択画面が表示されます。

2 **方向ボタン（◀ / ▶）で登録したいジャンルを含むグループを選ぶ**
ジャンル名の選択項目に移動します。

3 **方向ボタンでジャンル名を選び、決定 を押す**
選んだジャンルが選んだ項目の場所に設定されます。

4 **手順 1 ～ 3 をくり返してジャンル名を登録する**

5 **登録が終わったら、 を押して「管理設定」のメニューに戻る**

HDD ／ディスク管理

HDD 初期化（番組表／ライブラリ保持）

HDD

内蔵 HDD 内のタイトルを全部一度に削除します。録画内容だけが削除されますので、DVD ディスク（VR モード）のライブラリ情報や番組表はそのまま残り、引き続き利用できます。

1 **方向ボタン（◀ / ▶）で「はい」を選び、決定 を押す**

2 **メッセージを確認し、方向ボタン(◀/▶)で「はい」を選び、決定 を押す**
削除が始まります。
削除しないときは、「いいえ」を選びます。

お知らせ

- 定期的に「HDD 初期化（番組表／ライブラリ保持）」をすると、断片化（ディスクの複雑化）が改善されるため、快適にご使用になれます。
- カギ付きフォルダ内のタイトルも削除されます。

HDD 初期化（全削除）

HDD

内蔵 HDD を初期化します。
内蔵 HDD は通常初期化する必要はありませんが、HDD 自身が何らかのトラブルで正常に使用できなくなった場合は、初期化をすることで元どおり使用可能になる場合があります。ただし、HDD を初期化すると、中に録画してあるタイトルと、それまでのライブラリ情報や番組表がすべて消去されます。

1 方向ボタン（◀/▶）で「開始」を選び、(決定) を押す

2 メッセージを確認し、方向ボタン（◀/▶）で「開始」を選び、(決定) を押す

初期化が開始されます。
初期化しないときは、「中止」を選びます。

お知らせ

- 「HDD 初期化（全削除）」を実行すると、カギ付きフォルダ設定は「切」となり、暗証番号も解除されます。

DVD-RAM 物理フォーマット

DVD-RAM

DVD-RAM の物理フォーマットを実行します。
操作編 55 ページをご覧ください。

HDD 記録領域設定

内蔵 HDD の TS 録画（TS 画質で録画）用の記憶領域とその他の録画の記憶領域の確保をする比率を設定します。
詳しくは操作編 59 ページをご覧ください。

DVD ダビング速度

HDD DVD-RAM DVD-RW DVD-R

「高速そのまま」ダビング（操作編 160 ページ）をする際のダビングの速さを設定します。

高速：
高速でダビングします。

低速（静音）：
速度は少し遅くなりますが、ダビングの作業音がおさえられます。

省エネ設定

待機時省エネ設定

待受状態の本体表示を設定します。

切：
点灯します。

セーブ：
待機時に自動的に消灯します。

HDD パワーモード

無操作時の内蔵 HDD の回転を、一定時間経過後に自動的に止める省電力機能です。

標準：
HDD パワーモードの設定をしません。

セーブ：
約 5 分以上にわたって、内蔵 HDD に何もアクセスがないときに、内蔵 HDD の回転を止めます。（省電力モード）
内蔵 HDD が停止している状態では、HDD 側の再生ボタンや録画ボタンを押してから実際の動作が開始するまでの時間が少し長くかかります。

ソフトウェアのダウンロード

放送からの自動ダウンロード

この設定をすることによって、デジタル放送の放送局から送信される自動ダウンロード用のソフトウェアを自動的にダウンロードすることができます。
73 ページをご覧ください。

サーバーからのダウンロード開始

東芝サーバーからソフトウェアのダウンロードをします。
73 ページをご覧ください。

ソフトウェアバージョン

現在の本機のソフトウェアのバージョンが表示されます。
73 ページをご覧ください。

デジタル放送のお知らせ

放送局からのお知らせ

放送局から送られてくるお知らせを表示します。地上デジタル放送で 7 通まで、BS デジタル／ 110 度 CS デジタル放送で 24 通まで表示が可能です。表示数の上限を超えた場合は日付の古いものから削除されます。（未読のものも削除されます。）

本機に関するお知らせ

本機に関する情報を表示します。表示数の上限を超えた場合は日付の古いものから削除されます。（未読のものも削除されます。）

ボード

110 度 CS デジタル放送のご案内やお知らせを表示します。110 度 CS デジタル放送のそれぞれに対し、現在送信されているものが 50 通まで表示されます。

設定を出荷時に戻す

時刻設定の日付・時刻、リモコンモード、HDD 記録領域設定などを除いた各種設定内容をお買い上げ時の状態に戻します。
「デジタル放送設定」－「視聴設定」の「暗証番号設定」で暗証番号を登録したときは、この操作を行なうには設定した暗証番号の入力が必要になります。

通信設定

イーサネット設定

 12 ページをご覧ください。

通信接続方法選択

番組によっては、通信方式をダイヤルアップ通信に指定してくる場合があり、その場合にダイヤルアップ通信を行なうようにするかどうかを設定します。
詳しくは 14 ページをご覧ください。

Bluetooth 設定

接続・設定編 71 ページをご覧ください。

チャンネル／入力設定

地上アナログ設定

接続・設定編 34 ページをご覧ください。

デジタル放送設定

接続・設定編 38 ページ～をご覧ください。

BS・110 度 CS アンテナ電源設定

接続・設定編 56 ページをご覧ください。

ライン入力名設定

本機に接続している外部機器に合わせて機器名の表示を設定します。設定した機器名は番組ナビ － 録画予約一覧の「CH」などに表示されます。

L1：入力 1 に接続した外部機器名を設定します。

L2：入力 2 に接続した外部機器名を設定します。

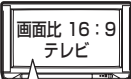
L3：入力 3 に接続した外部機器名を設定します。

- 設定無し：DTV：CS：110CS：BS-A：BS-D：地上 D：CATV：VTR1：VTR2：VTR3：LD：CAM：ゲームからそれぞれ選択します。

スカパー！連動設定

本機にスカパー！チューナーを接続してお使いになるときに設定します。
接続・設定編 69 ページをご覧ください。

参考情報

パソコンで本機を操作するための接続や設定を説明します。

4 アスペクト比（画面比）について

アスペクト比とは、映像を構成する画面（映像）サイズの幅と高さの比で、4:3 放送とワイド放送（スクィーズ放送、レターボックス放送）があります。放送の収録時にはこれらの異なるアスペクト比の素材が存在し、テレビ側でこのアスペクト比を変換して表示しています。

表のイラストについて

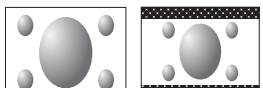
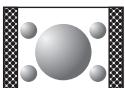
例）
（△）ー 該当の TV 画面形状設定を行なったときの、問題あり／なしを表します。
（○）：画面に映像が正しく表示されます。
（△）：設定自体は間違いではないが、最適ではない状態です。
（×）：画面に映像が正しく表示されません。

お使いのテレビと本機の設定 ＼ 放送で送られてくる映像の種類			1 4：3 放送（通常放送） 通常は 4:3 または「ノーマル」と呼ばれています。 （地上アナログ、CATV（ライン入力）、スカパー！（ライン入力）、地上デジタル、110 度 CS デジタル、BS デジタル、市販 DVD ソフト）	2 ワイド放送（レターボックス放送） ハイビジョンやワイドサイズで撮影した映像を、DVD や LD、一部のビデオソフトに編集する際に上下に黒い帯を入れることによってノートリミングで収録したものです。 （地上アナログ、CATV（ライン入力）、スカパー！（ライン入力）、地上デジタル、110 度 CS デジタル、BS デジタル、市販 DVD ソフト）
お使いのテレビ 画面比 4：3 テレビ	本機のTV画面形状設定	4：3LB	（○）正常	（○）正常
		4：3 ノーマル（推奨設定）	（○）正常	（○）正常
		16：9 ワイド	（○）正常	（○）正常
		16：9 シュリンク	（×）映像が縦伸びする	（×）上下左右に帯が付け足され、映像が小さくなる
お使いのテレビ 画面比 16：9 テレビ ※テレビを「フル」に設定していることを前提として説明しています。	本機のTV画面形状設定	4：3LB	（×）映像が横伸びする	（×）映像が横伸びする
		4：3 ノーマル	（×）映像が横伸びする	（×）映像が横伸びする
		16：9 ワイド	（×）映像が横伸びする テレビ側の設定を「ノーマル」にしてください。	（×）映像が横伸びする テレビ側の設定を「ノーマル」にしてください。
		16：9 シュリンク（推奨設定）	（○）正常	（△）上下左右に帯が付け足され、映像が小さくなる
		16：9 シュリンク（テレビ側が「ズーム」の時）	（×）映像が画面内に入りきらない	（○）正常※ ワイド放送（レターボックス放送）のときは、テレビ側の設定をフルからズームに変更することをお勧めします。

・「フル」、「ズーム」、「ワイド」、「ノーマル」などのモードの呼びかたはテレビによって異なる場合があります。詳しくはお使いになるテレビの取扱説明書をご覧ください。

※「解像度切換」で、D1 または D2 を選んでいるときだけ、テレビ側で「ズーム」や「フル」などの切換えができます。

●アスペクト比（画面比）に関する注意点について

録画する際は、放送に含まれるスクィーズ情報に応じてGOPと呼ばれる約0.5秒単位ごとに4：3か16：9であるという区別を書き込んでいます。
デジタル放送などはスクィーズ放送が多数あり、一部チャンネルでは番組直前の宣伝と番組で4：3と16：9が切り換わることがあります。

VRモードで録画する場合、放送側でこの情報が切り換わっても、約0.5秒の単位内と続く約1秒は先に来た情報で記録され、実際の映像と異なる場合がありますが異なる画面比を混在して記録することができます。

「DVD-Video 作成」をする場合は、「チャプター編集」画面内の「画面比」の項目を見ながら混在しないようにチャプターを分割してからパーツ登録をするか、「DVD-Video 作成」の「画面比設定」で「4：3 固定」か「16：9 固定」を設定してください。いずれの場合でも、通常の 4：3 放送で上下に黒い帯がはいる場合は、ワイドではなく、単なる 4:3 放送ですので、「16：9 固定」に設定しないでください。

：放送で送られてくる映像に足される黒い帯を表します。

：本機の「TV 画面形状設定」に従って足される黒い帯を表します。

3 スクィーズ方式ワイド放送（レターボックスの場合もあります）	4 スクィーズ方式ワイド放送（4:3 サイドパネル付）
16:9 のワイド映像を放送時に左右方向を縮めてほぼ 4：3 の比率で放送し、受信したワイドテレビ側で引き伸ばすことで 16：9 を復元します。（CATV（ライン入力）、スカパー！（ライン入力）、地上デジタル、110 度 CS デジタル、BS デジタル、市販 DVD ソフト）	スクィーズ放送ですが、4:3 の映像の左右にサイドパネルを付けて放送することで、受信したワイドテレビでフル表示しても 4：3 の映像が表示されます。（地上デジタル、110 度 CS デジタル、BS デジタル）
（○） 正常 ワイド放送（スクィーズ放送）のときは、本機の設定を 4:3 ノーマルから 4:3LB に変更することをお勧めします。	（△） 上下左右に帯が付け足され、映像が小さくなる
（△） 映像の左右部分が切れる	（○） 正常 4：3 ノーマルを選択しても放送側がサイドパネルの削除を認めていない場合は、4：3LB 表示になります。
（×） 映像が縦伸びする	（×） 映像が縦伸びする
（×） 映像が縦伸びする	（×） 映像が縦伸びする
（×） 映像が横伸びする	（△） 上下左右に帯が付け足され、映像が小さくなる
（○） 正常	（○） 正常
（○） 正常	（○） 正常
（○） 正常	（○） 正常
（×） 映像が画面内に入りきらない	（×） 映像が画面内に入りきらない

お知らせ

・画面比が 4：3 テレビでワイド放送（スクィーズ）の映像をみたとき、本機の設定が「4：3LB」にもかかわらず、画面が縦長につぶれたように見えるときは、録画時に正しくスクィーズ信号が記録されていないことになります。S1 出力対応の外部チューナー端子から、本機の S1 対応の入力端子に接続されているかどうかご確認ください。
・DVD 市販ソフト再生時は設定に関わらず、4:3 ノーマルでも、4:3LB として表示されます。

出力される音声の種類

ディスク	音声方式		設定画面での「デジタル音声出力設定」（56ページ）と出力端子					
			「ビットストリーム」		「PCM」		HDMI-AUTO*3	
			ビットストリーム/PCM音声出力端子 HDMI出力端子	アナログ音声出力端子	ビットストリーム/PCM音声出力端子 HDMI出力端子	アナログ音声出力端子	同軸/光出力 HDMI出力端子	アナログアウト
DVDビデオディスク*1	ドルビーデジタル		ビットストリーム	○	PCM	○	ビットストリーム/PCM	○
	リニアPCM	48 kHz	PCM	○	PCM	○	PCM	○
		96 kHz	PCM*2	○	PCM*2	○	PCM*2	○
	DTS		ビットストリーム	—	—	—	ビットストリーム/—	—
	MPEG2		ビットストリーム	○	PCM	○	ビットストリーム/PCM	○
音楽用CD	リニアPCM		PCM	○	PCM	○	PCM	○
	DTS		ビットストリーム	（ノイズ）	ビットストリーム	（ノイズ）	ビットストリーム	（ノイズ）
内蔵HDD	ドルビーデジタル		ビットストリーム	○	PCM	○	ビットストリーム/PCM	○
	リニアPCM		PCM	○	PCM	○	PCM	○
DVD-RAM/R/RW	ドルビーデジタル		ビットストリーム	○	PCM	○	ビットストリーム/PCM	○
	リニアPCM		PCM	○	PCM	○	PCM	○
	MPEG2		ビットストリーム	○	PCM	○	ビットストリーム/PCM	○
デジタル放送	視聴時	AAC	ビットストリーム	○	PCM	○	ビットストリーム/PCM	○
	内蔵HDDにW録（エンコーダー）を「TS」で録画時	AAC	ビットストリーム	○	PCM	○	ビットストリーム/PCM	○
	内蔵HDDにW録（エンコーダー）を「R1」または「R2」で録画時	ドルビーデジタル	ビットストリーム	○	PCM	○	ビットストリーム/PCM	○
		リニアPCM	PCM	○	PCM	○	PCM	○

*1 DVD ビデオディスクには本機で作成した DVD-R/RW は含まれません。
　上表で「（ノイズ）」の表示のある接続と設定はしないでください。
*2 ダウンサンプリング PCM
*3 HDMI-AUTO では同軸・光出力・HDMI 出力がビットストリームになるのは接続した HDMI 機器にビットストリームデコード機能があるときにだけ働きます。無い場合には強制的に PCM（48kHz）になります。ただし、DTS に関しては PCM にはできません。

ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。
Dolby、ドルビーおよびダブル D 記号はドルビーラボラトリーズの商標です。

DTS および DTS Digital Out は Digital Theater Systems, Inc. の商標です。

お知らせ

- DVD ビデオディスクを使用しているとき、ディスクによっては、音声の切換えをディスクメニューを使ってする場合があります。このときは、「メニュー」を押してディスクメニューを表示させてから音声を選んでください。
- 電源を入れたとき、およびディスクを交換したときは、設定（56 ページ）どおりの音声になります。ディスクによっては、ディスクで決められている音声になります。
- 音声を切り換えた直後は、表示と実際の音声が一瞬ずれることがあります。
- ビットストリーム／ PCM 音声出力端子でアンプなどに接続する場合、二カ国語の音声切換ができない場合があります。このようなときは「デジタル音声出力設定」を「PCM」にしてください。
- 「DVD 互換モード」（59 ページ）を「入」にして録画したタイトルは、二カ国語の音声切換はできません。

言語コード表

記号	言語名
ーーー	言語なし
CHI (ZH)	中国語
DUT (NL)	オランダ語
ENG (EN)	英語
FRE (FR)	フランス語
GER (DE)	ドイツ語
ITA (IT)	イタリア語
JPN (JA)	日本語
KOR (KO)	韓国語
MAY (MS)	マレー語
SPA (ES)	スペイン語
AA	アファル語
AB	アブバジア語
AF	アフリカーンス語
AM	アムハラ語
AR	アラビア語
AS	アッサム語
AY	アイマラ語
AZ	アゼルバイジャン語
BA	バシキール語
BE	ベラルーシ語
BG	ブルガリア語
BH	ビハーリー語
BI	ビスラマ語
BN	ベンガル語、バングラ語
BO	チベット語
BR	ブルトン語
CA	カタロニア語
CO	コルシカ語
CS	チェコ語
CY	ウェールズ語
DA	デンマーク語
DZ	ブータン語
EL	ギリシャ語
EO	エスペラント語

記号	言語名
ET	エストニア語
EU	バスク語
FA	ペルシャ語
FI	フィンランド語
FJ	フィジー語
FO	フェロー語
FY	フリジア語
GA	アイルランド語
GD	スコットランドゲール語
GL	ガルシア語
GN	グアラニ語
GU	グジャラート語
HA	ハウサ語
HI	ヒンディー語
HR	クロアチア語
HU	ハンガリー語
HY	アルメニア語
IA	国際語
IE	国際語
IK	エスキモー語
IN	インドネシア語
IS	アイスランド語
IW	ヘブライ語
JI	イディッシュ語
JW	ジャワ語
KA	グルジア語
KK	カザフ語
KL	グリーンランド語
KM	カンボジア語
KN	カンナダ語
KS	カシミール語
KU	クルド語
KY	キルギス語
LA	ラテン語
LN	リンガラ語

記号	言語名
LO	ラオス語
LT	リトアニア語
LV	ラトビア語、レット語
MG	マダガスカル語
MI	マオリ語
MK	マケドニア語
ML	マラヤーラム語
MN	モンゴル語
MO	モルダビア語
MR	マラータ語
MT	マルタ語
MY	ミャンマー語
NA	ナウル語
NE	ネパール語
NO	ノルウェー語
OC	プロバンス語
OM	(アファン)オロモ語
OR	オリヤー語
PA	パンジャブ語
PL	ポーランド語
PS	パシュトー語
PT	ポルトガル語
QU	ケチュア語
RM	ラエティ=ロマン語
RN	キルンディ語
RO	ルーマニア語
RU	ロシア語
RW	キニヤルワンダ語
SA	サンスクリット語
SD	シンド語
SG	サンゴ語
SH	セルビアクロアチア語
SI	シンハラ語
SK	スロバキア語
SL	スロベニア語

記号	言語名
SM	サモア語
SN	ショナ語
SO	ソマリ語
SQ	アルバニア語
SR	セルビア語
SS	シスワティ語
ST	セストゥ語
SU	スンダ語
SV	スウェーデン語
SW	スワヒリ語
TA	タミール語
TE	テルグ語
TG	タジク語
TH	タイ語
TI	ティグリニャ語
TK	トゥルクメン語
TL	タガログ語
TN	セツワナ語
TO	トンガ語
TR	トルコ語
TS	ツォンガ語
TT	タタール語
TW	トウィ語
UK	ウクライナ語
UR	ウルドゥー語
UZ	ウズベク語
VI	ベトナム語
VO	ボラピュク語
WO	ウォロフ語
XH	コーサ語
YO	ヨルバ語
ZU	ズール語

録画可能時間一覧表

本一覧表は、工場出荷時の設定（HDD の TS 録画領域 70%、VR 録画領域 30%）での録画可能時間を表しています。
HDD 内の TS/VR 録画領域の割合を変更することができます。（操作編 59 ページ）

■HDD（VR記録領域：初期設定値30%）

音質レート / 画質レート	D/M1(192kbps)				D/M2(384kbps)				L-PCM				備考
	HDD（VR）		DVD-RAM		HDD（VR）		DVD-RAM		HDD（VR）		DVD-RAM		
	時間	分	時間	分	時間	分	時間	分	時間	分	時間	分	
1.0	320	49	08	06	277	51	07	01	154	03	03	52	
1.4	242	39	06	07	217	14	05	28	133	25	03	21	
2.0	173	49	04	22	160	23	04	02	109	33	02	44	D/M2時のLPの画質モードです。
2.2	159	52	04	01	148	26	03	44	103	51	02	36	D/M1時のLPの画質モードです。
2.4	147	59	03	43	138	08	03	28	98	42	02	28	
2.6	137	45	03	27	129	10	03	14	94	02	02	21	
2.8	128	50	03	14	121	18	03	02	89	47	02	14	
3.0	121	01	03	02	114	20	02	52	85	55	02	08	
3.2	114	05	02	51	108	08	02	42	82	22	02	03	
3.4	107	54	02	42	102	33	02	34	79	05	01	58	
3.6	102	21	02	33	97	32	02	26	76	04	01	53	
3.8	97	21	02	26	92	59	02	19	73	16	01	49	
4.0	92	48	02	19	88	50	02	13	70	40	01	45	
4.2	88	40	02	13	85	02	02	07	68	14	01	41	
4.4	84	53	02	07	81	33	02	02	65	59	01	38	D/M2時のSPの画質モードです。
4.6	81	25	02	02	78	20	01	57	63	52	01	35	D/M1時のSPの画質モードです。
4.8	78	13	01	57	75	22	01	52	61	53	01	32	
5.0	75	16	01	52	72	37	01	48	60	01	01	29	
5.2	72	31	01	48	70	04	01	44	58	15	01	26	
5.4	69	58	01	44	67	41	01	41	56	36	01	24	
5.6	67	36	01	40	65	27	01	37	55	02	01	21	
5.8	65	22	01	37	63	22	01	34	53	33	01	19	
6.0	63	18	01	34	61	25	01	31	52	09	01	17	
6.2	61	20	01	31	59	35	01	28	50	49	01	15	
6.4	59	30	01	28	57	51	01	26	49	33	01	13	
6.6	57	47	01	26	56	13	01	23	48	21	01	11	
6.8	56	09	01	23	54	40	01	21	47	12	01	09	
7.0	54	36	01	21	53	12	01	19	46	06	01	08	
7.2	53	09	01	18	51	49	01	16	45	03	01	06	
7.4	51	46	01	16	50	30	01	14	44	04	01	05	
7.6	50	27	01	14	49	15	01	13	43	06	01	03	
7.8	49	12	01	12	48	04	01	11	42	11	01	02	
8.0	48	01	01	11	46	56	01	09	41	19	01	00	L-PCM時のマニュアル最高値です。
8.2	46	53	01	09	45	51	01	07					
8.4	45	48	01	07	44	49	01	06					
8.6	44	46	01	06	43	50	01	04					
8.8	43	47	01	04	42	53	01	03					
9.0	42	51	01	03	41	59	01	01					
9.2	41	56	01	01	41	07	01	00					マニュアルモードの上限値

■HDD（TS記録領域）

画質レート	HDD(TS：初期設定値70%)		HDD(TS：100%の場合)		備考
	時間	分	時間	分	
24.0	38	33	55	05	TS画質のレートは放送によります。

- 本一覧表は録画時間を保証するものではありません。
- 内蔵HDDおよびDVD-RAMを初期化状態で連続録画した場合(内蔵HDDでは9時間の録画をくり返した場合)の録画可能時間です。ディスクによって表示が若干ばらつくことがあります。
- 録画後の残量は、本一覧表に書かれた時間から録画時間を引いた時間にはなりません。
- 録画された映像や音声の状態によって、使用される容量は異なります。
- 録画後の内蔵HDDおよびDVD-RAMの残量は、本機の状態表示機能(操作編25ページ)で確認できます。
- 録画できる最大タイトル数(HDD：792、DVD-RAM：99)を超えた場合は、上記の表に記載された時間まで録画できません。

D /M1、D /M2は米国ドルビーラボラトリーズの民生用デジタル録音方式を用いています。設定1として D /M1はDolby Digital 192Kbps、設定2として D /M2はDolby Digital 384Kbpsとなっています。

本体表示窓のエラー表示

メッセージ画面表示と同時に本体表示窓にもエラーの表示が出ます。
以下の表は、エラー表示の一部です。
「ERR －＊＊」で、＊＊の部分にエラーコードが表示されます。エラーの内容を確認してください。この表示を消すには、リモコンの「表示切換」ボタンを押してください。

エラー表示	エラーの内容	
ERR−01	物理フォーマットエラー	
ERR−05	ソフトウェアダウンロード失敗	
ERR−10	容量オーバー	・DVD-Video作成時 ・DVD-R/RW（Videoモード）へのダビング時
ERR−11	タイトル数オーバー	
ERR−12	チャプター数オーバー	
ERR−13	コピープロテクションエラー	
ERR−14	DVDエラー(メディアが不良で書けない)	
ERR−15	その他のエラー	
ERR−16	HDDエラー(メディアが不良で書けない)	
ERR−17	SIFはワイド禁止	
ERR−18	異なるアスペクトの混在	
ERR−19	異なる解像度の混在	
ERR−1A	異なるオーディオ属性の混在	
ERR−1B	無効な管理情報	
ERR−1C	当社製以外のビデオレコーダーで録画されたストリーム	
ERR−1D	「DVD互換モード」が「切」で録画されたストリーム	
ERR−1E	無効なビデオ	
ERR−1F	予期せぬエラー	
ERR−2E	メニュー作成中エラーまたはメニューエンコードエラー	・DVD-Video作成時 ・DVD-R/RW（Videoモード）ファイナライズ時
ERR−2F	メニューサイズオーバー	
ERR−30	メニュー数の上限オーバー	
ERR−32	ディスクのフォーマットモードに互換性がない	・DVD-RW（Videoモード）フォーマット時
ERR−3B	EDIDエラー	・HDMI端子使用時
ERR−3C	認証エラー	
ER-7000	HDDにトラブルが発生している可能性があります。	

■その他の表示について

本体表示窓には、本機の動作状態を表す以下のようなメッセージも表示されます。
ADAMS ：番組表データ（ADAMS）を地上波から受信中に表示されます。
WAIT ：本機内部で動作処理中に表示されます。
DEPGT ：デジタル放送のデータを取り込んでいるときに表示されます。
V-UP ：バージョンアップしているときに表示されます。
DEPGI ：番組表データ (iNET) の受信中に表示されます。

技術情報

録画時間について

従来のVTR（ビデオテープレコーダー)の場合、録画時間は、ビデオテープ自体の長さと録画速度(標準／3倍等)で決まります。ディスクの場合には、MPEG2(Moving Picture Experts Group2)という可変圧縮方式でビットレート(Mbps：一秒あたりの情報量)の値を変えることで、録画できる時間を変えることができます。
たとえば、バケツに水道から水を入れるとき、蛇口を大きくひねって水をたくさん出すとバケツはすぐにいっぱいになり、少しだけひねって水を出すと、バケツはゆっくりいっぱいになります。このときのバケツがDVD-RAMで、蛇口の回し具合がビットレート、水がいっぱいになるまでにかかる時間が、録画できる時間にあたります。水をたくさん出す、つまりビットレートが高いと、すぐにディスクはいっぱいになり、ビットレートが低いとディスクがいっぱいになるまでの時間が長くなります。

画質について（SP、LP、TS、A1、A2、DL、MN モードの使い分け）

ビットレート(Mbps)が高いということは、その映像に対する情報量が多く、低ければ情報量が少ないということです。ただし、ビットレートの値が高いからといって、必ずしも画質が良いとは言いきれません。ビットレートの数値の違いが大きいときは、画質の違いがわかりやすいのですが、近い値で比べると、その違いを感じにくい場合があります。
一般的に、ビットレートを低く設定すると、動きのおだやかな映像では目立ちませんが、変化が激しい映像では、必要なデータの量が確保できずに細部の情報が欠落し、結果として画面が粗くなってしまいます。たとえば、動きが激しい場面や、水面のように細かい光と影が多い場面では、画面に四角いノイズ(ブロックノイズ)が見えてしまいます。
本機では、4.7GBの未録画ディスクを使って「SP」モードで約2時間、「LP」モードで約4時間の録画ができる設定があります。「SP」モードを標準とし、長時間でかつ画質にこだわらない場合には「LP」モードで録画するという使い分けをお勧めします。
また、録画したい時間が2時間前後だったり、「SP」か「LP」かの選択に迷ったときには、「A1」モードを選択してください。「A1」モードでは、4.7GBの未録画ディスクの場合、録画する時間が約1時間程度から最長約4時間までの範囲で、録画時間に応じて画質を自動的に設定しますので、簡単に良好な画質が得られます。一部が録画済みのディスクでも、その残容量に合わせてレート設定をします(録画の直前の空き容量に応じて画質が決定されますので、ディスクに空き容量が少ない場合には、当初確認した画質より低くなるか、最後まで録画できないことがあります)。内蔵HDDへの録画で「A1」モードを設定すると、ディスク片面一枚にダビングできるビットレートを自動的に設定します。
音楽番組やアニメは一定以上の画質で録画したい、という場合は、「MN」モードの選択をお勧めします。6Mbps以上の場合の画質で録画すると、おおむね良い画質で録画できますが、高くするほど録画可能時間は短くなります。
この「A1」モードは、DVD-R/RWへの録画時でも選択できます。
TSはデジタル放送をそのままの高品質で録画するときに選びます。TSで録画したタイトルは、デジタル放送特有の高画質、高音質で複数の音声などの番組情報をそのまま録画します。そのため、多くの録画容量を使用します。

「A2」「DL」に関しては ➩操作編117ページをご覧ください。

DD D /M1、DD D /M2 について

本機で録音する方式です。音声をそのまま録音するのではなく、デジタル信号に圧縮して録音し、再生時には元に戻します。1と2では規格上、使用されるデータの量が異なります。DD D /M1、DD D /M2は米国ドルビーラボラトリーズの民生用デジタル録音方式を用いています。
設定1としてDD D /M1はDolby Digital 192 kbps、設定2としてDD D /M2はDolby Digital 384kbpsとなっています。

L-PCM（リニア PCM）について

ドルビーデジタルと同様に音声の記録方式ですが、圧縮せずに、アナログ信号をサンプリングして48KHz/16bitのデジタル信号に変換して録音します。したがって、使用されるデータ量はドルビーデジタルよりも多くなります。

W録R1とR2について

■ W録R1とW録R2の切換えについて

本機では、録画する内容や機能によって、W録R1とW録R2を切り換えることが必要です。
それぞれの説明ページで「R1」「R2」の切換えを説明していますが、以下の表にまとめていますので参考にしてください。

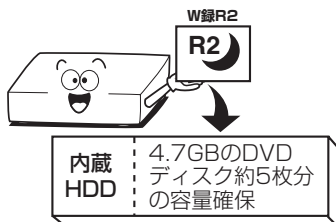
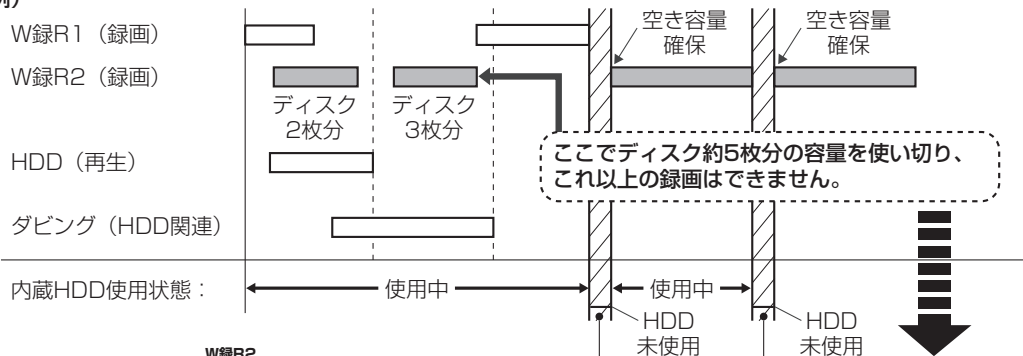
☼/★ TS/VR で「R1」と「R2」を切り換えます。

	地上アナログ放送の録画	地上デジタル放送で画質を指定した録画	外部入力端子からの録画	DV 入力端子からの録画	D1 入力端子からの録画	画質指定／ぴったりダビング	ライン U ダビング	DVD-R/DVD-RW (Video モード) のダビング
R1★	○	○	○	○	○	○	○	○
R2☽	○	×	○	×	○	×	×	○

■ W録R2の録画時間について

- W録R2で内蔵HDDに録画するときは、HDDにW録R2用の録画領域として4.7GBのDVDディスク約5枚分(たとえばSPモードで約10時間分、LPモードなら約20時間分)をはじめに確保します。内蔵HDDが録画、再生、ダビングで使用されている間は確保してある領域に録画することができますが、この確保された領域を使い切ってしまいますと録画を停止します。

例)

W録R2
R2
内蔵HDD
4.7GBのDVDディスク約5枚分の容量確保

さらにW録R2で録画するには!?

- 内蔵HDDを使う録画、再生、ダビングなどをしない時間を約3分以上つくってください。
  内蔵HDDの未使用時間をつくることで、W録R2用に新たにディスク約5枚分の空き容量を内蔵HDDに確保して、録画できるようになります。ただし、内蔵HDDのVR互換領域にDVDディスク約6枚分以上の空き容量があるときに限ります。
  W録R1分の空き容量は、W録R2用に確保した残りですので、VR互換領域の空き容量が少ないときは、R1のほうが空き容量が少なくなることがあります。

地上デジタル放送／その他のデジタル放送について

■地上デジタル放送と従来のアナログ放送の違い

デジタル放送はハイビジョンの高画質と高音質が楽しめ、さらにマルチチャンネル放送のため、野球中継などが延長になった場合も最後まで観戦することができます。

■双方向通信サービスとは

本機を電話回線に接続※すると、クイズ番組やオークションなどにも参加することができます。また、テレビショッピングもお楽しみいただけます。
（※接続してご使用される場合は、別途回線接続料がかかります。）

■受信アンテナについて

地上デジタル放送はUHF帯域の電波を使って放送されるので、受信するにはUHFアンテナが必要です。現在ご使用中のUHFアンテナが、お住まいの地域の地上デジタル放送チャンネルに対応している場合は、そのまま使用できます。対応していない場合や、UHFアンテナを使用していない場合は、アンテナの交換や設置が必要です。また地上デジタル放送の送信塔の位置によっては、アンテナの方向の調整やブースターの追加などが必要になる場合があります。

■BSデジタル、110度CSデジタルチューナーとの違い

地上デジタル放送は、BSデジタル放送や110度CSデジタル放送と放送方式が異なります。
本機はBSデジタル、110度CSデジタルチューナーも搭載しています。
BSデジタル放送、110度CSデジタル放送を視聴する場合は、これらの放送に対応したアンテナを接続してください。

■マンションなど集合住宅の共同受信

お住まいの地域の地上デジタル放送チャンネルが受信できる設備であれば受信することができます。詳しくは集合住宅の管理会社などにお問い合わせください。

■CATVでの視聴

CATV会社は地上デジタル放送への対応の検討を始めています。ただし、CATV会社によってデジタル化のスケジュールや放送方法が異なりますので、ご契約のCATV会社にお問い合わせください。

■番組の無料／有料について

従来のアナログ放送同様に、地上デジタル放送は無料で放送される予定です。また、NHKの受信に関しては現在ご契約されているのであれば、そのまま受信ができます。

■ハイビジョン番組の放送

1週間の放送時間中の約半分以上はハイビジョン番組が放送される予定です。

つかいこなしのポイント！

デジタル放送のハイビジョン画質(HD)や音声をそのままに録画したい場合は「TS録画」をします。
ただし、編集に制限があったり、容量を多く消費します。そのままの画質や音声ではDVDにダビング(移動)することはできません。ダビング(移動)する際は「ぴったり、画質指定ダビング」をします。

●本書ではデジタル放送をTS画質で録画したタイトルを「TS録画」、デジタル放送をTS画質以外で録画したタイトルを「VR録画」として説明しています。
VR録画はアナログ放送をHDD、DVD-RAMやDVD-R/RW（VRモード）ディスクへ録画するときと同様ですが、編集などに制限があります。

ソフトウェアのバージョンアップについて

本機のソフトウェアを書き換えて更新することによって、機能アップや機能の改善などができます。ソフトウェアをバージョンアップするには以下の方法があります。

- 放送局がデジタル放送の電波の中にソフトウェアを入れて送信し、それをダウンロードすることによってバージョンアップする。（「放送からの自動ダウンロード」には本機が地上デジタル放送またはBSデジタル放送を受信できる環境と設定が必要です。）
- 東芝サーバーからLAN端子を使ったイーサネット通信（本書「ネット接続設定」章をご覧ください。）で、ソフトウェアのダウンロードをすることによってバージョンアップする。

このほかに当社ホームページからバージョンアップソフトをダウンロードして、本機のソフトウェアをバージョンアップする方法があります。
詳しくはhttp://www3.toshiba.co.jp/hdd-dvd/support/をご覧ください。

■「ソフトウェアのダウンロード」ついて

設定メニュー「管理設定」内の「ソフトウェアのダウンロード」には、以下の二つがあります。（設定方法は同ページ「設定の手順」をご覧ください）

- ●「放送からの自動ダウンロード」
  設定を「する」にしておくことによって、自動ダウンロード用のソフトウェアが送られてきたときに、自動的にダウンロードさせることができます。「しない」に設定すると、ダウンロードを自動的に行ないません。
- ●「サーバからのダウンロード開始」
  イーサネット通信を使って、東芝サーバーからソフトウェアのダウンロードをします。「サーバからのダウンロード開始」を選んだ後に「決定」を押すとメッセージが表示されます。更新を行なう場合は、「はい」を選び「決定」を押します。「はい」を選んだあと、サーバ上に更新情報がない場合は、メッセージが表示されダウンロードは行ないません。

■ダウンロードの動作について

- 放送からの自動ダウンロードは、電源が「待機」状態のときにだけ、実行されます。
- 放送からの自動ダウンロードの実行中は表示窓に「SYS-LD」「V-UP」の順に表示されます。「SYS-LD」表示中に電源を「入」にした場合、ダウンロードを中止します。「V-UP」中は、電源の入／切などの操作はできません。
- ダウンロードがすべて完了したあと、次に電源を「入」にしたときにバージョンアップが成功したことをお知らせするメッセージが表示されます。以降は通常どおり操作できます。
- ダウンロードが失敗した場合は、表示窓に「ERR-05」と表示されます。（この表示を消すにはリモコンの「表示」ボタンを押します。）

ご注意！

ダウンロード中は、電源プラグを抜かないでください。
ソフトウェアのダウンロードの書き込みが中止され、正常に動作しなくなる場合があります。動作しなくなった場合は、お買い上げの販売店にご連絡ください。

お知らせ

- 「放送からの自動ダウンロード」は、悪天候の場合などには実行されないことがあります。

■設定の手順

1 **簡単メニュー を押して、「設定メニュー」を選び、決定 を押す**

2 **「管理設定」を選び、決定 を押す**

管理設定のメニューへ移動します。

3 **「ソフトウェアのダウンロード」を選び、決定 を押す**

ソフトウェアのダウンロードのメニューへ移動します。

4 **「放送からの自動ダウンロード」または、「サーバからのダウンロード開始」を選び、決定 を押す。**

「放送からの自動ダウンロード」は、「する」または「しない」を選び、決定 を押します。
「サーバからのダウンロード開始」は、決定 を押すとメッセージが表示されます。メッセージに従って操作してください。

用語解説

本機をお使いになる上で、ご参考になる用語を説明しています。

AAC

音声圧縮方式の一つで国際的な標準規格である、Advanced Audio Codingの略です。
地上デジタル/BSデジタル/110度CSデジタル放送の映像圧縮方式である「MPEG-2」に採用されています。MPEG-1に採用されている音声圧縮方式「MP3」より、1.4倍ほど圧縮効率が高くなっています。

ADSL

電話回線を使ったブロードバンド接続方式の一種です。回線業者、プロバイダとの契約が必要です。

BS放送

衛星放送のことで、BSとはBroadcasting Satelliteの略です。静止衛星から直接家庭に電波が送られるので、きれいな画面で受信することができます。

B-CAS

デジタル放送(地上デジタル放送、ＢＳデジタル放送、110度ＣＳデジタル放送)の各種放送サービスを受信するために必要なカードです。
例えば、デジタル放送の無料放送、有料放送、ペイ・パー・ビュー放送やデータ放送の双方向サービス等の放送サービスを利用するために必要となります。
また、このカードはデジタル放送の番組等の著作権保護にも利用されます。
B-CASカードのユーザー登録は無料です。

CATV

ケーブルテレビ(有線放送)のことです。

CPRM(Content Protection for Recordable Media)

デジタル放送の「1回だけ録画可能」な番組に対する著作権保護技術のことです。「1回だけ録画可能」な番組は、CPRMに対応した機器とディスクでだけ録画できます。

DLNA

Digital Living Network Allianceの略で、ホームネットワーク内でデジタルAV機器同士やパソコンを相互に接続し，動画、音楽、写真などのコンテンツを有線・無線のLANを通して相互利用する機能を提供するための共通仕様を策定するために設立された団体のことです。
一般的には、DLNAが定めた仕様「相互接続ガイドライン」（DLNAガイドライン）のことを指しています。

DTS

デジタルシアターシステムズ社が開発した、劇場向けデジタル音声システムのことです。
音声6chを使って、正確な音場定位とリアルな音響効果が得られます。DTS対応プロセッサやアンプとの接続で映画館のような音声が楽しめます。

D映像端子

コンポーネント(色差)ビデオ信号と制御信号を一つにまとめた端子で、デジタル放送やDVDプレーヤーなどに対応しています。
色信号の干渉を避けるために、映像信号を輝度、赤系、青系の三つの信号に分け、それぞれの専用回路で信号処理し、画面に映すときに合成しますので、より自然に近い映像がお楽しみいただけます。

DHCP

サーバーやブロードバンドルーターが、IPアドレスなどを本機に自動的に割り当てる仕組みのことです。

i.LINK(TS)

i.LINKとは、i.LINK端子を持つ機器間で、映像や音声などのデータ転送や、接続した機器の操作ができるシリアル転送方式のインターフェースです。本機では、i.LINK(TS)端子にD-VHSビデオデッキを接続して、本機内蔵チューナーで画質をTSで録画したデジタル放送をダビングできますが、デジタル放送を伝送する信号にTransport Stream(トランスポート・ストリーム)が使われることから「i.LINK(TS)」と表記します。i.LINKは、IEEE1394をなじみやすく表現するための呼称で、IEEE(米国・電気電子学会)によって標準化された国際標準規格です。
※i.LINKはソニー株式会社の商標です。

HDMI

デジタルHDTV映像信号とデジタルオーディオ信号を1本のケーブルで伝送する新しいAV信号の伝送方式です。
(High Definition Multimedia Interface)
HDMI端子のある機器同士を接続すれば、高画質･高音質な映像と音声をデジタル伝送できます。

HD/SD

デジタル放送の画質は、HD（デジタルハイビジョン)、SD（デジタル標準)の二つがあります。
本機では、この二つの画質を判別し、本体の表示窓に表示します。

IPアドレス
インターネットなどのネットワークに接続されたコンピューターを識別する番号のことです。家庭では、ブロードバンドルーターなどのDHCP機能で自動的に割り当てられるのが一般的です。

L-PCM(リニアPCM)
圧縮せずにデジタル信号に置き換えられた信号です。CDでは、44.1kHz/16bitで記録されているのに対し、DVDでは48kHz/16bit～96kHz/24bitで記録されていますので、CDよりも高音質での再生が可能です。

MACアドレス
ネットワークに接続されている機器を識別するためのアドレスで、イーサネットアドレスやハードウェアアドレスなどと呼ばれることもあります。

MPEG
Moving Picture Expects Groupの略で、動画音声圧縮方法の国際標準です。
DVDビデオの映像やビデオCDの映像／音声はこの方式で記録されています。
DVDビデオには、この方式でデジタル音声を圧縮して記録しているディスクもあります。

PCM(Pulse Code Modulation)
アナログ音声をデジタル音声に変換する方式の一つです。「パルス・コード・モジュレーション:パルス符号変調」の略で、手軽にデジタル音声が楽しめます。

S映像出力
映像信号をカラー(C)信号と輝度(Y)信号に分離してテレビに伝えるため、より鮮明な画像を得られます。

TS録画
デジタル放送から送られてくる信号をそのままに録画する方式です。ハイビジョン画質や5.1ch音声をそのままの高品質で録画することができます。ただし、録画先は内蔵HDDと限られています。
デジタル放送を録画予約するときに、「W録」(録画するエンコーダー)の設定で「VR」に切り換えるとDVDディスク※にも録画できるようになります(VR互換録画)。見ているデジタル放送を録画するときに、「VR」をエンコーダーに選んだ場合も同様です。
(※デジタル放送をDVDディスクにVR互換録画するときは、VRモードで初期化したCPRM対応ディスクが必要です。ただし、一部CSデジタル放送などのコピーフリーの番組は、DVD-R/RW (Videoモード)にダビングすることもできます。「VR」の場合、ハイビジョン画質や5.1chの音声をそのままの高品質で録画することはできません。)

Videoモード(DVD-Video Format)
市販のDVDプレーヤーやDVD-ROMドライブと互換性のある録画方式です。

VRモード
録画の際の制限事項が少なく、CPRM対応ディスクなら「1回だけ録画可能」な映像を録画することもできる録画方式です。

1125i(1080i)
デジタルハイビジョン放送(HD)の一つで、1/60秒ごとに1125本の走査線を半分に分けて交互に流すインターレース(とび越し走査)方式です。走査線数は現行テレビ放送の525本の倍以上の1125本もあるため、細部まできれいに表現され臨場感豊かな映像になります。

525i(480i)
1/60秒ごとに525本の走査線を奇数番目と偶数番目で半分に分けて交互に描くインターレース(とび越し走査)方式です。

525p(480p)
1/60秒ごとに525本の走査線を同時に描くプログレッシブ(順次走査)方式です。
インターレース方式のように交互に描かないので、ちらつきが少なくなります。

アスペクト比
テレビ画面の横と縦の比率(画面比)です。従来サイズのテレビは画面の比率が4：3です。ハイビジョンテレビやワイドテレビは画面の比率が16：9となっているので臨場感あふれる映像を楽しめます。

アナアナ変換
地上デジタル放送を開始するに当たって、現在使用されているUHFチャンネルをデジタル放送に影響を与えないチャンネルに移動する事をアナアナ変換と言います。
変換作業の費用は国から指定を受けた社団法人電波産業会(ARIB)が無料で行います。但し、あくまで個人を対象としています。

アンテナレベル
アンテナからはいってくる電波の強さのことです。受信チャンネルや天候、季節、時間帯、受信している地域、アンテナ接続ケーブルの長さなどによって影響を受けます。

インターレース出力／プログレッシブ出力
従来の映像信号は525i(i:インターレース=飛び越し走査)といわれますが、その525i信号の倍の走査線数を持つ高密度な映像信号を525p(p:プログレッシブ=順次走査)といいます。
プログレッシブ映像を楽しむには、対応テレビが必要です。

エンコーダー
録画する映像に圧縮をかけて、DVDの録画用の形式(MPEG2)に変換する、録画用の回路のことです。

追っかけ再生
HDDに録画しながら、録画中の番組を再生してみることができる機能です。

オリジナル/プレイリスト
テレビ放送や外部入力などを録画した映像(タイトル)を「オリジナル」と呼びます。
オリジナルのタイトルから、必要なシーンだけを集めて再生したり、新たなタイトルとしてコピーしたりできる仮想のタイトルのことを「プレイリスト」と呼びます。

(株)B-CAS
BSデジタル放送の限定受信システム(CAS)を管理するために設立された(株)ビーエス・コンディショナルアクセスシステムズの略称です。B-CASカードの発行・管理をしています。地上デジタル放送や110度CSデジタル放送も同システムを使用しています。

ゲートウェイアドレス
インターネットのアクセスで経由すべき機器のIPアドレス。通常はブロードバンドルーターのIPアドレスをいいます。

コピーガード
複製防止機能のことです。著作権者等によって複製を禁止する旨の信号が記録されているソフトおよび放送番組は録画することができません。

サブネットマスク
ネットワークを効率よく使うために、ブロードバンドルーターにつなぐ機器のIPアドレスを絞り込むための数字です。

サムネイル
映像を縮小して表示した静止画のことです。

視聴制限(パレンタルレベル)
デジタル放送やDVDビデオディスクの中には、視聴者の年齢に合わせて、ディスクを見るための規制レベルが設定されているものがあります。そのような放送やディスクを視聴したときの規制レベルを本機は設定することができます。

スカパー！
ここでは(株)スカイパーフェクト･コミュニケーションズが行なう､通信衛星を利用した放送サービス、SKY PerfecTV ！（通称：スカパー！）のことを指します。
他に、CSデジタル放送サービスのSKY PerfecTV ！ 110（通称：スカパー！ 110）があります。

タイトル
本機で録画した番組や、DVDディスクやCDなどに記録された一つの映像や音声などをタイトルといいます。

地上アナログ
従来のUHF・VHF放送(アナログ放送)のことです。

チャプター
タイトルをさらに区切ったものをチャプターといいます。

ディスクメニュー／トップメニュー
DVDビデオディスクに記録されているメニューで、字幕の言語や吹き替え音声などを選ぶことができます。DVDビデオディスクによっては、トップメニューのことを「タイトルメニュー」と呼んでいるものもあります。

データ放送
見たい情報を選んで画面に表示させることができます。例えば地域の天気予報を、表示させることができます。また、テレビ放送やラジオ放送に連動したデータ放送もあります。
そのほかに、電話回線を使用して視聴者参加番組､ショッピング､チケット購入などの双方向(インタラクティブ)サービスなどが行なわれます。

デジタルハイビジョン
デジタル放送には、デジタル標準テレビ放送(SD)とデジタルハイビジョン放送(HD)があります。ハイビジョンの走査線数は現行テレビ放送の525本の倍以上の1125本もあるため、細部まできれいに表現され臨場感豊かな映像になります。

トラック
音楽用CDなどの各曲をトラックといいます。

ドルビーデジタル(5.1ch)
ドルビー社が開発した立体音響効果のことをいいます。ドルビーデジタル(5.1ch)対応プロセッサやアンプとの接続で、映画館のような音声が楽しめます。

ビットストリーム
圧縮され、デジタル信号に置き換えられた信号です。AVアンプなどに搭載されたデコーダーによって、5.1chなどのマルチチャンネル音声信号に戻されます。

ファイナライズ(終了処理)
録音・録画されたディスクなどを、他の再生対応機器で再生できるように処理すること。ファイナライズすると再生専用ディスクとなり、録画や編集ができなくなります。

フォーマット(初期化)
ディスクに録画する方式は機器によって異なります。そこで機器に合わせて、録画などができるようにディスクを処理することをフォーマットといいます。フォーマットすると、それまでに録画した内容はすべて消去されます。

ブラウザ
ネットワーク上のページを表示するためのソフトウェアです。

プログレッシブ出力
➡75ページの「525p (480p)」「インターレース出力／プログレッシブ出力」をご覧ください。

プロテクト
録画した内容を誤って消してしまわないように、書込みや消去の禁止を設定することです。

プロバイダ
ケーブルや電話回線に接続した機器をインターネットに接続するサービスをしている会社の総称です。

ブロードバンド
ご家庭でいつでもインターネットを楽しめる、ADSLなどのインターネット接続環境です。電話モデムを使用するのに比べて、高速なアクセスが可能です。

マルチアングル
DVDビデオディスクの特長の一つで、複数のカメラで角度を変えて撮影したものを、一枚のディスクに収録し、再生時に好みに応じてアングルを選んで楽しめる機能です。(マルチアングル記録のディスクで楽しめる機能です。)

マルチ音声
DVDビデオディスクの特長の一つで、同じ画像に対して異なる音声をいくつも記録し、音声を切り換えて楽しめる機能です。

リージョン番号(再生可能地域番号)
世界を六つの地域に分け、それぞれの地域に定めた1から6までの番号をリージョン番号といいます。リージョン番号はソフト(DVD)とプレーヤー (再生機器)の両方に付けられ、これが一致しないと再生できません。
日本のリージョン番号は「2」です。

リニアPCM音声
「L-PCM」をご参照ください。

本機で使われるソフトウェアのライセンス情報

本内容はライセンス情報のため、操作には関係ありません。

本機に組み込まれたソフトウェアは、複数の独立したソフトウェアコンポーネントで構成され、個々のソフトウェアコンポーネントは、それぞれに東芝または第三者の著作権が存在します。

本機は、第三者が規定したエンドユーザーライセンスアグリーメントあるいは著作権通知(以下､｢EULA｣といいます）に基づきフリーソフトウェアとして配布されるソフトウェアコンポーネントを使用しております。

「EULA」の中には、実行形式のソフトウェアコンポーネントを配布する条件として、当該コンポーネントのソースコードの入手を可能にするよう求めているものがあります。当該「EULA」の対象となるソフトウェアコンポーネントに関しては、以下のホームページをご覧いただくようお願いいたします。
ホームページアドレス http://www3.toshiba.co.jp/hdd-dvd/contact
また、本機のソフトウェアコンポーネントには、東芝自身が開発または作成したソフトウェアも含まれており、これらソフトウェアおよびそれに付帯したドキュメント類には、東芝の所有権が存在し、著作権法、国際条約条項および他の準拠法によって保護されています。東芝自身のソフトウェアコンポーネンツの取扱いについては、添付の「ソフトウェア使用許諾契約書」を参照ください。なお､「EULA」の適用を受けない東芝自身が開発または作成したソフトウェアコンポーネンツは、ソースコード提供の対象とはなりませんのでご了承ください。

ご購入いただいた本機は、製品として、弊社所定の保証をいたします。

ただし､「EULA」に基づいて配布されるソフトウェアコンポーネントには、著作権者または弊社を含む第三者の保証がないことを前提に、お客様がご自身でご利用になられることが認められるものがあります。この場合、当該ソフトウェアコンポーネントは無償でお客様に使用許諾されますので、適用法令の範囲内で、当該ソフトウェアコンポーネントの保証は一切ありません。著作権やその他の第三者の権利等については、一切の保証がなく、"as is"（現状）の状態で、かつ、明示か黙示であるかを問わず一切の保証をつけないで、当該ソフトウェアコンポーネントが提供されます。ここでいう保証とは、市場性や特定目的適合性についての黙示の保証も含まれますが、それに限定されるものではありません。当該ソフトウェアコンポーネントの品質や性能に関するすべてのリスクはお客様が負うものとします。また、当該ソフトウェアコンポーネントに欠陥があるとわかった場合、それに伴う一切の派生費用や修理・訂正に要する費用は、東芝は一切の責任を負いません。適用法令の定め、または書面による合意がある場合を除き、著作権者や上記許諾を受けて当該ソフトウェアコンポーネントの変更・再配布を為し得る者は、当該ソフトウェアコンポーネントを使用したこと、または使用できないことに起因する一切の損害についてなんらの責任も負いません。著作権者や第三者が、そのような損害の発生する可能性について知らされていた場合でも同様です。なお、ここでいう損害には、通常損害、特別損害、偶発損害、間接損害が含まれます（データの消失、またはその正確さの喪失、お客様や第三者が被った損失、他のソフトウェアとのインタフェースの不適合化等も含まれますが、これに限定されるものではありません)。当該ソフトウェアコンポーネンツの使用条件や遵守いただかなければならない事項等の詳細は、各「EULA」をお読みください。

本機に組み込まれた「EULA」の対象となるソフトウェアコンポーネントは、以下のとおりです。これらソフトウェアコンポーネントをお客様自身でご利用いただく場合は、対応する「EULA」をよく読んでから、ご利用くださるようお願いいたします。なお､各「EULA」は東芝以外の第三者による規定であるため､原文（英文）を記載します。

本機で使われるフリーソフトウェアコンポーネントに関するエンドユーザーライセンスアグリーメント **原文（英文）**

対応ソフトウェアモジュール	
Linux Kernel, busybox, iptables	Exhibit A
glibc, gcc	Exhibit B
OpenSSL	Exhibit C
ppxp	Exhibit D
malloc	Exhibit E
libupnp	Exhibit F
pMON	その他

本機で使われるフリーソフトウェアコンポーネントに関するエンドユーザーライセンスアグリーメント原文（英文）

E x h i b i t A

GNU GENERAL PUBLIC LICENSE Version 2, June 1991

Preamble

The licenses for most software are designed to take away your freedom to share and change it. By contrast, the GNU General Public License is intended to guarantee your freedom to share and change free software – to make sure the software is free for all its users. This General Public License applies to most of the Free Software Foundation's software and to any other program whose authors commit to using it. (Some other Free Software Foundation software is covered by the GNU Library General Public License instead.) You can apply it to your programs, too.

When we speak of free software, we are referring to freedom, not price. Our General Public Licenses are designed to make sure that you have the freedom to distribute copies of free software (and charge for this service if you wish), that you receive source code or can get it if you want it, that you can change the software or use pieces of it in new free programs; and that you know you can do these things.

To protect your rights, we need to make restrictions that forbid anyone to deny you these rights or to ask you to surrender the rights. These restrictions translate to certain responsibilities for you if you distribute copies of the software, or if you modify it.

For example, if you distribute copies of such a program, whether gratis or for a fee, you must give the recipients all the rights that you have. You must make sure that they, too, receive or can get the source code. And you must show them these terms so they know their rights.

We protect your rights with two steps: (1) copyright the software, and (2) offer you this license which gives you legal permission to copy, distribute and/or modify the software.

Also, for each author's protection and ours, we want to make certain that everyone understands that there is no warranty for this free software. If the software is modified by someone else and passed on, we want its recipients to know that what they have is not the original, so that any problems introduced by others will not reflect on the original authors' reputations.

Finally, any free program is threatened constantly by software patents. We wish to avoid the danger that redistributors of a free program will individually obtain patent licenses, in effect making the program proprietary. To prevent this, we have made it clear that any patent must be licensed for everyone's free use or not licensed at all.

The precise terms and conditions for copying, distribution and modification follow.

GNU GENERAL PUBLIC LICENSE TERMS AND CONDITIONS FOR COPYING, DISTRIBUTION AND MODIFICATION

0. This License applies to any program or other work which contains a notice placed by the copyright holder saying it may be distributed under the terms of this General Public License. The "Program", below, refers to any such program or work, and a "work based on the Program" means either the Program or any derivative work under copyright law: that is to say, a work containing the Program or a portion of it, either verbatim or with modifications and/or translated into another language. (Hereinafter, translation is included without limitation in the term "modification".) Each licensee is addressed as "you".

Activities other than copying, distribution and modification are not covered by this License;they are outside its scope. The act of running the Program is not restricted, and the output from the Program is covered only if its contents constitute a work based on the Program (independent of having been made by running the Program). Whether that is true depends on what the Program does.

1.You may copy and distribute verbatim copies of the Program's source code as you receive it, in any medium, provided that you conspicuously and appropriately publish on each copy an appropriate copyright notice and disclaimer of warranty; keep intact all the notices that refer to this License and to the absence of any warranty; and give any other recipients of the Program a copy of this License along with the Program.

You may charge a fee for the physical act of transferring a copy, and you may at your option offer warranty protection in exchange for a fee.

2.You may modify your copy or copies of the Program or any portion of it, thus forming a work based on the Program, and copy and distribute such modifications or work under the terms of Section 1 above, provided that you also meet all of these conditions:

a) You must cause the modified files to carry prominent notices stating that you changed the files and the date of any change.

b) You must cause any work that you distribute or publish, that in whole or in part contains or is derived from the Program or any part there of, to be licensed as a whole at no charge to all third parties under the terms of this License.

c) If the modified program normally reads commands interactively when run, you must cause it, when started running for such interactive use in the most ordinary way, to print or display an announcement including an appropriate copyright notice and a notice that there is no warranty (or else, saying that you provide a warranty) and that users may redistribute the program under these conditions, and telling the user how to view a copy of this License.
(Exception: if the Program itself is interactive but does not normally print such an announcement, your work based on the Program is not required to print an announcement.)

These requirements apply to the modified work as a whole. If identifiable sections of that work are not derived from the Program,and can be reasonably considered independent and separate works in themselves, then this License, and its terms, do not apply to those sections when you distribute them as separate works. But when you distribute the same sections as part of a whole which is a work based on the Program, the distribution of the whole must be on the terms of this License, whose permissions for other licensees extend to the entire whole, and thus to each and every part regardless of who wrote it.

Thus, it is not the intent of this section to claim rights or contest your rights to work written entirely by you; rather, the intent is to exercise the right to control the distribution of derivative or collective works based on the Program.

In addition, mere aggregation of another work not based on the Program with the Program (or with a work based on the Program) on a volume of a storage or distribution medium does not bring the other work under the scope of this License.

3.You may copy and distribute the Program (or a work based on it, under Section 2) in object code or executable form under the terms of Sections 1 and 2 above provided that you also do one of the following:

a) Accompany it with the complete corresponding machine-readable source code,which must be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange; or,

b) Accompany it with a written offer, valid for at least three years, to give any thirdparty, for a charge no more than your cost of physically performing source distribution, a complete machine-readable copy of the corresponding source code, to be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange;or,

c) Accompany it with the information you received as to the offer to distribute corresponding source code. (This alternative is allowed only for noncommercial distribution and only if you received the program in object code or executable form with such an offer, in accord with Subsection b above.)

The source code for a work means the preferred form of the work for making modifications to it. For an executable work, complete source code means all the source code for all modules it contains, plus any associated interface definition files, plus the scripts used to control compilation and installation of the executable. However, as a special exception, the source code distributed need not include anything that is normally distributed (in either source or binary form) with the major components (compiler, kernel, and so on) of the operating system on which the executable runs, unless

that component itself accompanies the executable.
If distribution of executable or object code is made by offering access to copy from a designated place, then offering equivalent access to copy the source code from the same place counts as distribution of the source code, even though third parties are not compelled to copy the source along with the object code.

4.You may not copy, modify, sublicense, or distribute the Program except as expressly provided under this License. Any attempt otherwise to copy, modify, sublicense or distribute the Program is void, and will automatically terminate your rights under this License. However, parties who have received copies, or rights, from you under this License will not have their licenses terminated so long as such parties remain in full compliance.

5.You are not required to accept this License, since you have not signed it. However, nothing else grants you permission to modify or distribute the Program or its derivative works. These actions are prohibited by law if you do not accept this License. Therefore, by modifying or distributing the Program (or any work based on the Program), you indicate your acceptance of this License to do so, and all its terms and conditions for copying, distributing or modifying the Program or works based on it.

6.Each time you redistribute the Program (or any work based on the Program), the recipient automatically receives a license from the original licensor to copy, distribute or modify the Program subject to these terms and conditions. You may not impose any further restrictions on the recipients' exercise of the rights granted herein. You are not responsible for enforcing compliance by third parties to this License.

7.If as a consequence of a court judgment or allegation of patent infringement or for any other reason (not limited to patent issues), conditions are imposed on you (whether by court order, agreement or otherwise) that contradict the conditions of this License, they do not excuse you from the conditions of this License. If you cannot distribute so as to satisfy simultaneously your obligations under this License and any other pertinent obligations, then as a consequence you may not distribute the Program at all.

For example, if a patent license would not permit royalty-free redistribution of the Program by all those who receive copies directly or indirectly through you, then the only way you could satisfy both it and this License would be to refrain entirely from distribution of the Program. If any portion of this section is held invalid or unenforceable under any particular circumstance, the balance of the section is intended to apply and the section as a whole is intended to apply in other circumstances.

It is not the purpose of this section to induce you to infringe any patents or other property right claims or to contest validity of any such claims; this section has the sole purpose of protecting the integrity of the free software distribution system, which is implemented by public license practices. Many people have made generous contributions to the wide range of software distributed through that system in reliance on consistent application of that system; it is up to the author/donor to decide if he or she is willing to distribute software through any other system and a licensee cannot impose that choice.

This section is intended to make thoroughly clear what is believed to be a consequence of the rest of this License.

8.If the distribution and/or use of the Program is restricted in certain countries either by patents or by copyrighted interfaces, the original copyright holder who places the Program under this License may add an explicit geographical distribution limitation excluding those countries, so that distribution is permitted only in or among countries not thus excluded. In such case, this License incorporates the limitation as if written in the body of this License.

9.The Free Software Foundation may publish revised and/or new versions of the General Public License from time to time. Such new versions will be similar in spirit to the present version, but may differ in detail to address new problems or concerns.

Each version is given a distinguishing version number. If the Program specifies a version number of this License which applies to it and "any later version", you have the option of following the terms and conditions either of that version or of any later version published by the Free Software Foundation. If the Program does not specify a version number of this License, you may choose any version ever published by the Free Software Foundation.

10.If you wish to incorporate parts of the Program into other free programs whose distribution conditions are different, write to the author to ask for permission. For software which is copyrighted by the Free Software Foundation, write to the Free Software Foundation; we sometimes make exceptions for this. Our decision will be guided by the two goals of preserving the free status of all derivatives of our free software and of promoting the sharing and reuse of software generally.

NO WARRANTY

11.BECAUSE THE PROGRAM IS LICENSED FREE OF CHARGE, THERE IS NO WARRANTY FOR THE PROGRAM, TO THE EXTENT PERMITTED BY APPLICABLE LAW. EXCEPT WHEN OTHERWISE STATED IN WRITING THE COPYRIGHT HOLDERS AND/OR OTHER PARTIES PROVIDE THE PROGRAM "AS IS" WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. THE ENTIRE RISK AS TO THE QUALITY AND PERFORMANCE OF THE PROGRAM IS WITH YOU. SHOULD THE PROGRAM PROVE DEFECTIVE, YOU ASSUME THE COST OF ALL NECESSARY SERVICING, REPAIR OR CORRECTION.

12.IN NO EVENT UNLESS REQUIRED BY APPLICABLE LAW OR AGREED TO IN WRITING WILL ANY COPYRIGHT HOLDER, OR ANY OTHER PARTY WHO MAY MODIFY AND/OR REDISTRIBUTE THE PROGRAM AS PERMITTED ABOVE, BE LIABLE TO YOU FOR DAMAGES, INCLUDING ANY GENERAL, SPECIAL, INCIDENTAL OR CONSEQUENTIAL DAMAGES ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THE PROGRAM (INCLUDING BUT NOT LIMITED TO LOSS OF DATA OR DATA BEING RENDERED INACCURATE OR LOSSES SUSTAINED BY YOU OR THIRD PARTIES OR A FAILURE OF THE PROGRAM TO OPERATE WITH ANY OTHER PROGRAMS), EVEN IF SUCH HOLDER OR OTHER PARTY HAS BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

END OF TERMS AND CONDITIONS

How to Apply These Terms to Your New Programs

If you develop a new program, and you want it to be of the greatest possible use to the public, the best way to achieve this is to make it free software which everyone can redistribute and change under these terms.

To do so, attach the following notices to the program. It is safest to attach them to the start of each source file to most effectively convey the exclusion of warranty; and each file should have at least the "copyright" line and a pointer to where the full notice is found.

<One line to give the program's name and a brief idea of what it does.>

Copyright © 19yy <name of author>

This program is free software; you can redistribute it and/or modify it under the terms of the GNU General Public License as published by the Free Software Foundation; either version 2 of the License, or (at your option) any later version.

This program is distributed in the hope that it will be useful, but WITHOUT ANY WARRANTY; without even the implied warranty of MERCHANTABILITY or FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. See the GNU General Public License for more details.

You should have received a copy of the GNU General Public License along with this program; if not, write to the Free Software Foundation,Inc., 59 Temple Place, Suite 330, Boston, MA 02111-1307 USA

Also add information on how to contact you by electronic and paper mail.

If the program is interactive, make it output a short notice like this when it starts in an interactive mode:

Gnomovision version 69, Copyright © 19yy name of author
Gnomovision comes with ABSOLUTELY NO WARRANTY; for details type `show w'. This is free software, and you are welcome to redistribute it under certain conditions; type `show c' for details.

The hypothetical commands `show w' and `show c' should show the appropriate parts of the General Public License. Of course, the commands you use may be called something other than `show w' and `show c'; they could even be mouse-clicks or menu items – whatever suits your program.

You should also get your employer (if you work as a programmer) or your school, if any, to sign a "copyright disclaimer" for the program; if necessary. Here is a sample; alter the names:

Yoyodyne, Inc., hereby disclaims all copyright interest in the program `Gnomovision' (which makes passes at compilers) written by James Hacker.

<signature of Ty Coon>,1 April 1989 Ty Coon, President of Vice

This General Public License does not permit incorporating your program into proprietary programs. If your program is a subroutine library, you may consider it more useful to permit linking proprietary applications with the library. If this is what you want to do, use the GNU Library General Public License instead of this License.

ExhibitB

GNU LESSER GENERAL PUBLIC LICENSE Version 2.1, February 1999

[This is the first released version of the Lesser GPL. It also counts as the successor of the GNU Library Public License, version 2, hence the version number 2.1.]

Preamble

The licenses for most software are designed to take away your freedom to share and change it. By contrast, the GNU General Public Licenses are intended to guarantee your freedom to share and change free software – to make sure the software is free for all its users.

This license, the Lesser General Public License, applies to some specially designated software packages – typically libraries – of the Free Software Foundation and other authors who decide to use it. You can use it too, but we suggest you first think carefully about whether this license or the ordinary General Public License is the better strategy to use in any particular case, based on the explanations below.

When we speak of free software, we are referring to freedom of use, not price. Our General Public Licenses are designed to make sure that you have the freedom to distribute copies of free software (and charge for this service if you wish); that you receive source code or can get it if you want it; that you can change the software and use pieces of it in new free programs; and that you are informed that you can do these things.

To protect your rights, we need to make restrictions that forbid distributors to deny you these rights or to ask you to surrender these rights. These restrictions translate to certain responsibilities for you if you distribute copies of the library or if you modify it.

For example, if you distribute copies of the library, whether gratis or for a fee, you must give the recipients all the rights that we gave you. You must make sure that they, too, receive or can get the source code. If you link other code with the library, you must provide complete object files to the recipients, so that they can relink them with the library after making changes to the library and recompiling it. And you must show them these terms so they know their rights.

We protect your rights with a two-step method: (1) we copyright the library, and (2) we offer you this license, which gives you legal permission to copy, distribute and/ or modify the library.

To protect each distributor, we want to make it very clear that there is no warranty for the free library. Also, if the library is modified by someone else and passed on, the recipients should know that what they have is not the original version, so that the original author's reputation will not be affected by problems that might be introduced by others.

Finally, software patents pose a constant threat to the existence of any free program. We wish to make sure that a company cannot effectively restrict the users of a free program by obtaining a restrictive license from a patent holder. Therefore, we insist that any patent license obtained for a version of the library must be consistent with the full freedom of use specified in this license.

Most GNU software, including some libraries, is covered by the ordinary GNU General Public License. This license, the GNU Lesser General Public License, applies to certain designated libraries, and is quite different from the ordinary General Public License. We use this license for certain libraries in order to permit linking those libraries into non-free programs.

When a program is linked with a library, whether statically or using a shared library, the combination of the two is legally speaking a combined work, a derivative of the original library. The ordinary General Public License therefore permits such linking only if the entire combination fits its criteria of freedom. The Lesser General Public License permits more lax criteria for linking other code with the library.

We call this license the "Lesser" General Public License because it does Less to protect the user's freedom than the ordinary General Public License. It also provides other free software developers Less of an advantage over competing non-free programs. These disadvantages are the reason we use the ordinary General Public License for many libraries. However, the Lesser license provides advantages in certain special circumstances.

For example, on rare occasions, there may be a special need to encourage the widest possible use of a certain library, so that it becomes a de-facto standard. Toachieve this, non-free programs must be allowed to use the library. A more frequent case is that a free library does the same job as widely used non-free libraries. In this case, there is little to gain by limiting the free library to free software only, so we use the Lesser General Public License.

In other cases, permission to use a particular library in non-free programs enables a greater number of people to use a large body of free software. For example, permission to use the GNU C Library in non-free programs enables many more people to use the whole GNU operating system, as well as its variant, the GNU/Linux operating system.

Although the Lesser General Public License is Less protective of the users' freedom, it does ensure that the user of a program that is linked with the Library has the freedom and the wherewithal to run that program using a modified version of the Library.

The precise terms and conditions for copying, distribution and modification follow. Pay close attention to the difference between a "work based on the library" and a "work that uses the library". The former contains code derived from the library, whereas the latter must be combined with the library in order to run.

GNU LESSER GENERAL PUBLIC LICENSE TERMS AND CONDITIONS FOR COPYING, DISTRIBUTION AND MODIFICATION

0.This License Agreement applies to any software library or other program which contains a notice placed by the copyright holder or other authorized party saying it may be distributed under the terms of this Lesser General Public License (also called "this License"). Each licensee is addressed as "you".

A "library" means a collection of software functions and/ or data prepared so as to be conveniently linked with application programs (which use some of those functions and data) to form executables.

The "Library", below, refers to any such software library or work which has been distributed under these terms. A "work based on the Library" means either the Library or any derivative work under copyright law: that is to say, a work containing the Library or a portion of it, either verbatim or with modifications and/or translated straightforwardly into another language. (Hereinafter, translation is included without limitation in the term "modification".)

"Source code" for a work means the preferred form of the work for making modifications to it. For a library, complete source code means all the source code for all modules it contains, plus any associated interface definition files, plus the scripts used to control compilation and installation of the library.

Activities other than copying, distribution and modification are not covered by this License; they are outside its scope. The act of running a program using the Library is not restricted, and output from such a program is covered only if its contents constitute a work based on the Library (independent of the use of the Library in a tool for writing it). Whether that is true depends on what the Library does and what the program that uses the Library does.

1.You may copy and distribute verbatim copies of the Library's complete source code as you receive it, in any medium, provided that you conspicuously and appropriately publish on each copy an appropriate copyright notice and disclaimer of warranty; keep intact all the notices that refer to this License and to the absence of any warranty; and distribute a copy of this License along with the Library.

You may charge a fee for the physical act of transferring a copy, and you may at your option offer warranty protection in exchange for a fee.

2.You may modify your copy or copies of the Library or any portion of it, thus forming a work based on the Library, and copy and distribute such modifications or work under the terms of Section 1 above, provided that you also meet all of these conditions:

a) The modified work must itself be a software library.

b) You must cause the files modified to carry prominent notices stating that you changed the files and the date of any change.

c) You must cause the whole of the work to be licensed at no charge to all third parties under the terms of this License.

d) If a facility in the modified Library refers to a function or a table of data to be supplied by an application program that uses the facility, other than as an argument passed when the facility is invoked, then you must make a good faith effort to ensure that, in the event an application does not supply such function or table, the facility still operates, and performs whatever part of its purpose remains meaningful.
(For example, a function in a library to compute square roots has a purpose that is entirely welldefined independent of the application.

Therefore, Subsection 2d requires that any applicationsupplied function or table used by this function must be optional: if the application does not supply it, the square root function must still compute square roots.)

These requirements apply to the modified work as a whole. If identifiable sections of that work are not derived from the Library, and can be reasonably considered independent and separate works in themselves, then this License, and its terms, do not apply to those sections when you distribute them as separate works. But when you distribute the same sections as part of a whole which is a work based on the Library, the distribution of the whole must be on the terms of this License, whose permissions for other licensees extend to the entire whole, and thus to each and every part regardless of who wrote it.

Thus, it is not the intent of this section to claim rights or contest your rights to work written entirely by you; rather, the intent is to exercise the right to control the distribution of derivative or collective works based on the Library.

In addition, mere aggregation of another work not based on the Library with the Library (or with a work based on the Library) on a volume of a storage or distribution medium does not bring the other work under the scope of this License.

3.You may opt to apply the terms of the ordinary GNU General Public License instead of this License to a given copy of the Library. To do this, you must alter all the notices that refer to this License, so that they refer to the ordinary GNU General Public License, version 2, instead of to this License. (If a newer version than version 2 of the ordinary GNU General Public License has appeared, then you can specify that version instead if you wish.) Do not make any other change in these notices.

Once this change is made in a given copy, it is irreversible for that copy, so the ordinary GNU General Public License applies to all subsequent copies and derivative works made from that copy.

This option is useful when you wish to copy part of the code of the Library into a program that is not a library.

4.You may copy and distribute the Library (or a portion or derivative of it, under Section 2) in object code or executable form under the terms of Sections 1 and 2 above provided that you accompany it with the complete corresponding machine-readable source code, which must be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange.

If distribution of object code is made by offering access to copy from a designated place, then offering equivalent access to copy the source code from the same place satisfies the requirement to distribute the source code, even though third parties are not compelled to copy the source along with the object code.

5.A program that contains no derivative of any portion of the Library, but is designed to work with the Library by being compiled or linked with it, is called a "work that uses the Library". Such a work, in isolation, is not a derivative work of the Library, and therefore falls outside the scope of this License.

However, linking a "work that uses the Library" with the Library creates an executable that is a derivative of the Library (because it contains portions of the Library), rather than a "work that uses the library". The executable is therefore covered by this License. Section 6 states terms for distribution of such executables.

When a "work that uses the Library" uses material from a header file that is part of the Library, the object code for the work may be a derivative work of the Library even though the source code is not. Whether this is true is especially significant if the work can be linked without the Library, or if the work is itself a library. The threshold for this to be true is not precisely defined by law.

If such an object file uses only numerical parameters, data structure layouts and accessors, and small macros and small inline functions (ten lines or less in length), then the use of the object file is unrestricted, regardless of whether it is legally a derivative work. (Executables containing this object code plus portions of the Library will still fall under Section 6.)

Otherwise, if the work is a derivative of the Library, you may distribute the object code for the work under the terms of Section 6. Any executables containing that work also fall under Section 6, whether or not they are linked directly with the Library itself.

6.As an exception to the Sections above, you may also combine or link a "work that uses the Library" with the Library to produce a work containing portions of the Library, and distribute that work under terms of your choice, provided that the terms permit modification of the work for the customer's own use and reverse engineering for debugging such modifications.
You must give prominent notice with each copy of the work that the Library is used in it and that the Library and its use are covered by this License. You must supply a copy of this License. If the work during execution displays copyright notices, you must include the copyright notice for the Library among them, as well as a reference directing the user to the copy of this License. Also, you must do one of these things:

a) Accompany the work with the complete corresponding machine-readable source code for the Library including whatever changes were used in the work (which must be distributed under Sections 1 and 2 above); and, if the work is an executable linked with the Library, with the complete machine-readable "work that uses the Library", as object code and/or source code, so that the user can modify the Library and then relink to produce a modified executable containing the modified Library. (It is understood that the user who changes the contents of definitions files in the Library will not necessarily be able to recompile the application to use the modified definitions.)

b) Use a suitable shared library mechanism for linking with the Library. A suitable mechanism is one that (1) uses at run time a copy of the library already present on the user's computer system, rather than copying library functions into the executable, and (2) will operate properly with a modified version of the library, if the user installs one, as long as the modified version is interface-compatible with the version that the work was made with.

c) Accompany the work with a written offer, valid for at least three years, to give the same user the materials specified in Subsection 6a, above, for a charge no more than the cost of performing this distribution.

d) If distribution of the work is made by offering access to copy from a designated place, offer equivalent access to copy the above specified materials from the same place.

e) Verify that the user has already received a copy of these materials or that you have already sent this user a copy.

For an executable, the required form of the "work that uses the Library" must include any data and utility programs needed for reproducing the executable from it. However, as a special exception, the materials to be distributed need not include anything that is normally distributed (in either source or binary form) with the major components (compiler, kernel, and so on) of the operating system on which the executable runs, unless that component itself accompanies the executable.

It may happen that this requirement contradicts the license restrictions of other proprietary libraries that do not normally accompany the operating system. Such a contradiction means you cannot use both them and the Library together in an executable that you distribute.

7.You may place library facilities that are a work based on the Library side-by-side in a single library together with other library facilities not covered by this License, and distribute such a combined library, provided that the separate distribution of the work based on the Library and of the other library facilities is otherwise permitted, and provided that you do these two things:

a) Accompany the combined library with a copy of the same work based on the Library, uncombined with any other library facilities. This must be distributed under the terms of the Sections above.

b) Give prominent notice with the combined library of the fact that part of it is a work based on the Library, and explaining where to find the accompanying uncombined form of the same work.

8.You may not copy, modify, sublicense, link with, or distribute the Library except as expressly provided under this License. Any attempt otherwise to copy, modify, sublicense, link with, or distribute the Library is void, and will automatically terminate your rights under this License. However, parties who have received copies, or rights, from you under this License will not have their licenses terminated so long as such parties remain in full compliance.

9.You are not required to accept this License, since you have not signed it. However, nothing else grants you permission to modify or distribute the Library or its derivative works. These actions are prohibited by law if you do not accept this License. Therefore, by modifying or distributing the Library (or any work based on the Library), you indicate your acceptance of this License to do so, and all its terms and conditions for copying, distributing or modifying the Library or works based on it.

10.Each time you redistribute the Library (or any work based on the Library", the recipient automatically receives a license from the original licensor to copy, distribute, link with or modify the Library subject to these terms and conditions. You may not impose any further restrictions on the recipients' exercise of the rights granted herein. You are not responsible for enforcing compliance by third parties with this License.

11.If, as a consequence of a court judgment or allegation of patent infringement or for any other reason (not limited to patent issues), conditions are imposed on you (whether by court order, agreement or

otherwise) that contradict the conditions of this License, they do not excuse you from the conditions of this License. If you cannot distribute so as to satisfy simultaneously your obligations under this License and any other pertinent obligations, then as a consequence you may not distribute the Library at all. For example, if a patent license would not permit royalty-free redistribution of the Library by all those who receive copies directly or indirectly through you, then the only way you could satisfy both it and this License would be to refrain entirely from distribution of the Library.

If any portion of this section is held invalid or unenforceable under any particular circumstance, the balance of the section is intended to apply, and the section as a whole is intended to apply in other circumstances.

It is not the purpose of this section to induce you to infringe any patents or other property right claims or to contest validity of any such claims; this section has the sole purpose of protecting the integrity of the free software distribution system which is implemented by public license practices. Many people have made generous contributions to the wide range of software distributed through that system in reliance on consistent application of that system; it is up to the author/donor to decide if he or she is willing to distribute software through any other system and a licensee cannot impose that choice.

This section is intended to make thoroughly clear what is believed to be a consequence of the rest of this License.

12.If the distribution and/or use of the Library is restricted in certain countries either by patents or by copyrighted interfaces, the original copyright holder who places the Library under this License may add an explicit geographical distribution limitation excluding those countries, so that distribution is permitted only in or among countries not thus excluded. In such case, this License incorporates the limitation as if written in the body of this License.

13.The Free Software Foundation may publish revised and/or new versions of the Lesser General Public License from time to time. Such new versions will be similar in spirit to the present version, but may differ in detail to address new problems or concerns. Each version is given a distinguishing version number. If the Library specifies a version number of this License which applies to it and "any later version", you have the option of following the terms and conditions either of that version or of any later version published by the Free Software Foundation. If the Library does not specify a license version number, you may choose any version ever published by the Free Software Foundation.

14.If you wish to incorporate parts of the Library into other free programs whose distribution conditions are incompatible with these, write to the author to ask for permission. For software which is copyrighted by the Free Software Foundation, write to the Free Software Foundation; we sometimes make exceptions for this. Our decision will be guided by the two goals of preserving the free status of all derivatives of our free software and of promoting the sharing and reuse of software generally.

NO WARRANTY

15.BECAUSE THE LIBRARY IS LICENSED FREE OF CHARGE, THERE IS NO WARRANTY FOR THE LIBRARY, TO THE EXTENT PERMITTED BY APPLICABLE LAW. EXCEPT WHEN OTHERWISE STATED IN WRITING THE COPYRIGHT HOLDERS AND/ OR OTHER PARTIES PROVIDE THE LIBRARY "AS IS" WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. THE ENTIRE RISK AS TO THE QUALITY AND PERFORMANCE OF THE LIBRARY IS WITH YOU. SHOULD THE LIBRARY PROVE DEFECTIVE, YOU ASSUME THE COST OF ALL NECESSARY SERVICING, REPAIR OR CORRECTION.

16.IN NO EVENT UNLESS REQUIRED BY APPLICABLE LAW OR AGREED TO IN WRITING WILL ANY COPYRIGHT HOLDER, OR ANY OTHER PARTY WHO MAY MODIFY AND/OR REDISTRIBUTE THE LIBRARY AS PERMITTED ABOVE, BE LIABLE TO YOU FOR DAMAGES, INCLUDING ANY GENERAL, SPECIAL, INCIDENTAL OR CONSEQUENTIAL DAMAGES ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THE LIBRARY (INCLUDING BUT NOT LIMITED TO LOSS OF DATA OR DATA BEING RENDERED INACCURATE OR LOSSES SUSTAINED BY YOU OR THIRD PARTIES OR A FAILURE OF THE LIBRARY TO OPERATE WITH ANY OTHER SOFTWARE), EVEN IF SUCH HOLDER OR OTHER PARTY HAS BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

END OF TERMS AND CONDITIONS

How to Apply These Terms to Your New Libraries

If you develop a new library, and you want it to be of the greatest possible use to the public, we recommend making it free software that everyone can redistribute and change. You can do so by permitting redistribution under these terms (or, alternatively, under the terms of the ordinary General Public License).

To apply these terms, attach the following notices to the library. It is safest to attach them to the start of each source file to most effectively convey the exclusion of warranty; and each file should have at least the "copyright" line and a pointer to where the full notice is found.

<one line to give the library's name and a brief idea of what it does.>

Copyright © <year> <name of author>

This library is free software; you can redistribute it and/or modify it under the terms of the GNU Lesser General Public License as published by the Free Software Foundation; either version 2 of the License, or (at your option) any later version.

This library is distributed in the hope that it will be useful, but WITHOUT ANY WARRANTY; without even the implied warranty of MERCHANTABILITY or FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. See the GNU Lesser General Public License for more details.

You should have received a copy of the GNU Lesser General Public License along with this library; if not, write to the Free Software Foundation,Inc., 59 Temple Place, Suite 330, Boston, MA 02111-1307 USA

Also add information on how to contact you by electronic and paper mail.

You should also get your employer (if you work as a programmer) or your school, if any, to sign a "copyright disclaimer" for the library, if necessary. Here is a sample; alter the names: Yoyodyne, Inc., hereby disclaims all copyright interest in the library `Frob' (a library for tweaking knobs) written by James Random Hacker.

<signature of Ty Coon>,1 April 1990

Ty Coon,President of Vice

That's all there is to it!

ExhibitC

LICENSE ISSUES

The OpenSSL toolkit stays under a dual license, i.e. both the conditions of the OpenSSL License and the original SSLeay license apply to the toolkit.

See below for the actual license texts. Actually both licenses are BSD-style Open Source licenses. In case of any license issues related to OpenSSL please contact openssl-core@openssl.org.

OpenSSL License

Copyright (c) 1998-2002 The OpenSSL Project. All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.

2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

3. All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgment:

"This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit. (http://www.openssl.org/)"

4. The names "OpenSSL Toolkit" and "OpenSSL Project" must not be used to endorse or promote products derived from this software without prior written permission. For written permission, please contact openssl-core@openssl.org.

5. Products derived from this software may not be called "OpenSSL" nor may "OpenSSL" appear in their names without prior written permission of the OpenSSL Project.

6. Redistributions of any form whatsoever must retain the following acknowledgment:

"This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit (http:// www.openssl.org/)"

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE OpenSSL PROJECT "AS IS" AND ANY EXPRESSED OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE OpenSSL PROJECT OR ITS CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION)

HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

This product includes cryptographic software written by Eric Young (eay@cryptsoft.com). This product includes software written by Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com).

Original SSLeay License

Copyright (C) 1995-1998 Eric Young (eay@cryptsoft.com) All rights reserved.

This package is an SSL implementation written by

Eric Young (eay@cryptsoft.com).

The implementation was written so as to conform with Netscapes SSL.

This library is free for commercial and non-commercial use as long as the following conditions are aheared to. The following conditions apply to all code found in this distribution, be it the RC4, RSA, lhash, DES, etc., code; not just the SSL code. The SSL documentation included with this distribution is covered by the same copyright terms except that the holder is Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com).

Copyright remains Eric Young's, and as such any Copyright notices in the code are not to be removed.

If this package is used in a product, Eric Young should be given attribution as the author of the parts of the library used.

This can be in the form of a textual message at program startup or in documentation (online or textual) provided with the package.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.

2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

3. All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgement:

"This product includes cryptographic software written by Eric Young (eay@cryptsoft.com)"

The word 'cryptographic' can be left out if the rouines from the library being used are not cryptographic related :-).

4. If you include any Windows specific code (or a derivative thereof) from the apps directory (application code) you must include an acknowledgement:

"This product includes software written by Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com)"

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY ERIC YOUNG "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE AUTHOR OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

The licence and distribution terms for any publically available version or derivative of this code cannot be changed. i.e. this code cannot simply be copied and put under another distribution licence [including the GNU Public Licence.]

ExhibitD

●利用と配布

以下の条件が満たされる限り、変更の有無に関係なくソースおよびバイナリ形式での再配布と利用を許可します：

ソースコードの再配布には上記の著作権表示、これらの条項と後述の免責条項がそのまま含まれていなければなりません。バイナリ形式の再配布には上記の著作権表示、これらの条項と後述の免責条項が配布に含まれている文章、もしくはその他の資料にそのまま含まれていなければなりません。
このソフトウェアの機能や利用方法について記述されている全ての宣伝資料には以下の文章を記載して下さい：
　この製品には PPxP 開発チームによって開発されたソフトウェアが含まれています。

事前承諾なしにこのソフトウェアから派生した製品の推奨や宣伝のためにこのチームや賛同者達の名前を利用することはできません。

●免責
PPxP 開発チームが提供しているのはソフトウェアそのもののみであり、保証や責任などを提供しているわけではありません。このソフトウェアを導入したり、利用したりすることにより、あるいは何もしないことによって生じたいかなる問題についてもこのチーム、そのメンバー、テスター、および本ソフトウェア内に名前が記載されている者が責任を負うことはありません。

ExhibitE

This is a version (aka dlmalloc) of malloc/free/realloc written by Doug Lea and released to the public domain.
Use, modify, and redistribute this code without permission or acknowledgement in any way you wish. Send questions, comments, complaints,

performance data, etc to dl@cs.oswego.edu

VERSION 2.7.2 Sat Aug 17 09:07:30 2002 Doug Lea (dl at gee)

Note: There may be an updated version of this malloc obtainable at ftp://gee.cs.oswego.edu/pub/misc/malloc.c

Check before installing!

ExhibitF

under an open source software distribution license in 2000.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.

Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

Neither name of Intel Corporation nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS ``AS IS'' AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL INTEL OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

●意匠・仕様・ソフトウェアは製品改良のため予告なく変更することがあります。
●本商品は、ご愛用終了時に再資源化の一助としておもなプラスチック部品に材質名表示をしています。
※この製品には PPxP 開発チームによって開発されたソフトウェアが含まれています。
※この製品には OpenSSL プロジェクトによって開発されたソフトウェアが含まれています。
※この製品に含まれているソフトウェアをリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイル、分解またはその他の方法で解析、および変更することは禁止されています。

困ったときは

故障かな…？とお思いのときは、アフターサービスをご依頼になる前に、次の点をお調べください。
ネットdeナビなどのネット機能に関しては⇨20、43、46ページをご覧ください。

このようなとき	ここをお調べください
電源	
■電源がはいらない	• 電源プラグが抜けていませんか。 →電源プラグをしっかり差し込んでください。
テレビの接続	
■テレビの映像が出ない	• 本機とテレビをつなぐ接続コードが抜けている、または抜けかけていませんか。 →本機とテレビとのコードをしっかり差し直してください。 • テレビ側の入力切換が間違っていませんか。 →本機と接続している入力端子にテレビの入力切換を合わせてください。 • 「D2」、「D3」、「D4」出力に設定している場合、映像出力（黄）端子、S端子からは映像が出力されません。 →「解像度切換」を押して、出力を切り換えてください。（⇨接続・設定編19ページ）
テレビの受信	
■テレビが映らない	• アンテナ線がはずれている、またははずれかけていませんか。 →アンテナ線をしっかり差し直してください。
■テレビがきれいに映らない	• チャンネルの設定またはチャンネルの調整がずれていませんか。 →チャンネルの設定またはチャンネル微調整を再設定してください。（⇨接続・設定編36、37ページ） • 電波が弱くありませんか。 →アンテナの設置方向を調整するか、市販のアンテナブースターを使用してください。
デジタル放送全般	
■デジタル放送だけ映らない/映りが悪い	• 電波の種類（BS、110度CS、地上デジタル）に適合したアンテナを使用していますか。 →⇨接続・設定編17ページをご覧ください。 • アンテナ線がはずれている、またははずれかけていませんか。 →アンテナ線をしっかり差し直してください。 • アンテナの向きがずれていませんか。 →アンテナの向きを調整してください。 • B-CASカードが正しく挿入されていますか。 →⇨接続・設定編32ページをご覧ください。 • 積雪や豪雨、雷などで電波が弱くなっていませんか。 →気象状況が改善されるまでお待ちください。降雨対応放送の場合、映像の品質は通常に比べて悪くなります。
■未読の「お知らせ」がなくなっている	• 「放送局からのお知らせ」、「本機に関するお知らせ」については、最大数を超えて受信した場合は削除されることがあります。（詳しくは⇨61ページをご覧ください。） • 「ボード」については、そのとき受信したものしか表示されません。 • 「設定を出荷時に戻す」を行なうと、お知らせの内容は削除されます。
■有料放送が視聴できない	• B-CASカードは正しく挿入されていますか。 →⇨接続・設定編32ページをご覧ください。

このようなとき	ここをお調べください
番組データの受信	
■「番組データダウンロード」でiNETからADAMSに切り換えられない	• 「おすすめサービス」を「利用する」に設定していませんか。 →「おすすめサービス」を「利用する」に設定していると、ADAMSからiNETには切り換えられますが、iNETからADAMSには切り換えられなくなります。 「おすすめサービス」を「利用しない」に設定してください。 （操作編124ページ）
■特定のチャンネルの映像や音声がでない	• アンテナとの接続にデジタル放送に非対応のケーブルなどを使用していませんか。 →デジタル放送に対応したアンテナケーブルなどをご使用ください。 • 携帯電話など本機の受信周波数帯域に相当する周波数を使用している機器の影響によって、映像や音声が出なくなる場合があります。 →デジタル放送に対応したアンテナケーブルなどをご使用ください。
■引越しをしたら、データ放送や文字スーパー表示が表示されなくなった	• データ放送用の地域設定は正しいですか？ →「郵便番号と地域の設定」（接続・設定編58ページ）を行なってください。
■暗証番号を忘れてしまった（パレンタルロック・カギ付きフォルダ以外）	• 暗証番号を忘れた場合の消去は有償になります。 暗証番号を忘れた場合は、「RDシリーズサポートダイヤル（裏表紙）」にご連絡ください。
地上デジタル放送の受信など	
■地上デジタル放送が受信できない	• 地上デジタル放送用アンテナは正しく接続されていますか。 →接続・設定編16ページをご覧ください。 • アンテナの方向は正しいですか。 →アンテナレベルの数値が小さい場合は、アンテナの方向調整をしてください。（接続・設定編54ページ） • B-CASカードは正しく挿入されていますか。 →接続・設定編32ページをご覧ください。 • 初期スキャンを行ないましたか。 →接続・設定編38ページをご覧ください。 • 放送は行なわれていますか。 →地上デジタル放送が行なわれているかを、もよりの放送局にお問い合わせください。 • 共聴システムご使用の場合、共聴システムは地上デジタル放送に対応(パススルー方式)になっていますか。 →CATVの場合は、ご契約のCATV会社に、その他の場合は共聴システムの管理者にお問合せください。
■引越しをしたら、地上デジタル放送が受信できなくなった	• 県外に引っ越した場合は、「初期スキャン」（接続・設定編38ページ）を行なってください。 • 県内で引っ越した場合は、「再スキャン」（接続・設定編40ページ）を行なってください。 • 上の「地上デジタル放送が受信できない」をご確認ください。
■地上Dアンテナレベル画面では受信できるチャンネルがそれ以外のときには受信できない	• 「再スキャン」（接続・設定編40ページ）を行なってください。
■イーサネット通信ができない（LAN端子を使った双方向通信サービスができない）	• LAN端子は正しく接続されていますか。 →11ページをご覧ください。

このようなとき	ここをお調べください
■ダイヤルアップ通信ができない	• 電話回線は正しく接続されていますか。 →接続・設定編23ページをご覧ください。 • 「通信接続方法選択」を「イーサネット優先」に設定していますか。 →14ページをご覧ください。
■通信速度が遅い、不安定	• 接続ケーブルが長すぎる場合、通信速度が遅くなることがあります。 • 接続機器の使用状況によっては、通信速度が遅くなる場合があります。（データ量が多い場合など） • イーサネット通信の場合、通信環境によるもの（ADSLの場合、電話局から遠いなど）ではありませんか。 • 回線が混んでいると、通信速度が遅くなることがあります。
再生	
■DVDやCDの再生ができない	• 記録されているフォーマットが未対応、または、本機で再生できるリージョン番号でないディスクではないですか。 →ディスクを確認する。 • ディスクによごれまたは傷が付いていませんか。 →ディスクのよごれを取る、または交換する。 • 内蔵HDDモードになっていませんか。 →「DVD」ボタンを押す。
■市販のDVDを再生しているときに音声ボタンを押しているのに音声が日本語に切り替わらない	• DVDビデオに日本語の音声が入っているかどうかご確認ください。 →日本語の音声が入っているのにもかかわらず、リモコンの音声/音多ボタンを何度か押しても切り替わらないのであればDVD側のメニュー画面から音声を切り替えてください。 ※音声ボタンでの切換えはディスクによっては制限されている場合があります。
■内蔵HDDが再生できない	• DVDモードになっていませんか。 →「HDD」ボタンを押す。
■再生中に、不自然なブロックノイズが見えるときがある	• 以下の場合に発生することがありますが、故障ではありません。 －元の映像にブロックノイズがすでにある状態での録画の場合 －天候などによって、受信状態が悪化した状態での録画の場合 －画像レート設定が低い状態での録画の場合 －画面の激しい変化に映像処理が対応できない場合 －ディスク上の物理エラーによる場合 （なお、内蔵HDDの寿命によって大量に発生する場合は内蔵HDDの交換が必要です。販売店または「東芝家電修理ご相談センター」にご相談ください。） 再生でディスクからデータを読み出すときにエラーが発生すると、その部分でブロック状のノイズ（ブロックノイズ）が発生する場合があります。 この現象は、エラーが発生した部分を何度もくり返して読み出す(リトライ)と起こりにくくなりますが、そのかわりに再生が途中で遅くなったりとまったりする可能性が高くなるので、本機ではエラー発生時の読み直し回数を制限して、そのときの再生が遅れたり止まったりしないようにしています。

このようなとき	ここをお調べください
■タイトルの削除方法を知りたい	→以下の方法をご参考にしてください。 ①見るナビを表示していただき、削除したいタイトルにカーソルを合わせます。 ②リモコンのクイックメニューを押して「タイトル削除」を選び「決定」ボタンを押します。 ③削除確認メッセージが画面上に出てきます。選択肢で「はい」を選んで「決定」ボタンを押すと、タイトルは削除されます。 ※一度削除したタイトルは元に戻すことができません。よく確認を行なった後に削除してください。 上記の方法以外にも、複数のタイトルを削除する方法(「一括削除」 操作編158ページ)があります。
■DVD-Videoディスク挿入時に放送内容の番組説明が表示できない	• 市販の DVD-Video ソフトやフィナライズ済みの DVD-R/RW（Videoモード)ディスク挿入時は、DVDドライブ側で、「モード」「番組説明」「戻る」のボタンはそれぞれ「トップメニュー」「メニュー」「リターン」として動作します。 →停止中に放送画面の番組説明を表示するときは、HDDドライブに切り換えてください。
■作成したDVD-Videoディスクの番組説明が表示できない	→本機で作成したディスクの番組説明を表示するには、見るナビや編集ナビ画面を表示し、特定のタイトルにカーソルを合わせた状態で「番組説明」ボタンを押してください。
■録画したはずのタイトルが「見るナビ」で表示されない	• 自動削除機能で削除された可能性があります。 →自動で削除されないようにするには、タイトルを保護してください。(操作編71ページ) なお、録画予約の際に「自動削除」を「しない」に設定しておけば、タイトルが自動削除されることはありません。
録画	
■予約録画終了後に電源が切れるようにしたい	→電源が待機状態で予約録画が始まった場合、終了時刻に何も作業をしていないと自動的に電源が切れます。 電源が入っている場合は、録画中に「クイックメニュー」を押して、「録画終了時刻／電源設定」という項目を選び、「決定」ボタンを押すと、終了後電源「切る」と出てきますのでそのまま「決定」ボタンを押してください。 これで設定完了です。※設定をしていても、録画終了時刻に再生動作や編集などの操作をしていると電源が切れません。
■DVD-RAMに録画ができない	• ディスクに誤消去防止がされていませんか。 →ディスクのライトプロテクトタブを「PROTECT」の反対側にしてください。(操作編46ページ) • ディスクにソフトプロテクトが設定されていませんか。 →ディスクのソフトプロテクトを解除してください。(操作編178ページ) • パソコンやDVDレコーダーでディスクにプロテクトがかけられていませんか。 →設定した機器でプロテクトを解除してください。 • ディスクの空き容量が足りなくなっていませんか。 →不要な部分を消去するか(操作編69、158ページ)、または新たなディスクを準備してください。 • ディスクの初期化をすると、問題が解決される場合があります。 →ディスクを初期化する(操作編54ページ) →DVD-RAM物理フォーマットをする(操作編55ページ)

このようなとき	ここをお調べください
■内蔵HDDに録画ができない	• DVDモードになっていませんか。 →「HDD」ボタンを押してください。 • 内蔵HDDの空き容量が足りなくなっていませんか。 →不要な部分を消去するか(操作編69、158ページ)、またはDVD-RAMなどに移動してください(操作編162ページ)。 →「設定メニュー」「管理設定」の「HDD記録領域設定」で内蔵HDD内の容量の設定を変更することで、空き容量が増やせる場合もあります。(操作編59ページ) • 停電などでディスクに保護がかかっていませんか。 →必要な部分をDVD-RAMなどにコピー後、HDDの初期化(全削除)をしてください。
■DVD-R/RW(VRモード)に録画ができない	• ディスクにソフトプロテクトが設定されていませんか。 →ディスクのソフトプロテクトを解除してください。(操作編178ページ) • パソコンや他社機でディスクにプロテクトがかけられていませんか。 →設定した機器でプロテクトを解除してください。（DVD-RWの場合） • ディスクの空き容量が足りなくなっていませんか。 →不要な部分を消去するか(DVD-RWの場合)（操作編69、158ページ)、または新たなディスクを準備してください。 • ディスクの初期化をすると、問題が解決される場合があります。（DVD-RWの場合） →ディスクを初期化する(操作編54ページ) • コピーワンス放送を録画できるディスクですか? →HDDとCPRM対応のVRモードで初期化されたDVD-R/RW、CPRMに対応したDVD-RAMであれば録画可能です。 また、HDDに録画したタイトルは上記の録画可能なDVDに一度だけ移動することも可能ですが、DVDからHDDに移動する事はできません。
■予約録画を止めたい	• ナビ画面などがテレビ画面に表示されていませんか。 →ナビ画面などが出ていると停止ボタンを押しても止まりません。 • 現在HDDとDVDのどちらが選ばれていますか。 →HDDに録画しているのであればHDD、DVDに録画しているのであればDVDを押してください。 リモコンの「TS ／ VR」または本体の「TS」／「R1」／「R2」を押して、録画をしているW録(TS ／ R1 ／ R2)に切り換えてください。 その後に本体またはリモコンの「■」停止を1回押すと停止します(一度押すとメッセージが表示されますので、そのメッセージに従ってください)。
ダビング	
■DVD-R/RW(Videoモード)にダビングができない	• ダビングしたいタイトルが以下の条件にあてはまるときは、DVD-R/RW（Videoモード)にはダビングできません。 ①選択したパーツがTS録画されたデジタル放送タイトル ②Videoモードでは記録できない解像度で録画されたタイトル ③コピーが禁止されたタイトル ④DVD互換を「切」で録画した音声多重放送(二カ国語放送など)のタイトルDVD互換を「切」で録画した音声多重放送のタイトルや、Videoモードでは記録できない解像度で録画されたタイトルなどは、「入(主)」または「入(副)」に設定したあと、HDD内にダビング(コピー)してDVD-R/RW(Videoモード)にダビングできるパーツを作成します。

このようなとき	ここをお調べください
■PAL方式 のビデオテープを HDD にダビングできない	→本機では PAL方式 の入力信号をダビングすることはできません。録画およびダビング可能な信号方式は日本国内で標準の NTSC方式 だけとなっております。
予約	
■録画予約ができない	• 時計の時刻設定はしていますか。 →時刻設定をしてください(⇨接続・設定編31ページ) • 予約内容がいっぱいになっていませんか。 →不要な予約を取り消してください(⇨操作編107ページ)
リモコン	
■リモコンがきかない	• リモコンの電池が消耗していませんか。 →電池を交換してください。(⇨接続・設定編29ページ) • リモコンが受光部に向けられていない。 →リモコン送信部を本機受光部に向けて操作してください。 • リモコンと受光部が遠すぎる。 →約7m以内のところで操作してください。 • リモコンと受光部の間に障害物がある。 →障害物を取り除いてください。 • リモコンモードが合っていない。 →本機とリモコンのリモコンモードを合わせてください。 (⇨接続・設定編68ページ) • 本機がリモコンオフモードになっている。 →リモコンオフモードを解除してください。(⇨接続・設定編68ページ) • キーコードが違っていませんか。 →数字などはリモコンの「シフト」ボタンと一緒に押してみてください。 リモコンの「シフト」ボタンを利用する必要がある主なケース – タイトル再生時、1/20分割ジャンプやワンタッチスキップ/リプレイをしたいときに、左右カーソル移動や左右ページ移動などが動作してしまう場合。 →「シフト」ボタンを押しながら、目的の操作ボタンを押します。 – ヘルプ画面を表示したいとき。 →停止中に、「シフト」ボタンを押しながら「表示切換/ヘルプ」ボタンを押します。 – 文字入力画面で、入力した文字を全削除するとき。 – 本機を通してテレビ放送を視聴中に、直接チャンネル番号を入力してチャンネルを切り換える場合。 – 「チャンネル番号入力」ボタンを使わずに、直接チャンネル番号を入力したい場合。 • シフトロックしていませんか。 →シフトボタンを3秒以上押してから操作してみてください。(⇨操作編19ページ)
時計	
■時計表示が「0:00」で点滅している	• 販売店または「東芝家電修理ご相談センター」にご連絡ください。

このようなとき	ここをお調べください
その他	
■本機が操作中に止まってしまい、15分以上何も動作せず、本体やリモコンのボタンに反応しなくなった	• 本体の「電源」ボタンを約10秒間押し続けると、強制的に電源を切ることができます。ただし、非常時のための機能であり、データやディスク自体に障害が出る可能性が高いので、この機能を使用されるときは、十分注意していただくとともに、頻繁に行なわないでください。正常な動作中、特に「読込み中」、「処理中」のアイコンの表示中などに行なうと、ディスクを初期化しなければならなくなる場合があります。

■ アフターサービスをご依頼になる前に

本機を修理に出す前には、内蔵 HDD の内容とライブラリ情報を DVD-RAM にダビングし、バックアップしてください。修理の際に内蔵 HDD の記録内容が消える場合があります。内蔵 HDD が異常になった場合でも、再生できるものはダビングしてください。修理の依頼をされるときは、付属の診断カルテへの記入をお願いします。なお、破損・消失した記録内容の復旧はできませんので、あらかじめご了承ください。

4 総合さくいん

数字・アルファベット順

あいうえお順

あ

か

さ

た

な

は

ま

商品の保証とアフターサービス

必ずお読みください。

保証書（別添）

保証書は、必ず「お買い上げ日・販売店名」などの記入をお確かめのうえ、販売店から受け取っていただき内容をよくお読みのあと、たいせつに保管してください。

補修用性能部品について

当社は、HDD&DVDビデオレコーダーの補修用性能部品を製造打ち切り後、8年保有しています。
補修用性能部品とは、その商品の機能を維持するために必要な部品です。
修理のために取りはずした部品は、特段のお申し出がない場合は弊社で引き取らせていただきます。
修理の際、弊社の品質基準に適合した再利用部品を使用することがあります。

保証期間
お買い上げ日から1年間です。ただし、業務用にご使用の場合、あるいは特殊使用の場合は、保証期間内でも「有料修理」とさせていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

修理を依頼されるときは～出張修理

異常のあるときは、使用を中止し、必ず電源プラグを抜いてから、お買い上げの販売店にご連絡ください。

保証期間中は

商品の修理に際しましては保証書をご提示ください。
保証書の規定にしたがって販売店が修理させていただきます。

ご連絡していただきたい内容	
品名	HDD&DVDビデオレコーダー
形名	RD-X6
お買い上げ日	年　月　日
故障の状況	できるだけ具体的に
ご住所	付近の目印なども合わせてお知らせください
お名前	
電話番号	
便利メモ お買い上げ店名	☎（　）　ー

お客様へ…おぼえのため、お買い上げ店名を記入すると便利です。

保証期間が過ぎているときは

商品を修理すれば使用できる場合には、ご希望によって有料で修理させていただきます。

修理料金の仕組み	
技術料	故障した商品を正常に修復するための料金です。
＋	
部品代	修理に使用した部品代金です。
＋	
出張料	商品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。

商品の修理サービスはお買い上げの販売店がいたします。

■ 修理・お取扱い・お手入れについてのご相談ならびにご依頼はお買い上げの販売店にお申し付けください。

上記以外で、転居されたり、ご贈答品などで販売店に修理のご相談ができない場合

『東芝家電修理ご相談センター』

フリーダイヤル **0120-1048-41**（トウシバ　ヨイ）

電話受付：365日・24時間受付

（※フリーダイヤルは携帯電話・PHSなど一部の電話ではご利用になれません。）

※携帯電話・PHSからのご利用は

東日本地区（北海道、東北、関東、甲信越、東海、沖縄県）044-543-0220（通話料がかかります）
西日本地区（上記以外）06-6440-4411（通話料がかかります）

■新商品などの商品選びや、初期導入などよく使われる機能に関する取扱い方法および編集やネットワークなどの高度な取り扱い方法などのご相談については裏表紙をご覧ください。